MAZDA BONGO

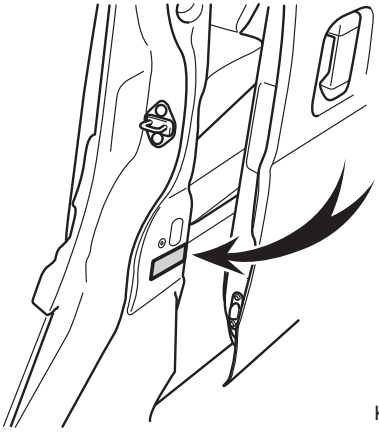
取扱書

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	2NR 型エンジン
総排気量	1494cc
車体色（番号）	
トランスミッション	●オートマチックトランスミッション ●マニュアルトランスミッション

ネームプレートは助手席ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



KBGR050001

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと
2 計器の見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4 運転　運転に必要な操作やアドバイス
5 室内装備・機能　室内装備の使い方など
6 お手入れのしかた　お車のお手入れ・メンテナンスの方法
7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処
8 車両情報　お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
症状から検索
音から検索
アルファベットで検索
五十音で検索

知っておいていただきたいこと …… 6
本書の見方 …… 10
検索のしかた …… 11
イラスト目次 …… 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 20
安全なドライブのために …… 22
シートベルト …… 24
SRS エアバッグ …… 29
排気ガスに対する注意 …… 34

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 35
チャイルドシート …… 36

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム …… 39

2 計器の見方

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 42
計器類 …… 47
マルチインフォメーションディスプレイ …… 49

3 各部の操作

3-1. キー
キー …… 56

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ワイヤレスリモコン …… 58
フロントドア …… 59
スライドドア …… 62
バックドア …… 66

3-3. シートの調整
フロントシート …… 70
リヤシート …… 72
ヘッドレスト …… 74
ルームセパレーターバー …… 76

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 77
インナーミラー …… 78
ドアミラー …… 79
補助確認装置 …… 80

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 82
手動式ウインドウ …… 85

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 88
荷物を積むときの注意 …… 98

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ …… 100
オートマチックトランスミッション車の運転 …… 103
マニュアルトランスミッション車の運転 …… 106
方向指示レバー …… 108
パーキングブレーキ …… 109

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 110
オートハイビーム …… 114
フォグランプスイッチ …… 118
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）…… 119
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）…… 121

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 123

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト …… 127
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 136
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 146
車線逸脱警報機能 …… 154
先行車発進お知らせ機能 … 158
アイドリングストップシステム（eco IDLE）…… 160
コーナーセンサー …… 170
センターデフロック …… 176
運転を補助する装置 …… 178

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 184

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
マニュアルエアコン …… 190
リヤヒーター …… 195
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 196
5-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 198
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 202

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 206
内装のお手入れ …… 210
6-2. 簡単な点検・部品交換
エンジン点検口 …… 213
ボンネット …… 216
ガレージジャッキ …… 219
エンジンオイルについて … 220
ウォッシャー液の補充 …… 221
タイヤについて …… 223
タイヤ空気圧について …… 226
エアコンフィルターの交換 …… 228
ワイパーゴムの交換 …… 230
キーの電池交換 …… 234
ヒューズの点検・交換 …… 237
電球（バルブ）の交換 …… 240

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは …… 252
非常点滅灯（ハザードランプ）…… 253
発炎筒 …… 254
車両を緊急停止するには … 256
水没・冠水したときは …… 257
車中泊が必要なときは …… 258
7-2. 緊急時の対処法
けん引について …… 259
フューエルポンプシャットオフシステム …… 265
警告灯がついたときは …… 266
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 271
パンクしたときは …… 272
エンジンがかからないときは …… 283
バッテリーがあがったときは …… 284
オーバーヒートしたときは …… 287
スタックしたときは …… 290

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 292
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 297
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 …… 300

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） …… 302
お車から音が鳴ったときは（音さくいん） …… 305
アルファベット順さくいん …… 306
五十音順さくいん …… 307

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

マツダ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

●マツダが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

●車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

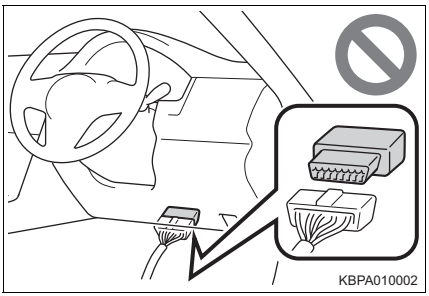
●次の場合はマツダ販売店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取り外し
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては P. 9 も参照してください。

●フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

マツダおよびマツダが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、マツダおよびマツダが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうマツダは、マツダ株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

●車両の各システムの作動状況

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。マツダに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、マツダは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- マツダが訴訟で使用する場合

ただし、マツダは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうマツダは、マツダ株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

●EFI※ コンピューター

●スマートアシスト

●VSC

●SRS エアバッグ

●シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずマツダ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をマツダ販売店にてご提供します。

※ "EFI" はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

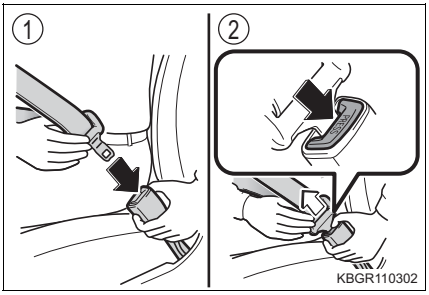
警告 お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

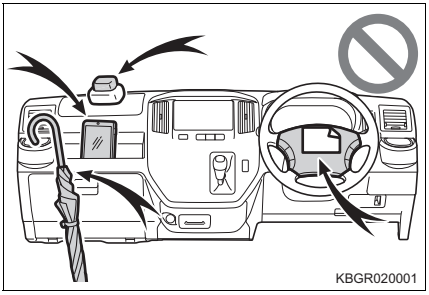
➡:押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

⇨:ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➘:説明の対象となるもの・場所を示しています。

⃠:“してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。

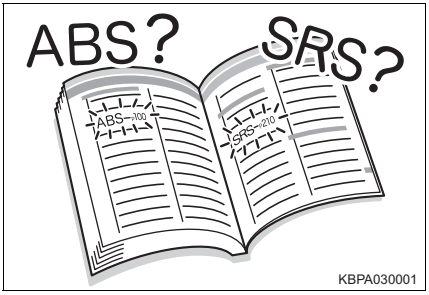


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

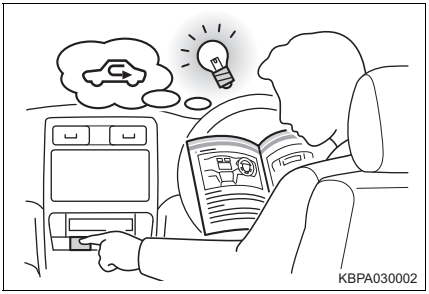
▶名称から探す

- 五十音順さくいん …… 307
- アルファベット順さくいん …… 306



▶取り付け位置から探す

- イラスト目次 …… 12



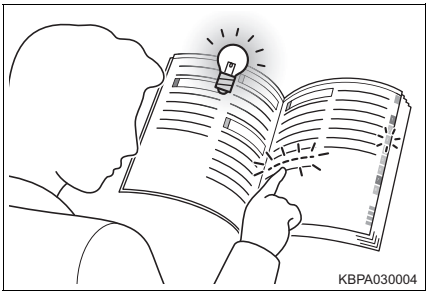
▶症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん） …… 302
- お車から音が鳴ったときは（音さくいん） …… 305



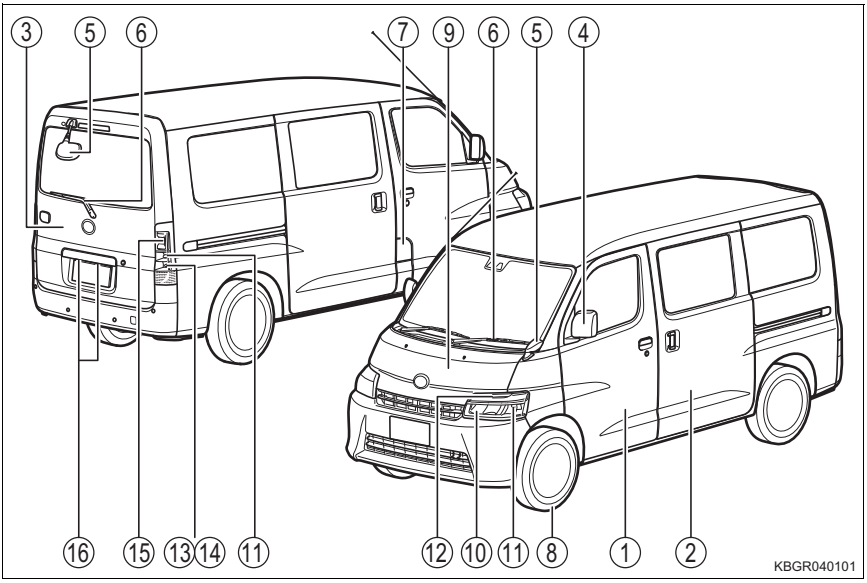
▶タイトルから探す

- 目次 …… 2



イラスト目次

外観



① ドア ……P. 59
施錠／解錠 ……P. 59
ドアガラスの開閉 …… P. 82, 85
キーでの施錠／解錠 ……P. 59
警告灯 …… P. 266
② スライドドア ……P. 62
施錠／解錠 ……P. 62
ドアガラスの開閉 ……P. 85
スライドドアの開閉 ……P. 62
警告灯 …… P. 266
③ バックドア ……P. 66
施錠／解錠 ……P. 66
警告灯 …… P. 266
④ ドアミラー ……P. 79
鏡面の角度調整 ……P. 79
ミラーの格納 ……P. 79

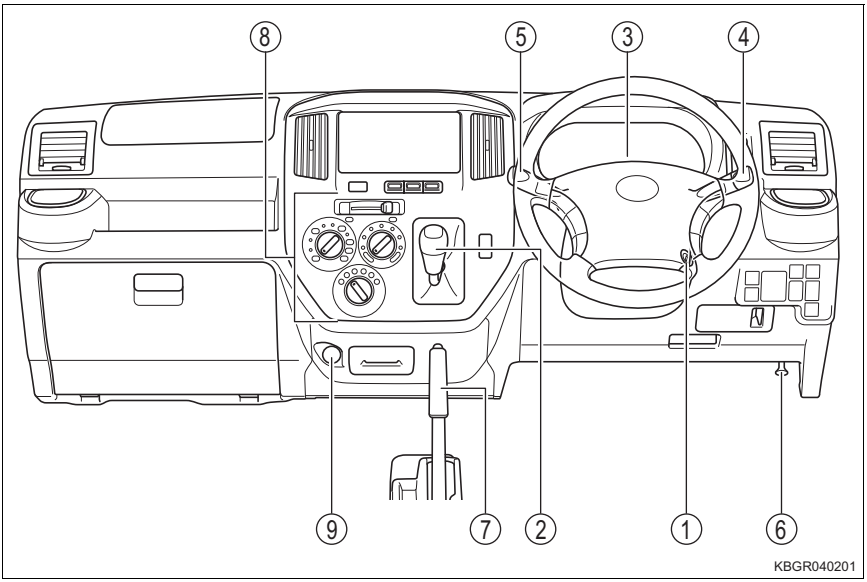
⑤ **補助確認装置** ……P. 80
⑥ **ワイパー** …… P. 119, 121
冬季の注意 …… P. 184
ワイパーゴムの交換 …… P. 230
⑦ **給油口** …… P. 123
給油方法 …… P. 123
燃料の種類・燃料タンク容量 …… P. 292
⑧ **タイヤ** …… P. 223
サイズ・空気圧 …… P. 296
冬用タイヤ・タイヤチェーン …… P. 184
点検・ローテーション …… P. 223
パンク時の対処 …… P. 272
⑨ **ボンネット** …… P. 216
開け方 …… P. 216
オーバーヒート時の対処 …… P. 287

走行にかかわる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 240, ワット数：P. 296）

⑩ **ヘッドランプ** …… P. 110
⑪ **方向指示灯** …… P. 108
⑫ **車幅灯** …… P. 110
⑬ **リヤフォグランプ★** …… P. 118
⑭ **後退灯**
シフトポジションをRにする …… P. 103, 106
⑮ **尾灯** …… P. 110
⑯ **番号灯** …… P. 110

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル

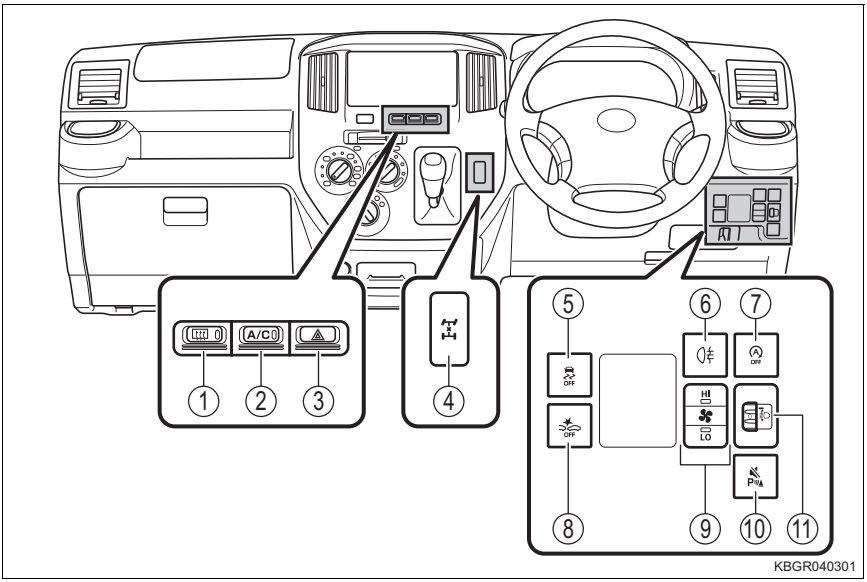


① エンジンスイッチ …… P. 100
エンジンの始動・モード切り替え …… P. 100
エンジンの緊急停止 …… P. 256
エンジンが始動できないときの対処 …… P. 283
② シフトレバー …… P. 103, 106
シフトポジションの切り替え …… P. 103, 106
けん引時の注意 …… P. 259
シフトレバーが動かないときの対処★ …… P. 104
③ メーター …… P. 42
見方 …… P. 47
警告灯／表示灯 …… P. 42
警告灯点灯時の対処 …… P. 266
マルチインフォメーションディスプレイ …… P. 49
表示内容 …… P. 49

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ **方向指示レバー** …… **P. 108**
ランプスイッチ …… **P. 110**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など …… P. 110
⑤ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** …… **P. 119, 121**
使い方 …… P. 119, 121
ウォッシャー液の補充 …… P. 221
⑥ **ボンネット解除レバー** …… **P. 216**
⑦ **パーキングブレーキ** …… **P. 109**
かける・解除する …… P. 109
冬季の注意 …… P. 184
警告ブザー …… P. 269
⑧ **エアコン** …… **P. 190**
操作方法 …… P. 190
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）…… P. 191
⑨ **アクセサリーソケット** …… **P. 203**

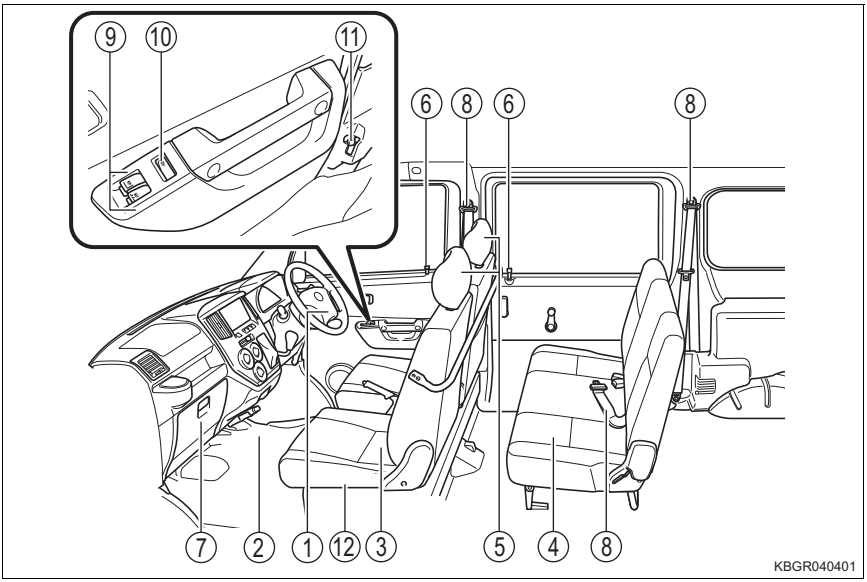
スイッチ類



① リヤウインドウデフォッガースイッチ …… P. 191
② A/C スイッチ …… P. 190
③ 非常点滅灯スイッチ …… P. 253
④ センターデフロックスイッチ★ …… P. 176
⑤ VSC・TRC OFF スイッチ …… P. 179
⑥ リヤフォグランプスイッチ★ …… P. 118
⑦ eco IDLE OFF スイッチ …… P. 161
⑧ スマートアシスト OFF スイッチ …… P. 130
⑨ リヤヒータースイッチ★ …… P. 195
⑩ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ …… P. 171
⑪ 手動光軸調整ダイヤル …… P. 111

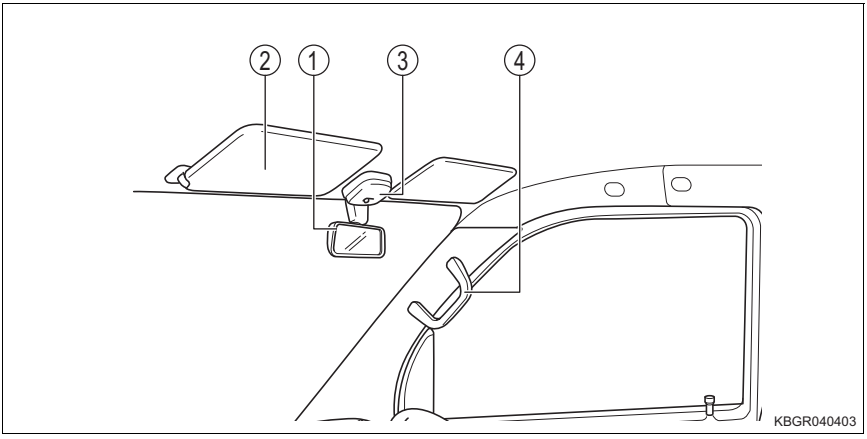
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内



① SRS エアバッグ……P. 29
② フロアマット……P. 20
③ フロントシート……P. 70
④ リヤシート……P. 72
⑤ ヘッドレスト……P. 74
⑥ ロックボタン……P. 60
⑦ グローブボックス……P. 199
⑧ シートベルト……P. 24
⑨ パワーウインドウスイッチ★……P. 82
⑩ ウインドウロックスイッチ★……P. 82
⑪ 給油扉オープナー……P. 125
⑫ エンジン点検口……P. 213
エンジンオイル……P. 292

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラー ……P. 78
② サンバイザー※ …… P. 202
③ ルームランプ …… P. 196
④ アシストグリップ …… P. 204

※助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。（→ P. 36）



安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 20
安全なドライブのために …… 22
シートベルト …… 24
SRS エアバッグ …… 29
排気ガスに対する注意 …… 34
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 35
チャイルドシート …… 36
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム …… 39

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

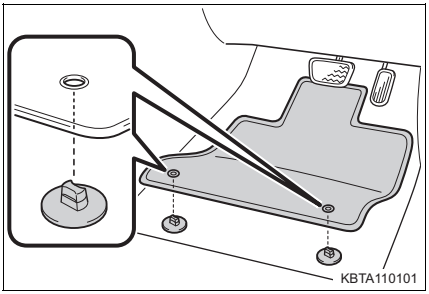
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、マツダ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

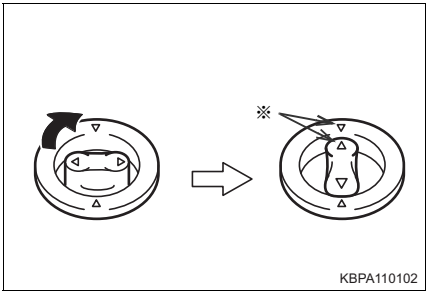
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

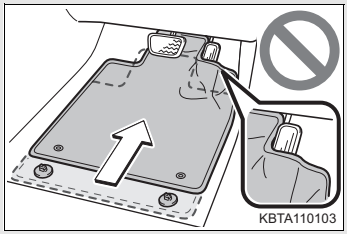
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●マツダ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチックトランスミッション車）またはN（マニュアルトランスミッション車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

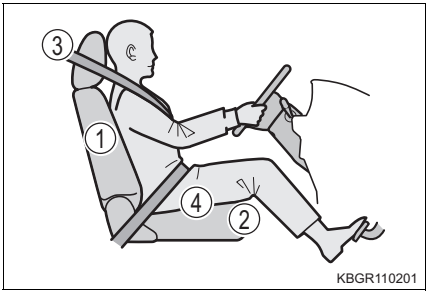
正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 70）

② ペダルをしっかり踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 70）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 74）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 24）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 24）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 78, 79）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

▶3 点式シートベルト

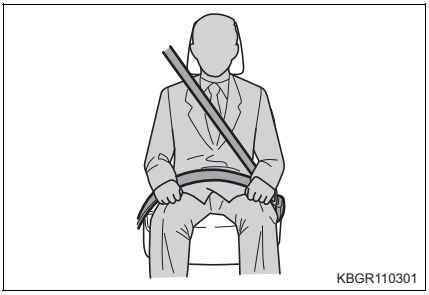
●肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩から外れないようにしてください。

●腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

●背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

●ねじれがないようにする

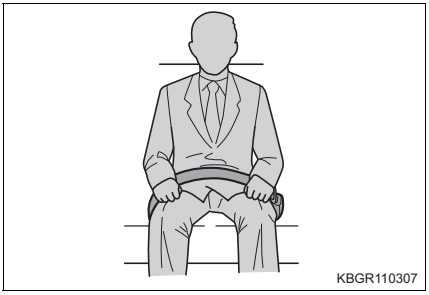

KBGR110301

▶2 点式シートベルト

●腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

●上体を起こし、深く腰かけて座る

●ねじれがないようにする

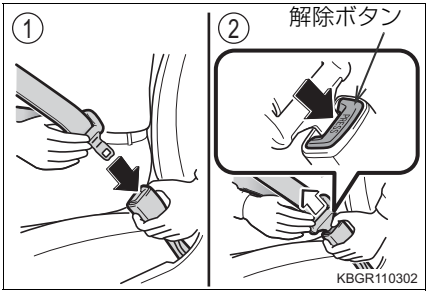

KBGR110307

着け方・外し方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに差し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

3点式シートベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。

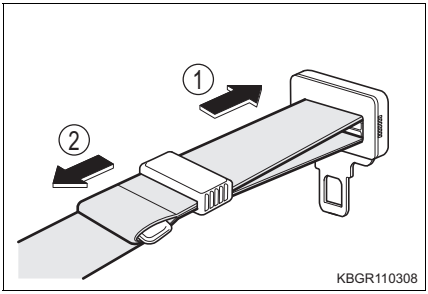


KBGR110302

シートベルトの長さ調節（2 点式シートベルト）

① 伸ばす

② 縮める

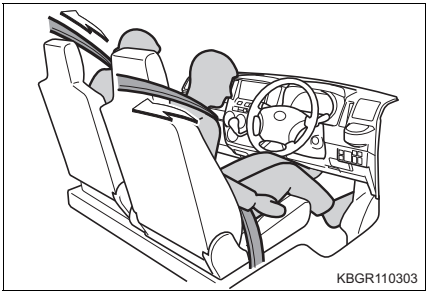


シートベルトプリテンショナー & フォースリミッター（フロント席）

■ プリテンショナー

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



■ フォースリミッター

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法（3 点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナー&フォースリミッターは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

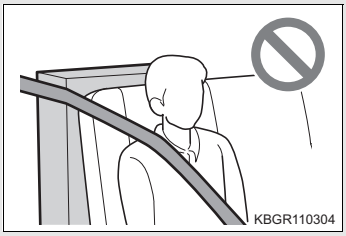
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ●ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- ●シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

⚠ 警告

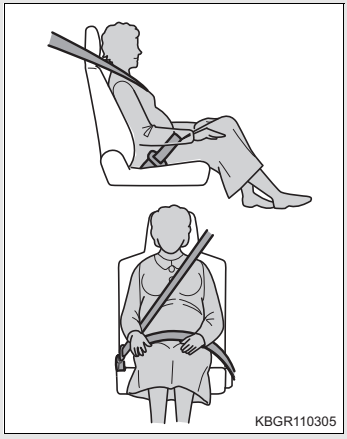
■お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 24)

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 24)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


KBGR110305

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずマツダ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにマツダ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

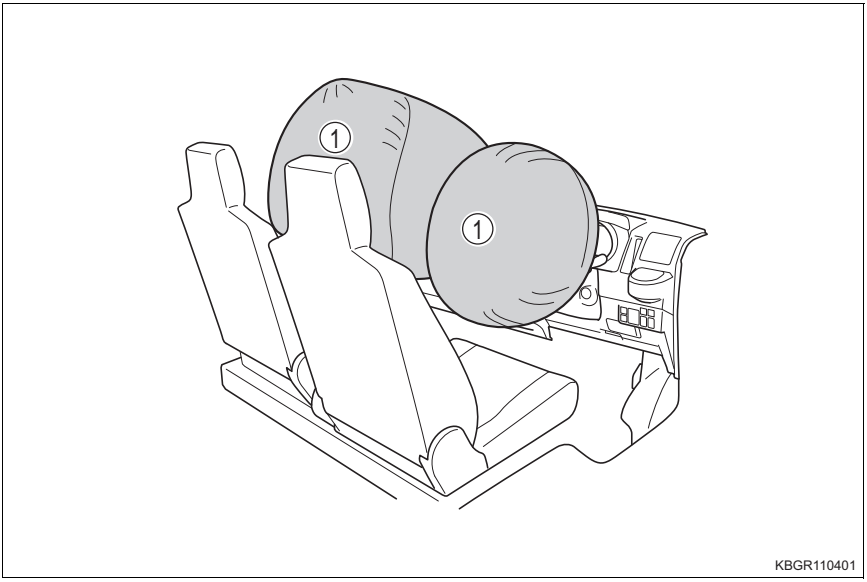
●プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、マツダ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■チャイルドシートの取り付けについて

すべてのシートに、シートベルトでチャイルドシートを取り付けることはできません。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

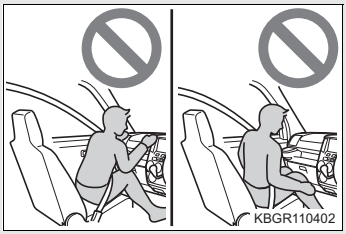
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

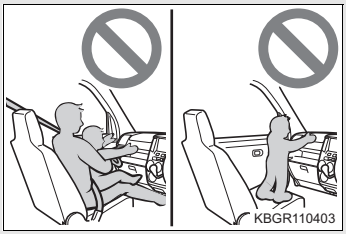
- ●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- ●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- ●お子さまは後席に乗せ、シートベルトを着用させることをおすすめします。

⚠ 警告

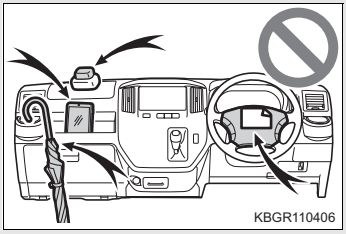
●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずマツダ販売店で交換してください。

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

マツダ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

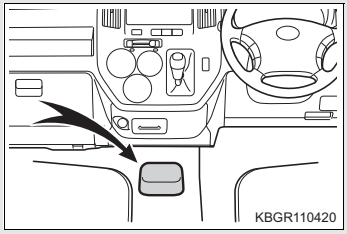
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・フロア足元の SRS エアバッグセンサー周辺の修理・取り外し・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

■エアバッグセンサーについて

フロア足元のカバー内に SRS エアバッグのセンサーが装着されていますので、次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●蹴ったり、強い衝撃を与えない
- ●水などをかけない
- ●取り外さない



知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●作動音とともに白いガスが発生します。

●エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- 前方約30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
- 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

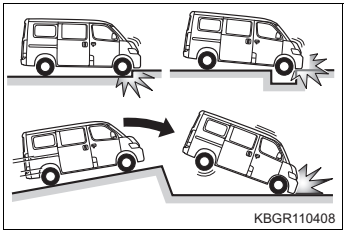
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


KBGR110408

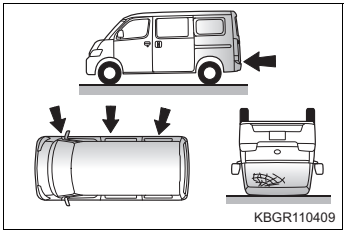
知識

■SRS エアバッグが作動しないとき

●SRS エアバッグはエンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突しても作動しません。

●フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

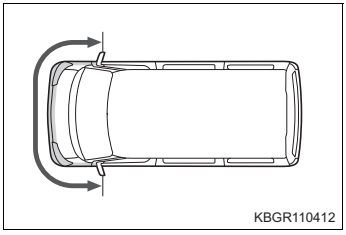

KBGR110409

■マツダ販売店に連絡が必要な場合

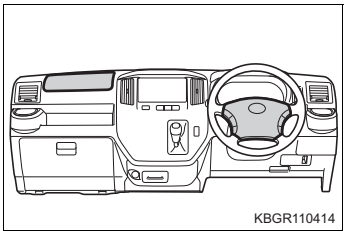
次のような場合には、修理・点検などが必要になります。できるだけ早くマツダ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


KBGR110412

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


KBGR110414

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにマツダ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

  やむを得ないときは、開かれた場所にお車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。

●運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。

●走行中にドアを開けたり、パワーウインドウ★を誤操作したりしないように、ウインドウロックスイッチ★（→ P. 82）を使用してください。

●小さなお子さまには、パワーウインドウ★・ボンネット・ドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

●お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシート

このお車にチャイルドシートを取り付けることはできません。

⚠ 警告

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。



チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0： 10kg まで

グループ 0^+：13kg まで

グループⅠ： 9 ～ 18kg

グループⅡ： 15 ～ 25kg

グループⅢ： 22 ～ 36kg

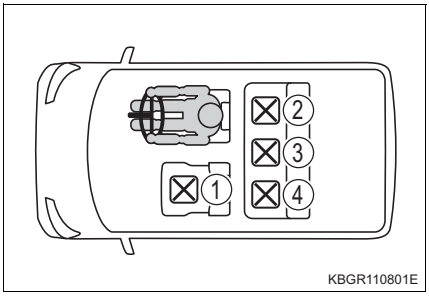
※UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 37）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



チャイルドシートの取り付けに適していません。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	無	無	無	無
ベルト固定の推奨チャイルドシートに適する着座位置（有／無）	無	無	無	無
i-Size 着座位置（有／無）	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	×	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

エンジンイモビライザーシステム

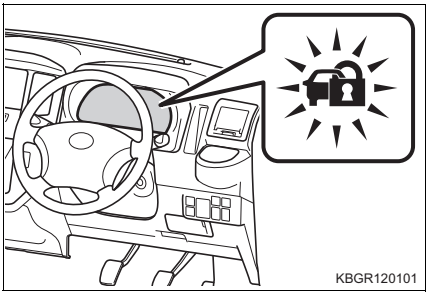
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチからキーを抜くと、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに差し込むとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

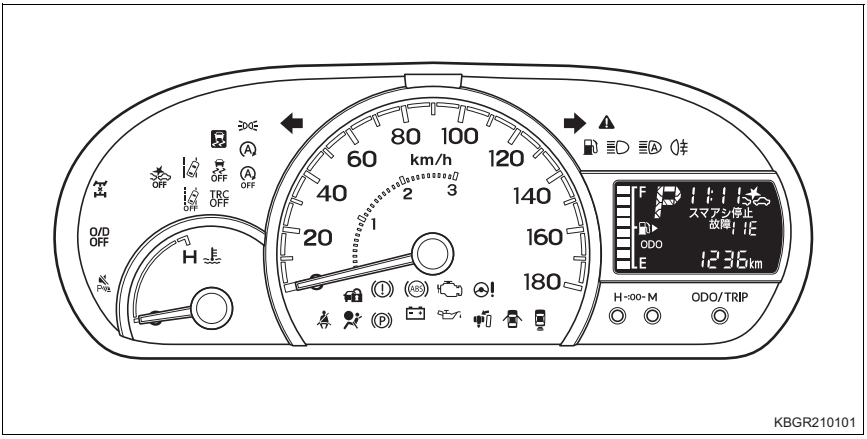
計器の見方 2

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 42
計器類 …… 47
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 49

警告灯／表示灯

メーターの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯	266
※1		充電警告灯	266
※1		油圧警告灯	266
※1		エンジン警告灯	266
	O/D OFF	O/D OFF 表示灯（点滅）★	266
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	266

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1		ABS 警告灯	266
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	267
※1		オートハイビーム警告灯（黄色）	267
※1、2		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	267
※1、3		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	267
※1、4		マスターウォーニング	267
		スマートアシスト故障警告灯	267
		スマートアシスト停止警告灯	271
※5		コーナーセンサー表示灯	267
※1、6		スリップ表示灯	268
※7		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	268
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	270
※1		ブレーキオーバーライドシステム／ ドライブスタートコントロール★警告灯	268
		半ドア警告灯	268
		燃料残量警告灯	268
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	269

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		パーキングブレーキ未解除警告灯	269

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

※2 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。

※3 車線逸脱警報機能を停止にしたときも点灯します。

※4 スマートアシストが作動したときも点灯します。

※5 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。

※6 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※7 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯			参照先
		方向指示表示灯	108
		ハイビーム表示灯	111
		リヤフォグランプ表示灯★	118
		セキュリティ表示灯	39
		尾灯表示灯	110
※1		スリップ表示灯（点滅）	179
※1		VSC OFF 表示灯	180
※1		TRC OFF 表示灯	179

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

	表示灯		参照先
		O/D OFF 表示灯（点灯）★	104
		センターデフロック表示灯★	176
※1		eco IDLE 表示灯	160
※2		eco IDLE OFF 表示灯	161
※1		スマートアシスト作動灯	132
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯	130
※1		車線逸脱警報作動灯	132
※1、3		車線逸脱警報 OFF 表示灯	130
		オートハイビーム作動灯（緑色）	114
※4		コーナーセンサー表示灯	170
		コーナーセンサーブザー OFF 表示灯	171

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

※2 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。

※3 スマートアシストに異常があるときは点滅します。

※4 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

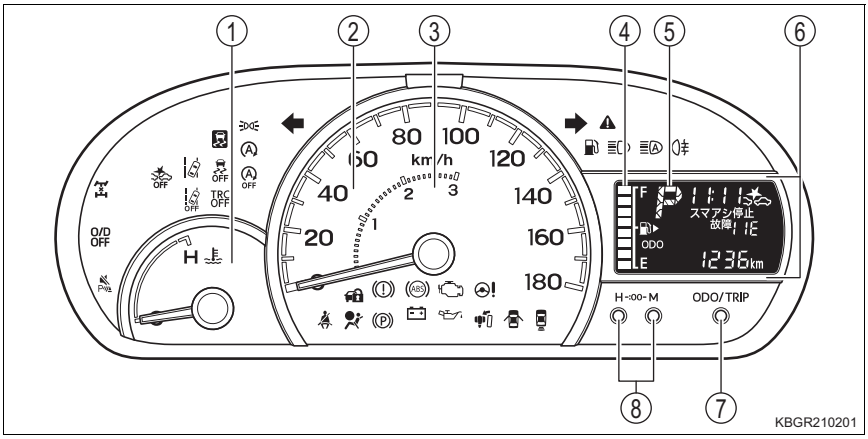
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

計器類



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ ギアシフトエリア★

1 速、2 速、3 速にシフトダウンするときの最大速度を示します。
エンジンの過回転を防ぐために、シフトダウン時の速度に注意してください。

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ シフトポジション表示

- 選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 103、106）
- マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを R にしたときのみ「R」を表示します。

⑥ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関する様々な情報を表示・設定します。（→ P. 49）

⑦ 表示切り替えスイッチ

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。（→ P. 49）

⑧ 時計調整スイッチ（→ P. 50）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 注意

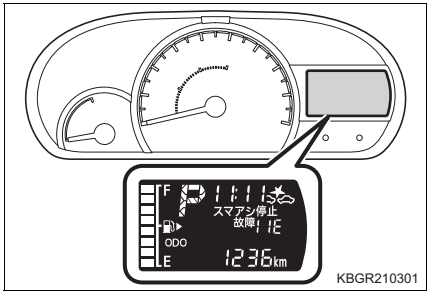
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- マニュアルトランスミッション車は、各シフト位置での速度限界（→ P. 106）を超えないように走行してください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 287）
  - レッドゾーンに入ったときは、警告ブザーが鳴ります。

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報を表示します。



●トリップインフォメーション（→ P. 50）

表示される項目は次の通りです。

- オドメーター
- トリップメーター A ／ B
- アイドリングストップ時間
- アイドリングストップ積算時間

●燃料計

燃料残量を示します。

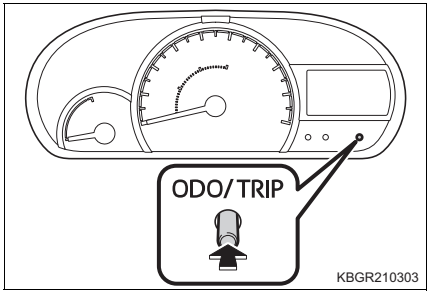
●シフトポジション表示（→ P. 103、106）

●時計表示（→ P. 50）

●スマートアシスト機能停止コード表示（→ P. 271）

表示切り替え

トリップインフォメーションの表示を切り替えるには、表示切り替えスイッチを押します。



時計表示

時計調整スイッチを押して時刻を調整することができます。

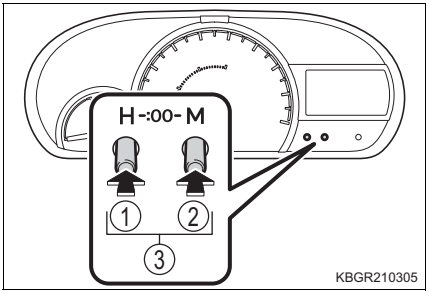
① “時” を調整する（H）

② “分” を調整する（M）

③ “分” を 00 にする※

時計調整スイッチ（①）、（②）を同時に長押しします。

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



トリップインフォメーション

表示切り替えスイッチを押すごとに次のように切り替わります。

■ オドメーター



走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A※ ／トリップメーター B※





リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーター B の表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

※区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ アイドリングストップ時間



エンジンを始動してから停止するまでのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ積算時間



リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

ユーザーカスタマイズ画面

ユーザーカスタマイズ画面に切り替えることで、メーターの表示、機能の設定を変更することができます。

車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。

■ 設定変更のしかた

1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える

2 表示切り替えスイッチを押し、設定を変更する項目を表示する

スイッチを押すごとに項目が切り替わります。

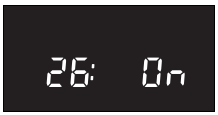
3 表示切り替えスイッチを長押しし、設定を変更する

スイッチを長押しするごとに表示が切り替わります。

ユーザーカスタマイズ画面を終了するには、画面に End が表示されるまで表示切り替えスイッチを押したあと、スイッチを長押ししてください。

■ 設定変更できる項目

項目	設定内容	表示（初期設定）
給油時のトリップメーター A リセット	ON OFF	
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON OFF	
先行車発進お知らせ機能のブザー音量 （→ P. 158）	大きい Hi 小さい Lo	

項目	設定内容	表示（初期設定）
車線逸脱警報機能のブザー音量（→ P. 154）	大きい  小さい 	
先行車発進お知らせ機能（→ P. 158）	ON OFF	
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング（→ P. 158）	遅い  標準  早い 	
衝突警報機能の警報タイミング（→ P. 136）	遅い  標準  早い 	
車線逸脱警報機能の警報タイミング（→ P. 154）	標準  早い 	
ワイヤレスリモコン作動合図（非常点滅灯）★（→ P. 58）	ON OFF	
車速感応式間欠ワイパー作動（→ P. 119）	ON OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	表示（初期設定）
リヤワイパーリバース連動機能★（→ P. 122）	ON	
	OFF	
方向指示レバーを途中まで操作したときに方向指示表示灯が 3 回点滅する機能（→ P. 108）	ON	
	OFF	

■ 設定初期化のしかた

1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える

2  が表示されるまで表示切り替えスイッチを押す

3  の表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、  を表示後、再度長押しする

 の表示が点滅後、オドメーター表示に戻り、次の項目が初期化されます。

項目	初期設定
給油時のトリップメーター A リセット	OFF
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON
先行車発進のブザー音量	大きい
車線逸脱警報のブザー音量	大きい

知識

■メーター照度について（昼照度と夜照度）

●メーター照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。

▶指針、文字盤

・昼照度：車幅灯を消灯しているとき

・夜照度：車幅灯を点灯しているとき

▶マルチインフォメーションディスプレイ

・昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

●夜照度になると指針と文字盤が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイの照明が減光されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

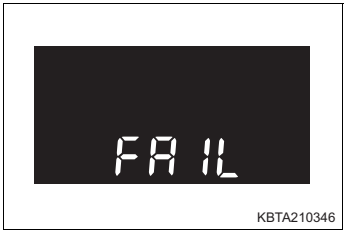
バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■時刻の自動補正について

純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、時刻の自動補正の設定はできません。

■ユーザーカスタマイズ画面について

ユーザーカスタマイズ画面で操作を行っても、設定を変更できない場合は、「FAIL」が表示されます。



⚠ 警告

■走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてから使用してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作 3

3-1. キー
キー …… 56
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ワイヤレスリモコン …… 58
フロントドア …… 59
スライドドア …… 62
バックドア …… 66
3-3. シートの調整
フロントシート …… 70
リヤシート …… 72
ヘッドレスト …… 74
ルームセパレーターバー …… 76
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 77
インナーミラー …… 78
ドアミラー …… 79
補助確認装置 …… 80
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 82
手動式ウインドウ …… 85

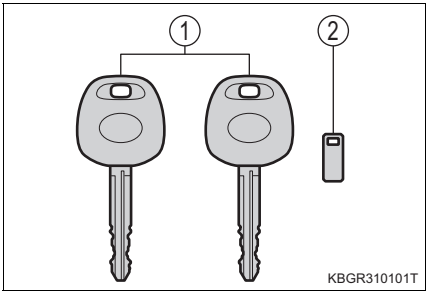
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

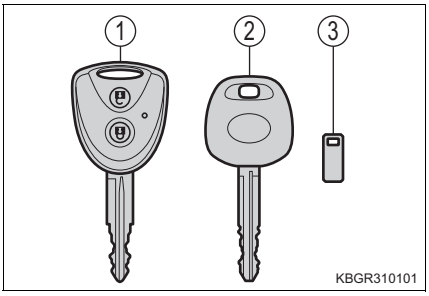
▶ワイヤレスリモコン非装着車

① マスターキー
② キーナンバープレート



▶ワイヤレスリモコン装着車

① キー（ワイヤレスキー）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 59）
② キー（スペアキー）
③ キーナンバープレート



知識

■キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、マツダ販売店でマツダ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートはお車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき（ワイヤレスリモコン装着車）

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

知識

■電池の消耗について（ワイヤレスリモコン装着車）

→ P. 58

■電池の交換方法（ワイヤレスリモコン装着車）

→ P. 234

■キーのご購入について

キーは最大 8 個まで（その内、ワイヤレス機能★を装備したものは 4 個まで）設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 直射日光や高温下に放置しない
- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意（ワイヤレスリモコン装着車）

ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内で使用してください。

■キーを携帯するとき（ワイヤレスリモコン装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスリモコン★

機能概要

ドアを施錠・解錠できます。

→ P. 59

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅でお知らせします。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 297）

■解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 60

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

ドアの施錠・解錠→ P. 59

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。

  次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - ワイヤレスリモコンが作動しない
  - 作動範囲が狭くなった

■電池が切れたとき

→ P. 234

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントドア

ドアの施錠／解錠

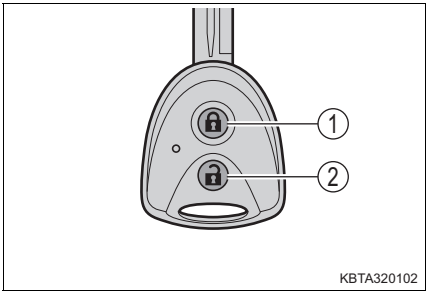
ワイヤレス機能★、キー、ロックボタンを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能★

① 全ドアを施錠する

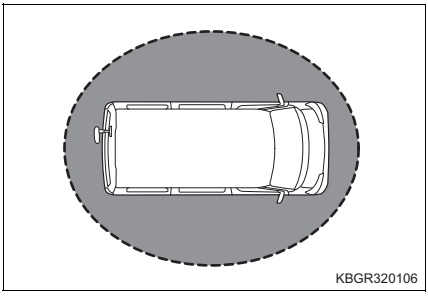
必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



▶作動範囲

● ：車両中心から周囲約 3m 以内



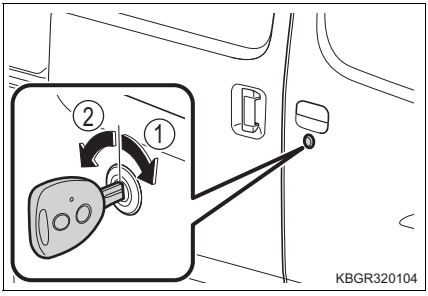
■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。

① 施錠する

② 解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。



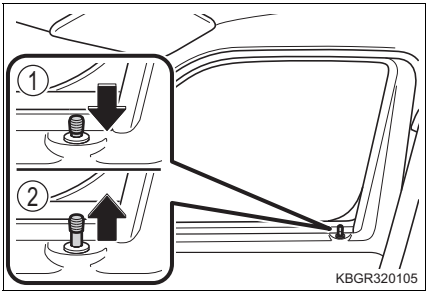
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ロックボタン

① 施錠する

② 解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。



キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するとき

1 ロックボタンを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キー閉じ込み防止機能（→ P. 60）の作動により、施錠されないことがあります。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。（ワイヤレスリモコン非装着車は運転席以外のドアが解錠されます）

■解錠操作のセキュリティ機能★

ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。（ワイヤレスリモコン非装着車は運転席以外のドアが解錠されます）

- 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックボタンを施錠側にしたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックボタンを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 268

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 58

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

■ドアを開閉するときの留意事項

- ●傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ●ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

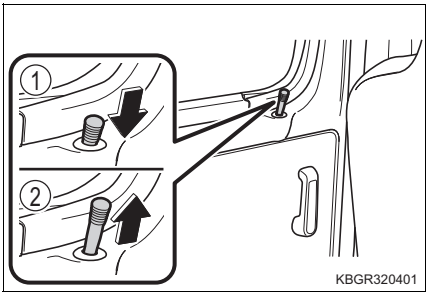
■ ワイヤレスリモコン★

→ P. 59

車内からの解錠・施錠

■ ロックボタン

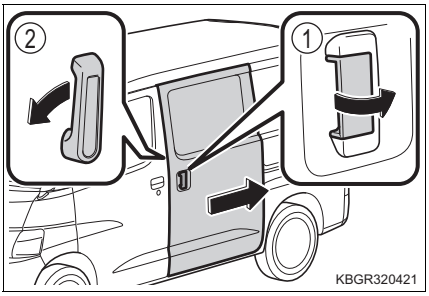
① 施錠する
② 解錠する



スライドドアを開けるとき

スライドドアハンドル、またはインサイドドアハンドルを操作します。

① スライドドアハンドル
② インサイドドアハンドル



ロックが解除されるまで確実にドアハンドルを操作します。

知識

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 268

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●すべてのドアを施錠する
- ●シートベルトを必ず着用する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

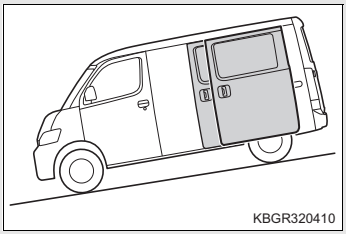
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- ●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

⚠ 警告

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

●傾斜が急な場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアに当たったり挟んだりしないように注意してください。

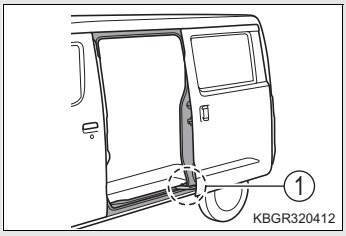

KBGR320410

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


KBGR320411

●スライドドアのアーム、レール、ピラー部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。



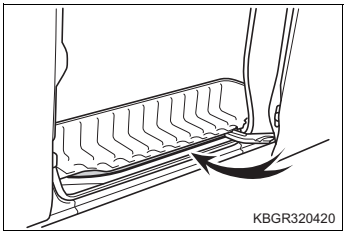
KBGR320412

⚠ 注意

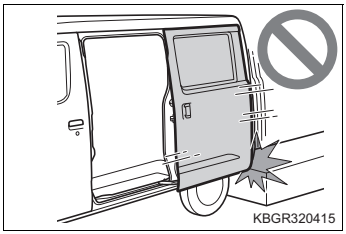
■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。


KBGR320420

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などに当たらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。


KBGR320415

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

■ ワイヤレスリモコン★

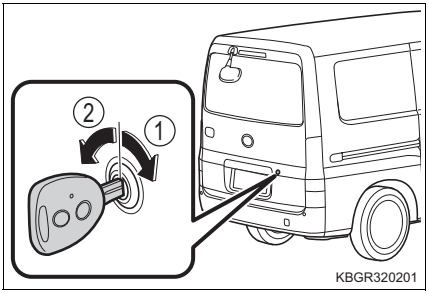
→ P. 59

■ キー

キーを操作すると、バックドアが次のように作動します。

① 施錠する

② 解錠する



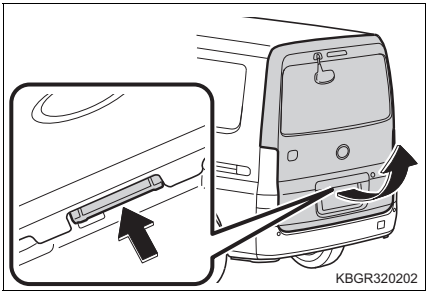
車内からの施錠／解錠

■ ロックボタン

→ P. 60

バックドアを開けるには

バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる

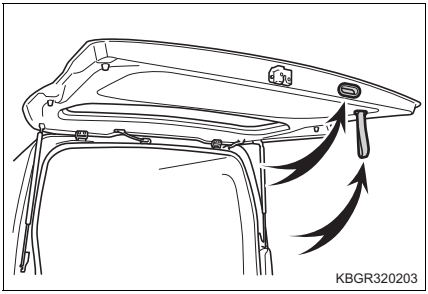


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを閉めるとき

バックドアインナーハンドル、またはバックドアストラップを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 268

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

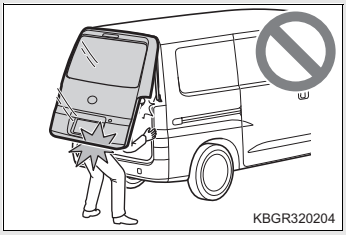
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

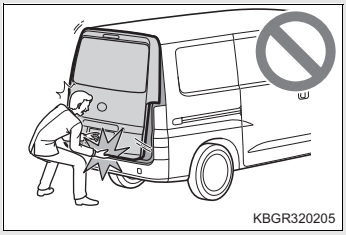
●バックドアハンドルを引くときは、ハンドル横の番号灯に触れないでください。点灯中、または消灯直後は電球が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


KBGR320204

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドル、またはバックドアストラップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


KBGR320205

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下ったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、マツダ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

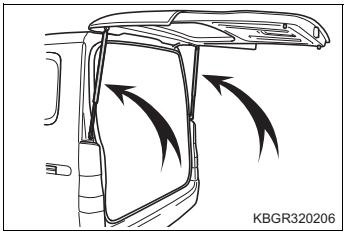
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などで触れない

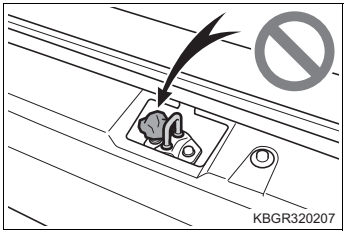
●バックドアにマツダ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ストライカーバーについて

バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

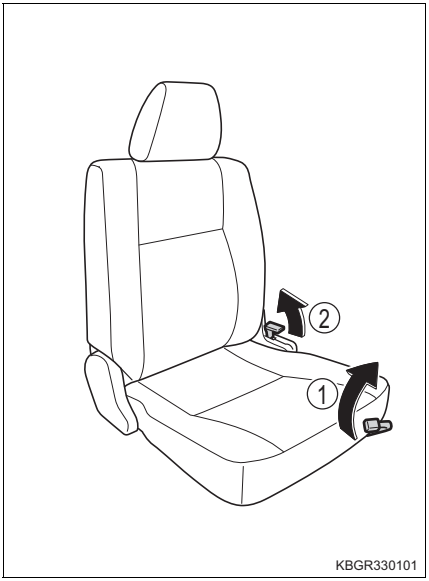


フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整



⚠ 警告

■シートを調整するとき

- ●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- ●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■背もたれをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

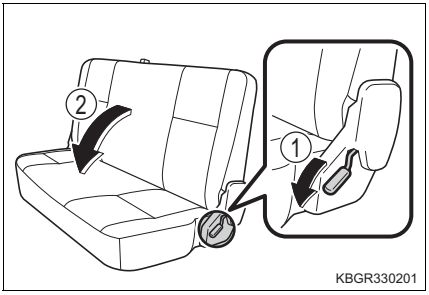
●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

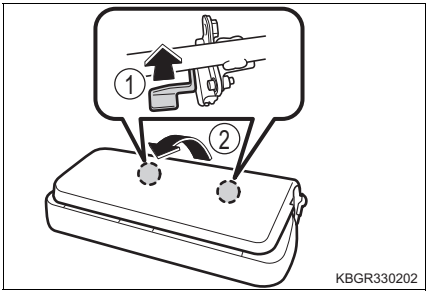
リヤシート

折りたたみかた

1 フォールディングレバーを押し（①）て、背もたれを倒す（②）



2 シート脚部のレバーを引いてロックを解除（①）し、シートを持ち上げる（②）



3 シートの脚を押し下げる

4 シートをもとに戻すときは逆の手順で行う

⚠ 警告

■シートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中にリヤシートを操作しない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P（オートマチックトランスミッション車）または N（マニュアルトランスミッション車）にする
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- ●操作をするときは、床に物がないことを確認してから行う
- ●折りたたんだシートやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

⚠ 警告

■シートをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意

リヤシートをもとに戻す前に、フロアのシート固定部周辺に異物がないことを確認してください。異物があると、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。

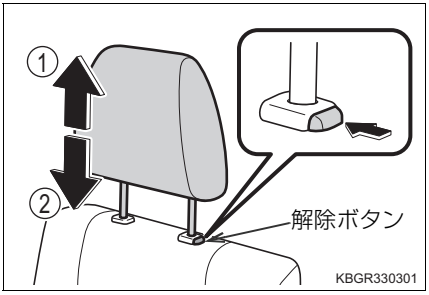
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

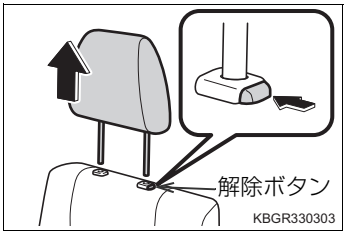
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。

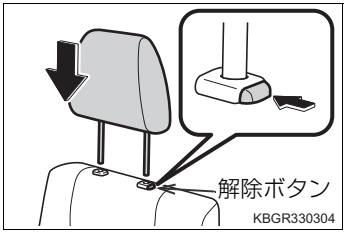


■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

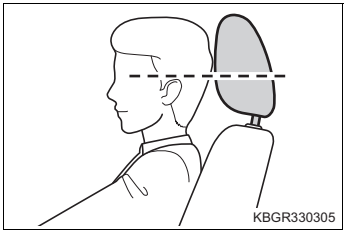
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

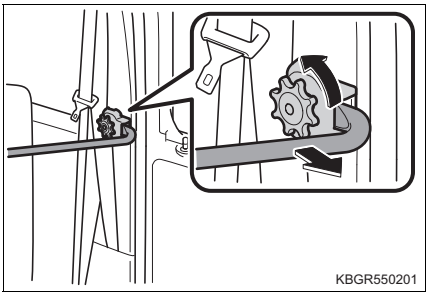
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストを外したまま走行しない

ルームセパレーターバー

ルームセパレーターバーの脱着

■ 取り外し方

左右のハンドルを回して、取り外す



■ 取り付け方

取り外したときと逆の手順で取り付ける

知識

■ルームセパレーターバーについて
取り外したまま走行しないでください。取り外したまま走行すると、違法改造になります。（リヤシート乗車時を除く）

■車検について
ルームセパレーターバーを紛失すると車検を受けることができなくなります。

⚠ 警告

■フロントシートの前後位置を調整するときは
シートとルームセパレーターバーの間に手を挟まないように注意してください。

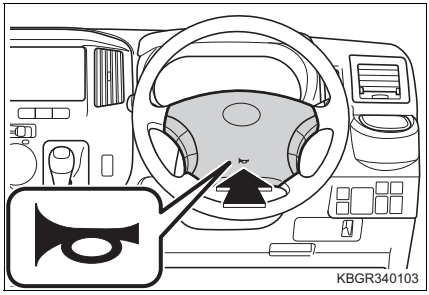
⚠ 注意

■ルームセパレーターバーや荷物の破損を防ぐために
走行前にしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドル

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



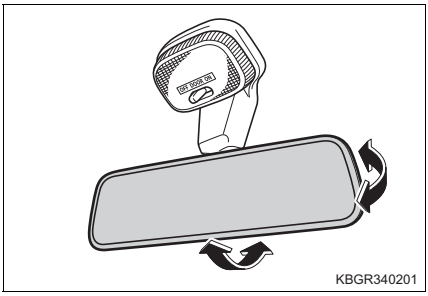
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

インナーミラー本体を持って調整する



⚠ 警告

■走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

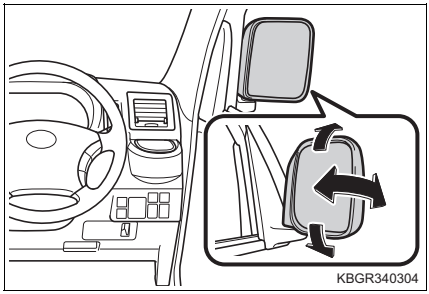
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

ミラー全体を手で動かして調整する

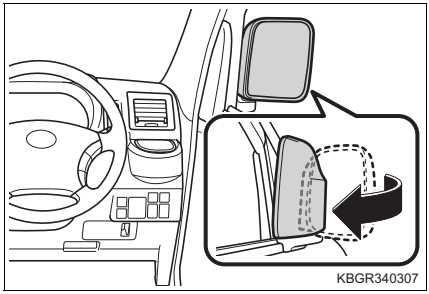
調整後は運転席に座って、後方確認ができることを確認してください。



ドアミラーを格納する

ドアミラーを手で後方に押して格納する

手で前方に押してもとの位置に戻します。



⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走行しない
- ●走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ミラーを調整するとき

汚れた手で調整しないでください。鏡面に汚れが付くと夜間など後方からのランプが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

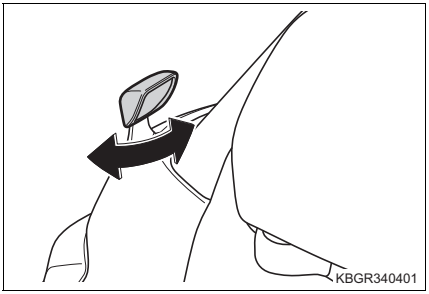
補助確認装置

サイドアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、車両側面確認が十分できることを確認してください。



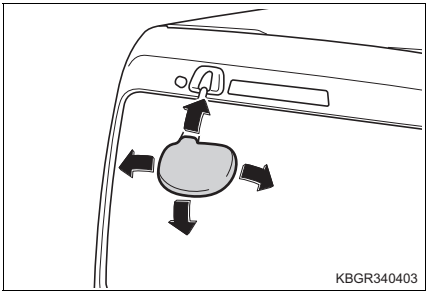
リヤアンダーミラー

後退時に、車両後方を確認するときに役立ちます。

ミラー全体を手で動かして調整する

運転する前に、必ずミラーを適切な使用位置に調整してください。

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

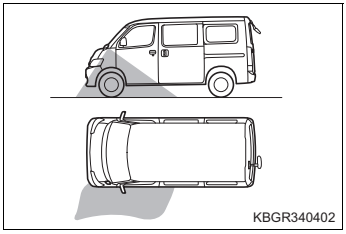


知識

■サイドアンダーミラーに映るおよその範囲

運転者の身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。

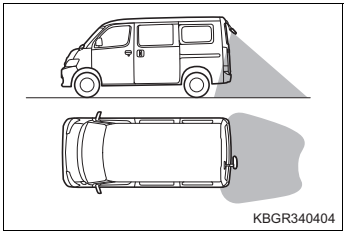


知識

■リヤアンダーミラーに映るおよその範囲

運転者の身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



⚠ 注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。そのままにしておくと、視界の妨げとなるおそれがあります。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ★

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

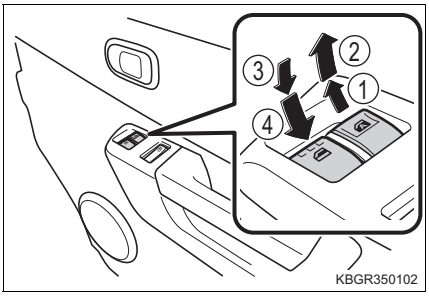
① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

④ 自動全開（運転席のみ）※

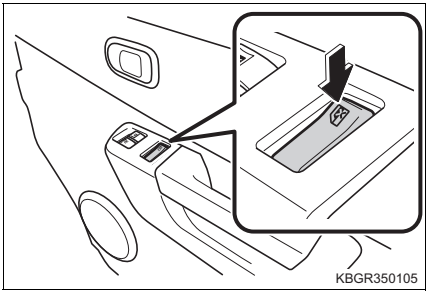
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ軽く操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■エンジン停止後の作動（運転席のみ）

エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワーウインドウモーターの過熱保護機能について

パワーウインドウモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドウモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常通り使用できるようになります。

■運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

1 お車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは

パワーウインドウを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

1 エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ドアウインドウスイッチを下に長押しし、全開にする

3 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、2 からやり直しとなります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

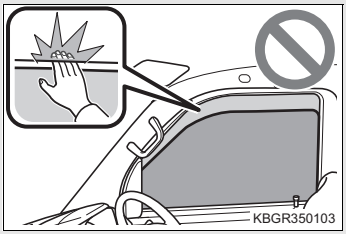
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 82）

⚠ 警告

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●お車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

●特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

⚠ 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。

■パワーウインドウの故障を防ぐために

●運転席ドアウインドウスイッチと他のスイッチを同時に逆方向へ操作しない

●ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドウスイッチを操作し続けない

●ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドウスイッチを操作し続けない

■バッテリーあがりを防止するために

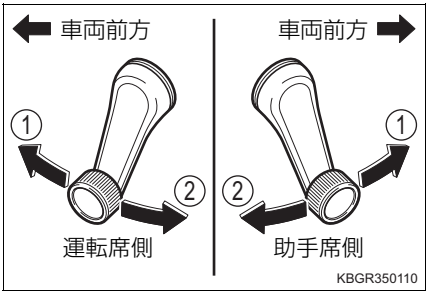
エンジン停止中は、必要以上にパワーウインドウの開閉を行わないでください。

手動式ウインドウ

開閉のしかた

ハンドルを回して開閉します。

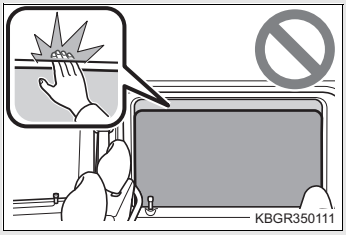
① 閉める
② 開ける



⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するとき

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 88
荷物を積むときの注意 …… 98

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ …… 100
オートマチックトランスミッション車の運転 …… 103
マニュアルトランスミッション車の運転 …… 106
方向指示レバー …… 108
パーキングブレーキ …… 109

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 110
オートハイビーム …… 114
フォグランプスイッチ …… 118
ワイパー & ウォッシャー（フロント） …… 119
ワイパー & ウォッシャー（リヤ） …… 121

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 123

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト …… 127
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 136
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 146
車線逸脱警報機能 …… 154
先行車発進お知らせ機能 … 158
アイドリングストップシステム（eco IDLE）…… 160
コーナーセンサー …… 170
センターデフロック …… 176
運転を補助する装置 …… 178

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 184

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 100

発進する

▶オートマチックトランスミッション車

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 103）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 109）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶マニュアルトランスミッション車

1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→ P. 106）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 109）

3 クラッチペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

▶オートマチックトランスミッション車

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 103）

▶マニュアルトランスミッション車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。（→ P. 106）

駐車する

▶オートマチックトランスミッション車

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、お車を完全に停止させる

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけて（→ P. 109）、シフトレバーを P にする（→ P. 103）

3 エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※ を使用してください。

▶マニュアルトランスミッション車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける

3 シフトレバーを N にする（→ P. 106）

4 エンジンスイッチを“OFF”にして、エンジンを停止する

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速（上り坂）または R（下り坂）にし、輪止め※ を使用してください。

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

上り坂の発進のしかた

▶オートマチックトランスミッション車

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 お車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶マニュアルトランスミッション車

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 お車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について（オートマチックトランスミッション車）

ヒルホールドシステムが作動します。（→ P. 178）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がより滑りやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について（オートマチックトランスミッション車）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制制御について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。（→ P. 268）

■急発進の抑制および後退速度の抑制について（ドライブスタートコントロール★）

●次のような場合、ドライブスタートコントロールが作動します。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は 2・L ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、エンジンの出力を抑制することがあります。
この場合、警告灯が点灯します（→ P. 268）

・後退時の速度が所定以下になるようにエンジンの出力を抑制※ します。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 179）、またはセンターデフロック★（→ P. 176）を作動させることにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●ドライブスタートコントロール警告灯（→ P. 268）が点滅しているときは、ドライブスタートコントロールが作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパーなど）に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき（オートマチックトランスミッション車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を停めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 256を参照してください。

⚠ 警告

- ●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 103, 106)
- ●路面状態や速度に応じて、次のようにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
  - ・1 速ずつ落とす（マニュアルトランスミッション車）
  - ・シフトレバーを 2 にする。また、より強いエンジンブレーキが必要な場合はシフトレバーをＬにする（オートマチックトランスミッション車）
- ●急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- ●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- ●オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
  また 4WD車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。
- ●河を渡るなどの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- ●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。
- ●クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。(マニュアルトランスミッション車)

⚠ 警告

■滑りやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●オートマチックトランスミッション車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いている間は、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。（オートマチックトランスミッション車）

●車両が前進している間は、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P（オートマチックトランスミッション車）または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くマツダ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトレバーが P（オートマチックトランスミッション車）または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。

吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P（オートマチックトランスミッション車）に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P（オートマチックトランスミッション車）にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 警告

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

●ハンドルが取られる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 272 を参照してください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、マツダ販売店または専門業者へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転しているとき（オートマチックトランスミッション車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転しているとき（マニュアルトランスミッション車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

- クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
- 1 速以外での発進は避ける
- 坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●お車がまだ動いているときにシフトレバーを R にしないでください。クラッチ・トランスミッション・ギヤが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき（オートマチックトランスミッション車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、お車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■クラッチが滑っていると感じたら（マニュアルトランスミッション車）

できるだけ早くマツダ販売店で点検を受けてください。クラッチをつないだ状態でアクセルペダルを踏み込んでも加速できない場合、クラッチが滑っている可能性があり、走行不能になるおそれがあります。

■冠水路を運転するとき

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずマツダ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

- 運転席足元
- 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- インストルメントパネル
- ダッシュボード
- ふたのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●荷物の荷くずれや落下のないように、ロープなどでしっかり固定してください。

⚠ 警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。
●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物を積むときは

ルームセパレーターバーを取り外した状態でラゲージルームに荷物を絶対に積まないでください。急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。また、ルームセパレーターバーを取り外したまま走行すると、不正改造になります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンのかけ方

▶オートマチックトランスミッション車

1 正しい運転姿勢（→ P. 22）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“START”の位置に回す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

▶マニュアルトランスミッション車

1 正しい運転姿勢（→ P. 22）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが N にあることを確認する

4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“START”の位置に回す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

エンジンスイッチの位置の切り替え

① “LOCK”（“OFF”）

キーを抜き差しできます。（オートマチックトランスミッション車は、シフトレバーが P のとき、抜き差しできます）

ハンドルロックがかかります。

非常点滅灯が使用できます。

② “ACC”

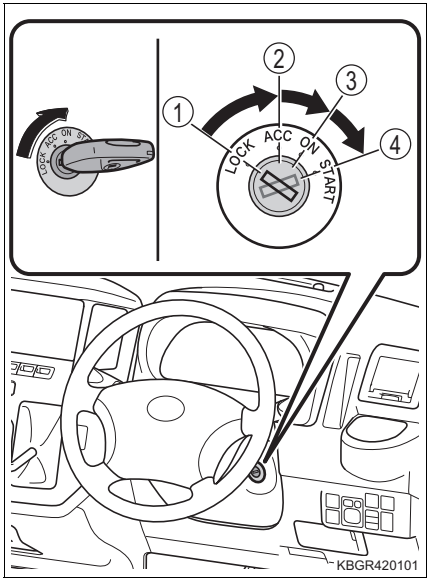
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

エンジンが始動できます。

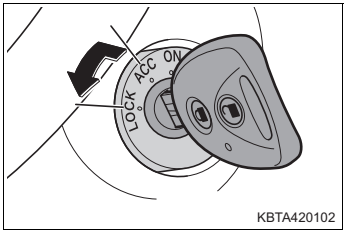


知識

■キーを“ACC”から“LOCK”（“OFF”）に回すには

1 シフトレバーがP（オートマチックトランスミッション車）またはN（マニュアルトランスミッション車）にあることを確認する

2 キーを押し込みながら“LOCK”（“OFF”）まで回す



■エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 39）

マツダ販売店へご連絡ください。

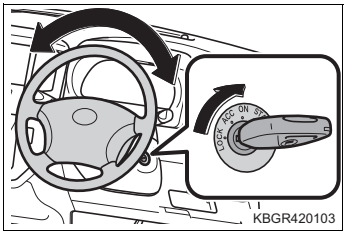
■クラッチスタートシステム（マニュアルトランスミッション車）

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンスイッチを“START”の位置に回しても、安全のためにエンジンが始動しません。

■ハンドルロックについて

●エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。

●ハンドルロックを解除するには、ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチを回してください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

●走行中はエンジンスイッチを“OFF”にしないでください。

走行中にエンジンを停止すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながります。

●マニュアルトランスミッション車は、キーを“OFF”の位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドルが操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”にしてエンジンを停止してください。（→ P. 256）緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。

走行中にエンジンを停止するとハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

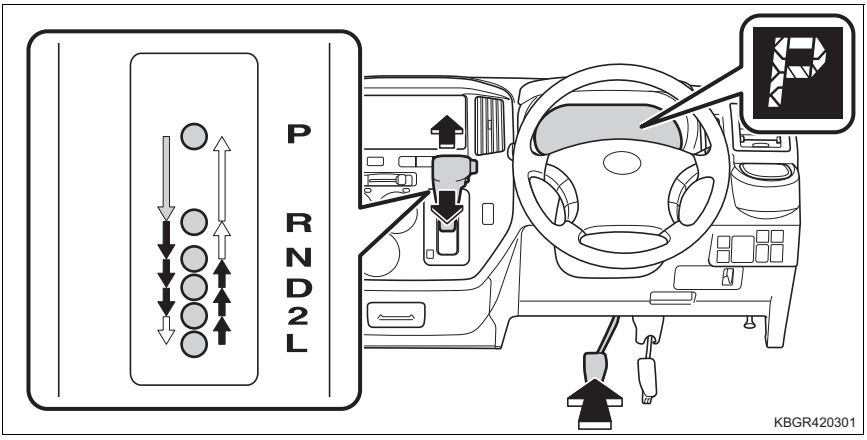
●一度に 30 秒以上スターターを回さないでください。

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション車の運転★

シフトレバーの動かし方



⇦ : エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇦ : シフトレバーボタンを押して操作します。

⬅ : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	坂道走行
L	急な下り坂走行

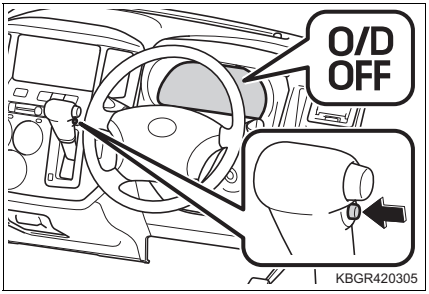
※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーバードライブスイッチ

スイッチを押すごとにオーバードライブの ON・OFF が切り替わります。

オーバードライブが OFF のときは、O/D OFF 表示灯が点灯し、4 速に入らなくなります。



■ オーバードライブが ON のとき（O/D OFF 表示灯が消灯）

通常走行に適しています。

エンジン始動時にはオーバードライブが ON になっています。

■ オーバードライブが OFF のとき（O/D OFF 表示灯が点灯）

坂道走行で次のような場合に適しています。

●下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいとき

●上り坂で 4 速と 3 速の変速回数が少ない、なめらかな走行をしたいとき

知識

■走行開始直後でトランスミッションの油温が低いときは

3 速、4 速へ自動変速しないことがあります。トランスミッションオイルの温度が上がれば自動変速するようになります。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ON” でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

知識

シフトロックの解除のしかた：

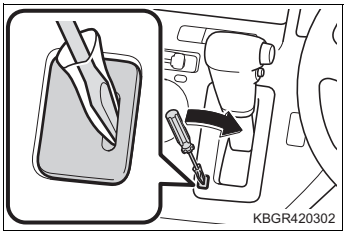
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチを“OFF”にする

3 ブレーキペダルを踏む

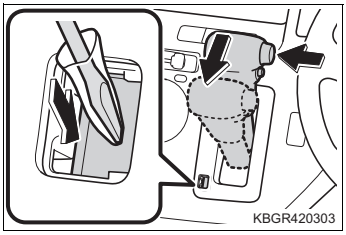
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間は、レバーをシフトできます。



■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■オーバードライブスイッチについて

- シフトレバーがDのときに使用可能です。
- オーバードライブスイッチを押してオーバードライブを OFF にした場合でも、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的にオーバードライブONの状態に戻ります。

⚠ 警告

■滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

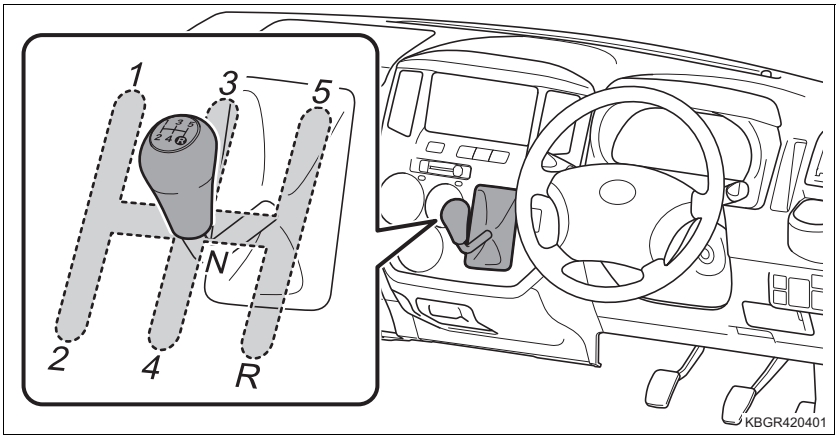
■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション車の運転★

シフトレバーの動かし方



クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

誤操作を防ぐため、5 速から R へは直接操作することができません。

一旦 N にしてから R に操作します。

知識

■各シフト位置の速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が次に記載してある数値を超えないようにしてください。

シフト位置	最高速度（km/h）
4	135
3	100
2	65
1	30

⚠ 警告

■滑りやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因となりますので注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■各シフト位置の速度限界について

エンジンの回転があがり過ぎないように、上限速度を守って走行してください。
エンジンが損傷するおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

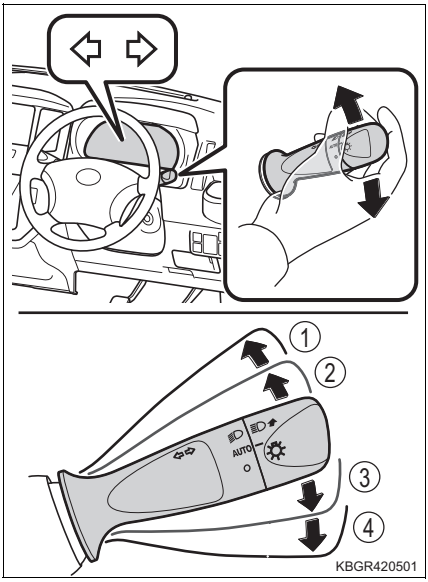
① 左折

② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件
エンジンスイッチが“ON”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

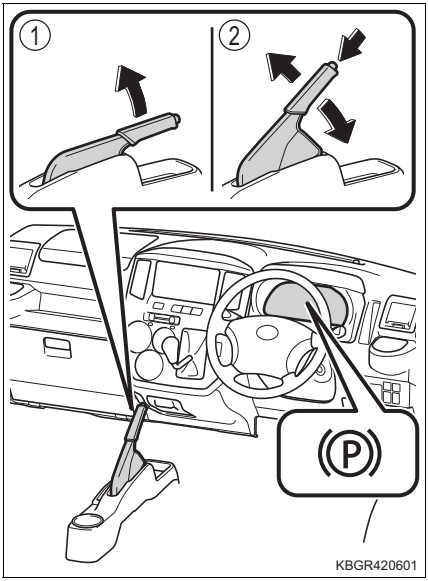
■カスタマイズ機能
方向指示灯の設定を変更できます。（カスタマイズ機能一覧：→ P. 297）

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻す



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 185

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 269

⚠ 警告

■走行前の留意事項

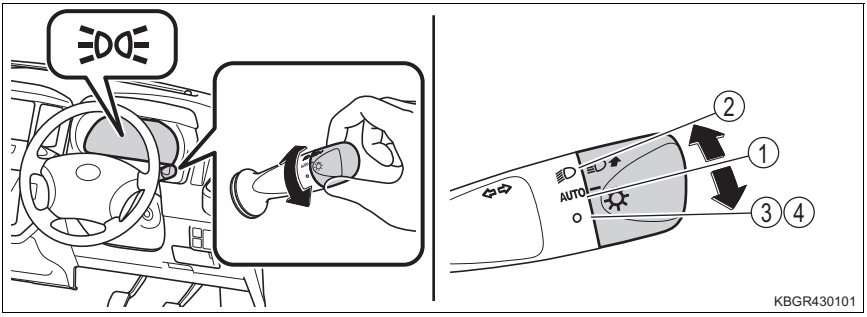
パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON”のとき、次のように 🔆 スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	**AUTO**	自動点灯・消灯	
②	≡D	点灯※1	
③※2、3	○	消灯	点灯
④※2、4		消灯	

※1　エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2　🔆 スイッチを　○　の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3　車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※4　車速が約 3km/h 以下で 🔆 スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ ランプ類の再点灯について

☼ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

●車速が約 3km/h を超えたとき

●再度 ☼ スイッチを ○ の位置に操作したとき

●エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき

●車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

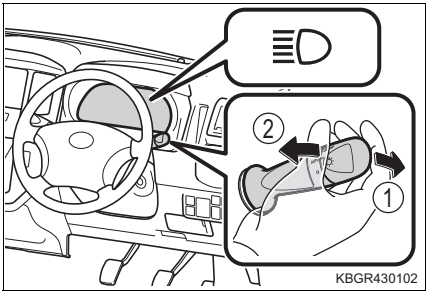
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

② レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。

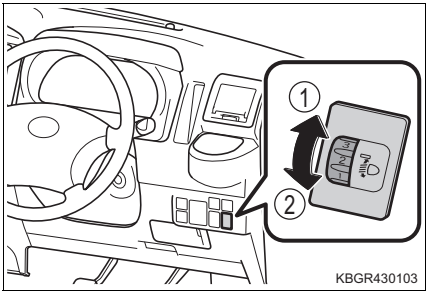


手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
	最大積載時	3

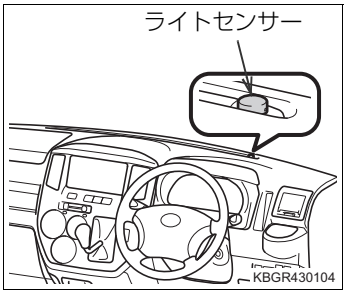
知識

■ライトセンサー

●次のことをお守りください。

お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

- センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■ランプ消し忘れ防止機能

●ランプ類が点灯している状態で、エンジンスイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。

●再度ランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、再度 ≣D の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

●エンジンスイッチを“ON”にしたとき

●ランプスイッチを操作したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

●いずれかのドアを開閉したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

オートハイビーム

オートハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■オートハイビームを正しく作動させるために

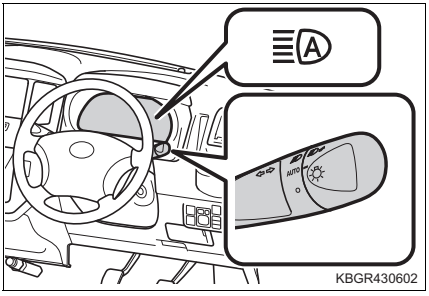
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

オートハイビームの使い方

次の条件をすべて満たしているとき、オートハイビームが作動し、オートハイビーム作動灯が点灯します。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

  周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車がランプを点灯している

●前方の街灯が明るい

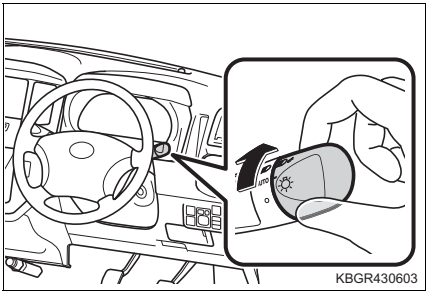
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを 𝌆 にする

オートハイビーム作動灯が消灯します。

オートハイビームに戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

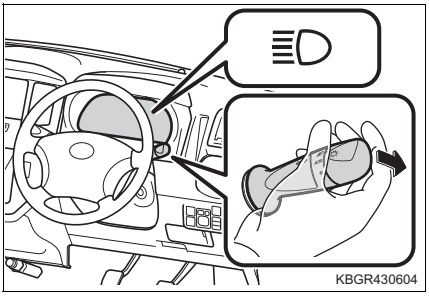


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

オートハイビーム作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートハイビームに戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



知識

■オートハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき

知識

- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき

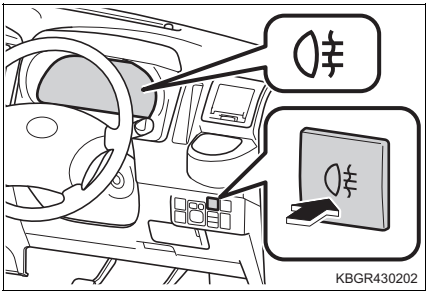
■オートハイビーム警告灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

リヤフォグランプスイッチを押すと、リヤフォグランプが点灯し、リヤフォグランプ表示灯が黄色に点灯します。再度押すと消灯します。



知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① O ：停止

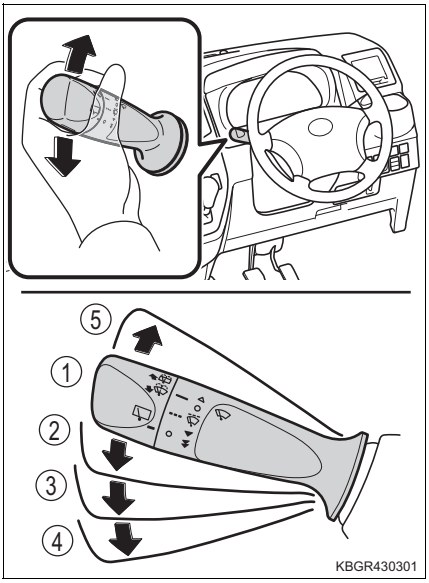
② ：間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ ：低速作動

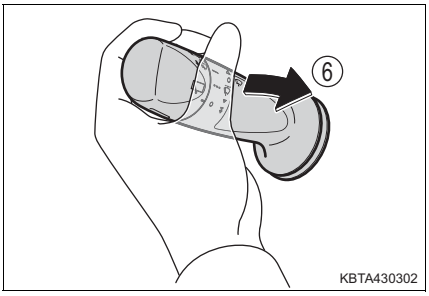
④ ▼▼ ：高速作動

⑤ △ ：一時作動



⑥ ：ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件
エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能
車速感応機能の設定を変更することができます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 297）

⚠ 警告

■ウォッシャー使用時の警告
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき
ノズルがつまったときはマツダ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）★

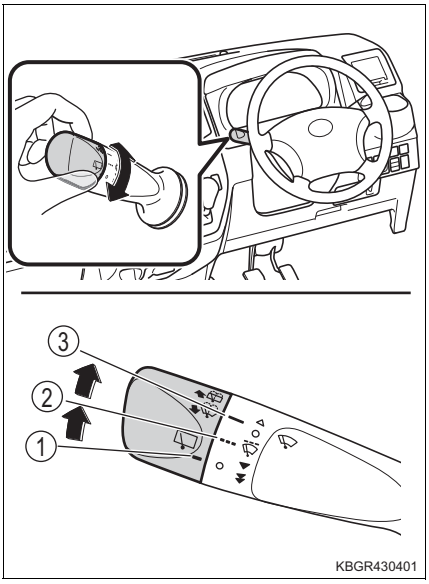
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① O：停止

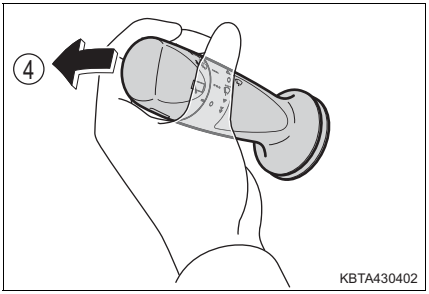
② ---：約4秒間低速作動したあと、間欠作動

③ ——：通常作動



④ ：ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。フロントワイパーが停止後、約 10 秒以内にシフトレバーを R にしたときも、数回作動します。

■カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 297）

⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはマツダ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

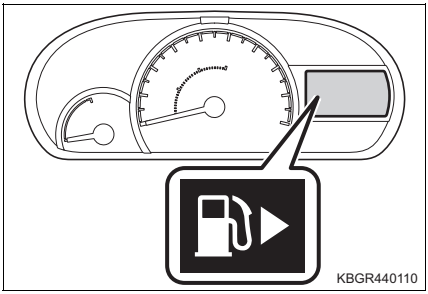
給油口の開け方

給油する前に

●ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチを“OFF”にしてください。

●燃料の種類を確認してください。

●メーター内に給油口の車両取り付け方向を示しています。



知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリンまたは無鉛プレミアムガソリン

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

⚠ 警告

●喫煙しないでください。

●携帯電話などを使用しないでください。

●吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

・ 給油口にノズルを確実に挿入する

・ 継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■**給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジンの出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

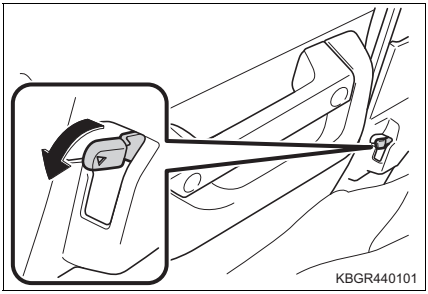
●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

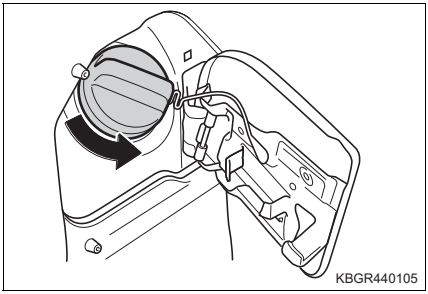
給油口の開け方

1 オープナーを押し下げる

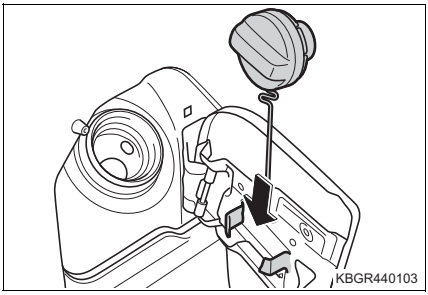
給油扉が開きます。



2 キャップをゆっくり回して開ける



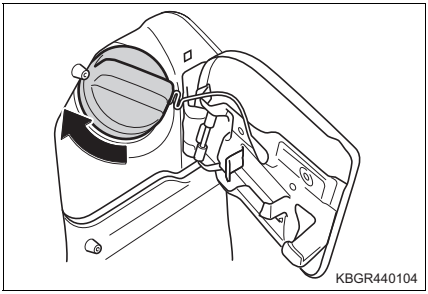
3 キャップをハンガーにかける



給油口の閉め方

1 キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。



2 給油扉を“カチッ”と音がするまで閉める

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずマツダ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートアシスト※

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

※“スマートアシスト”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 136

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 136

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）★

→ P. 146

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 154

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 158

◆ オートハイビーム

→ P. 114

⚠ 警告

■スマートアシストについて

- ●スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- ●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。（→ P. 130）
  - ・タイヤの空気圧が適正でないとき
  - ・スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
  - ・摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
  - ・メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - ・タイヤパンク応急修理セットを使用したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- サスペンションを改造したとき
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●ハンドルおよびシフトレバーの操作状況

●車速などの車両情報

●スマートアシストの各機能の作動状況

●先行車や障害物との距離、相対速度などの情報

●ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

マツダおよびマツダが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、マツダおよびマツダが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

●警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

●マツダが訴訟で使用する場合

●統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうマツダは、マツダ株式会社を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

●衝突警報機能（対車両・対歩行者）

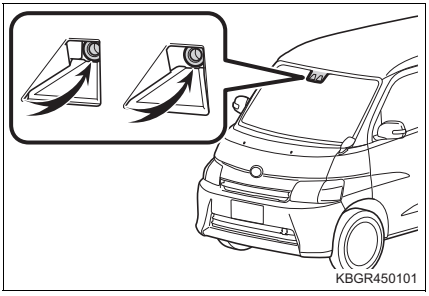
●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）★

●車線逸脱警報機能

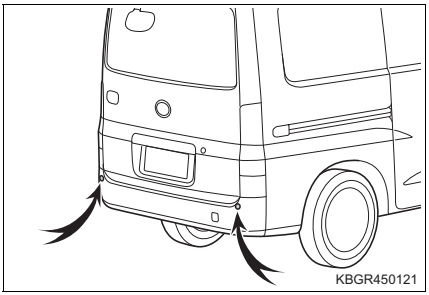
●先行車発進お知らせ機能

●オートハイビーム


KBGR450101

ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）★で必要な情報を認識します。


KBGR450121

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートアシストの機能を停止するには

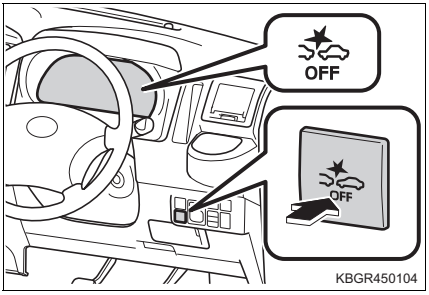
スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）★・先行車発進お知らせ機能を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

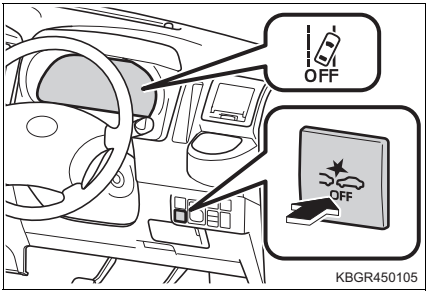


■ 車線逸脱警報機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- ●エンジン始動直後
- ●スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- ●「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- ●「スマアシ停止」が表示されているとき（機能停止）

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 271）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ●お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- ●エンジン始動直後
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- ●街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ●ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- ●重い荷物を積んでいるとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- ●衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）★
- ●先行車発進お知らせ機能

■車線逸脱警報機能について

車線逸脱警報機能の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピピッ”	－	 （点滅）	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける		 （点滅）	衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動
“ピピピッ” と鳴り続ける	－	 （点滅）	衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動したあと、車両が停止 運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	－	 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）★の警報が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける		 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）★の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピピ” と鳴り続ける		 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）★のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	－	 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）★の警報が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける		 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）★の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピピ” と鳴り続ける		 （点滅）	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）★のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピピピッ”	 （点滅）		車線逸脱警報機能が作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピッ”	−	 （点滅）	先行車発進お知らせ機能が作動
−		−	オートハイビームが作動

⚠ 警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
- フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、マツダ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。

●フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 191）

●フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 230）
- ワイパーブレードの交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。

⚠ 警告

- ●事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ●マツダ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。
- ●ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ●ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ●ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ●ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ●ステレオカメラを分解しないでください。
- ●ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ●インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- ●インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- ●インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ●マツダ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

⚠ 警告

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。

・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、マツダ販売店にご相談ください。

■汚れ検知機能について

●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。

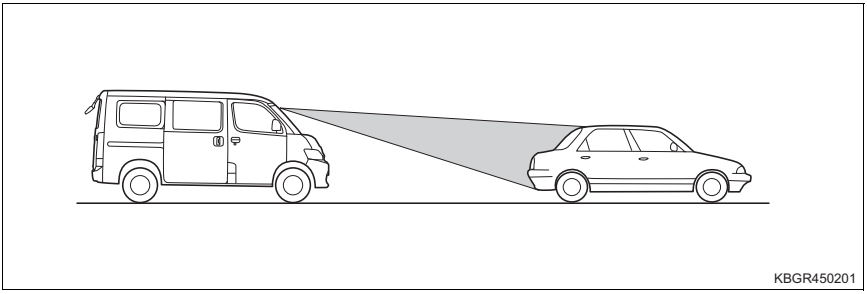
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※1、歩行者※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む

※2 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 132）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 132）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
・衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 144
・機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 138, 144

●安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両※ や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。

●運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両※ との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 60km/h）を超える場合は作動しません。

●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 24）

※ 二輪車、自転車を含む

⚠ 警告

■衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- ●前方車両※ や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- ●運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●エンジン始動直後
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ・ガラスコーティング剤を使用したとき
  - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
  - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - ・フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - ・マツダ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
  - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）

⚠ 警告

- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※ や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- 前方車両※ や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両※ や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- 前方車両※ の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状･大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両※ のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車両※ が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- 二輪車や自転車が斜め、または横向きに走行しているとき
- 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- 対向車※ やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両※ の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき

⚠ 警告

- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）

●タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき

●歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき

●二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

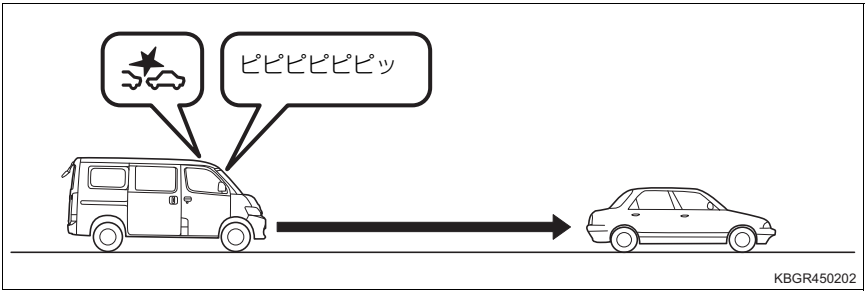
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1～4の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

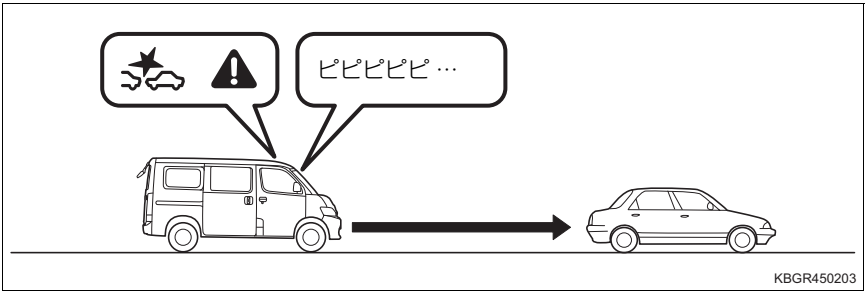
1 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 132）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1 次ブレーキ

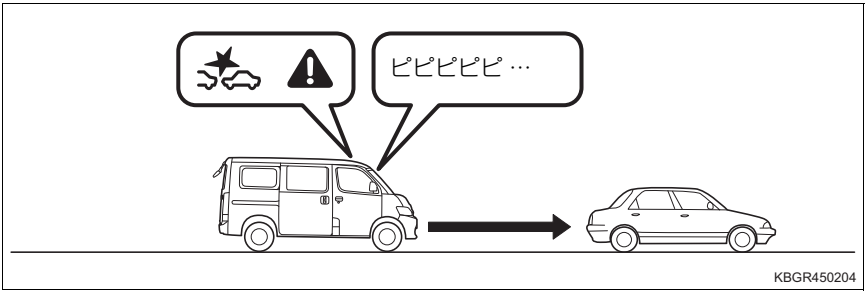


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

※ 二輪車、自転車を含む

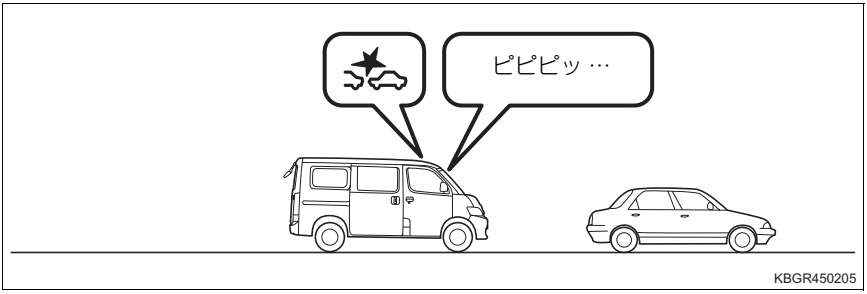
3 2 次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。

ブレーキ制御が解除されたあとも停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。（オートマチックトランスミッション車はクリープ現象により車両がゆっくりと動き出します）

マニュアルトランスミッション車はエンジンが停止した場合、あわてずにエンジンを始動してください。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは歩行者や二輪車・自転車の運転者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●シフトレバーが P（オートマチックトランスミッション車）・R 以外のとき
- ●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差※1
衝突警報機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
被害軽減ブレーキアシスト※4	対車両※2	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 30 ～ 60km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。
※2 二輪車、自転車を含む
※3 昼間、夜間対応
※4 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

知識

■衝突回避支援ブレーキについて

●状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

●衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。

●衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突回避支援ブレーキについて（マニュアルトランスミッション車）

衝突回避支援ブレーキ中にクラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止することがあります。エンジンが停止した場合はあわてずにクラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンを始動してください

■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

●狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき

●前方車両※ に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※ の寸前まで接近して停止するとき

●停止車両※ などの横を至近距離で通過するときや対向車両※ が自車に向かって接近するとき

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

●ステレオカメラの光軸がずれているとき

●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき

●路面上に大きなペイントなどがある場合

●カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき

●カーブですれ違う対向車両※ があるとき

●駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき

●下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき

●バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合

●複数台の前方車両※ などが重なって見えるような場合

知識

●上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
●縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
●先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
●水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
●外部から光の差し込みがあるとき
●車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
●進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
●すれ違う歩行者、先行車両※ の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
●ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
●複雑な形状の車両※のとき
●横断歩行者が自車正面に差しかかる前に立ち止まったとき
●風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 130

■カスタマイズ機能

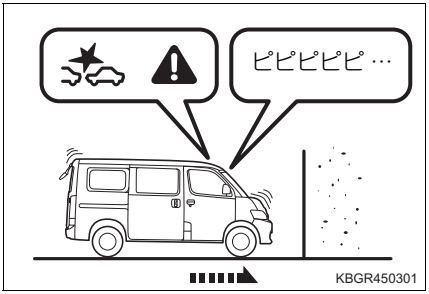
衝突警報機能の設定を変更することができます。（→ P. 51, 297）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）★

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 132）による運転者への警報とエンジン出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

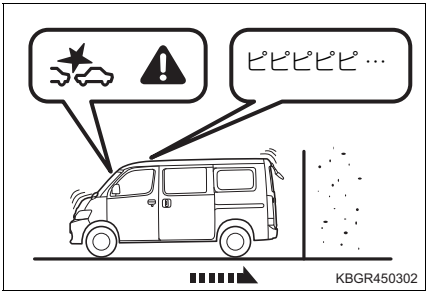
◆ 前方

次の場合に作動します。
ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- ●故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- ●前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- ●万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。(→ P. 130)
- ●運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- ●TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ●エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ●ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- ●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 24)

⚠ 警告

■ **ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況**

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- ●前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●車両の状態（積載量・乗員など）
- ●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- ●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- ●車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- ●車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- ●エンジン始動直後
- ●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- ●前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●勾配が急な坂道を走行しているとき
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - ・前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - ・フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ・ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - ・屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ・ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき

⚠ 警告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

●背の低い障害物

●小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物

●針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物

●急に後方に現れたもの

●車両後方を横切るもの

●人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁

●凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁

●ソナーの認識範囲外に存在する障害物

⚠ 警告

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- ●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- ●路面の状態（勾配・凹凸など）
- ●車両の状態（積載・乗員など）
- ●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- ●エンジン始動直後
- ●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- ●後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ●勾配が急な坂道を走行しているとき
- ●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- ●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - ・バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - ・動いているもの
  - ・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - ・障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - ・障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - ・壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - ・認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
  - ・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - ・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
  - ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - ・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
  - ・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - ・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 警告

■ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 132）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

●後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 132）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 132）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

●エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。

●エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 132）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

●ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

●停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

知識

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジン回転中
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●車速が 0 ～約 10km/h のとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき
- ●メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが D・2・L のとき
  - ・機能停止コード「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが R のとき
  - ・機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき

■ブレーキ制御について

- ●ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ●ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- ●前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ●停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき

知識

●カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
●カーブですれ違う対向車両があるとき
●カーブや交差点に障害物があるとき
●縦列駐車から本線に合流するとき
●駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
●キャリアカーに積載するとき
●河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

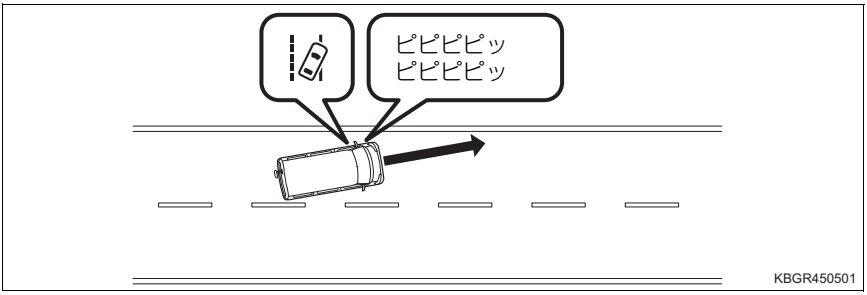
■**衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合**
次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。
●障害物の寸前まで接近して停止するとき
●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
●ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
●水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
●障害物の横を至近距離で通過するとき
●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
●縦列駐車をするとき
●後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
●車両側面の近くに障害物があるとき
●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
●狭いスペースに進入するとき
●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●積載状況などにより車高が著しく変化した場合
●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
●雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
●排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■**ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）を停止するには**
→ P. 130

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。

ブザーとメーター内の表示灯（→ P. 132）で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

■車線逸脱警報機能について

- ●車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- ●車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。
- ●車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能が作動しない場合があります。
- ●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能が作動しない場合があります。

- ●車線内を走行していないとき
- ●カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- ●車線幅が狭いときや広いとき
- ●方向指示レバーを使用しているとき
- ●急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

⚠ 警告

■車線逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- ●路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- ●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- ●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- ●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- ●道路の状態（特に次のような場合）
  - ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
  - ・道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - ・車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - ・車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
  - ・坂道や丘の頂上に近付いているとき
  - ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
  - ・路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
  - ・道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
  - ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
  - ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
  - ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - ・ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  - ・分岐・合流路などを走行するとき
  - ・急なカーブのある道路を走行するとき
  - ・カーブの形状が変化するとき
  - ・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

⚠ 警告

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき

●車線変更をした直後

●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき

●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき

●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●区画線に急に接近する場合

●雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

知識

■車線逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- ●急なハンドル操作をしていないとき
- ●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ●システムが左右いずれかの白（黄）線を認識しているとき
- ●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 157）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞き取りにくい場合があります。

■車線逸脱警報機能を停止するには

→ P. 130

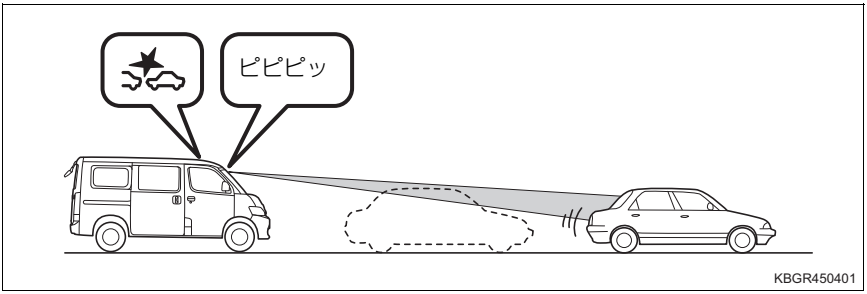
■カスタマイズ機能

車線逸脱警報機能の設定を変更することができます。（→ P. 51, 297）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 132）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ停止」が表示されていないとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●オートマチックトランスミッション車は、シフトレバーが D・2・L でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- ●マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーが R 以外でブレーキペダルを踏んでいるとき
- ●停止してから数秒経過したとき

知識

■先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- ●停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- ●停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- ●天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ●ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- ●横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- ●自車が停止したときに先行車が動いている場合
- ●先行車との距離が極端に短いとき
- ●先行車が急発進や急旋回した場合
- ●先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- ●先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ●車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- ●荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- ●後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- ●車高の低い先行車のとき
- ●車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ●ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- ●凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

■先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 130

■カスタマイズ機能

- ●ブザーの音量を変更することができます。（→ P. 51, 297）
- ●ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 51, 297）

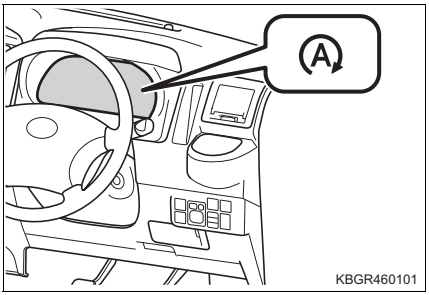
アイドリングストップシステム（eco IDLE※）

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 9km/h）または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダル（オートマチックトランスミッション車）またはクラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）の操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

※ “eco IDLE” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

エンジンが停止する

1 走行中（オートマチックトランスミッション車はシフトレバーが D のとき）、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する（→ P. 163）



▶オートマチックトランスミッション車

2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する

eco IDLE 表示灯は点灯したままです。

▶マニュアルトランスミッション車

2 停車後にシフトレバーを N にし、クラッチペダルから足を離すとエンジンが自動的に停止する

eco IDLE 表示灯は点灯したままです。

エンジンが再始動する

▶オートマチックトランスミッション車

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

eco IDLE 表示灯が消灯します。

しばらく走行して、再度エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯します。

▶マニュアルトランスミッション車

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込むと、エンジンが再始動する

再始動したことを確認してから、シフトレバーを操作してください。

eco IDLE 表示灯が消灯します。

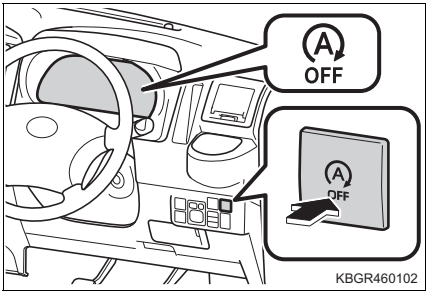
しばらく走行して、再度エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

●eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。

●eco IDLE が非作動のとき、再度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに（eco IDLE が作動可能状態に戻る）、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム（オートマチックトランスミッション車）

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■eco IDLE の作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。
- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき（eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分温まっているとき
- 押しがけによる始動をしていないとき（マニュアルトランスミッション車）
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき（オートマチックトランスミッション車）
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
- バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0 ℃以上のとき
- シフトレバーが D のとき（オートマチックトランスミッション車）
- センターデフロックスイッチ★が OFF のとき
- システム（eco　IDLE・エンジン電子制御・オートマチックトランスミッション★・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき

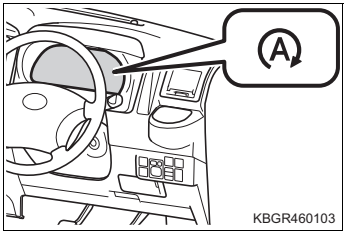
●次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。
- バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件がすべて満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



■停車前のエンジン停止条件（オートマチックトランスミッション車）

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。

- 車速が約 9km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ランプスイッチが OFF のとき
- フロントワイパーが作動していないとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

●次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ゆるやかに減速しているとき

知識

■停車後のエンジン停止条件

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。
- 停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき（オートマチックトランスミッション車）
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき（オートマチックトランスミッション車）
- クラッチペダルから足を離しているとき（マニュアルトランスミッション車）
- シフトレバーが N のとき（マニュアルトランスミッション車）
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

●次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道で停車したとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■エンジン停止中の操作について

●右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む（オートマチックトランスミッション車）
- ハンドル操作をする（オートマチックトランスミッション車）
- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアルトランスミッション車）
- eco IDLE OFF スイッチを押す（→ P. 161）

●給油時はシフトレバーをオートマチックトランスミッション車はPに、マニュアルトランスミッション車は N にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■エンジン停止中の操作について（オートマチックトランスミッション車）

●エンジン停止中にシフトレバーを D から R 以外にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N または P にしたあと他のシフトポジションにするとエンジンが再始動します。
- エンジン停止中にシフトレバーを D から P に操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。

知識

■エンジンの再始動について

●エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
- ブレーキペダルから足を離したとき（オートマチックトランスミッション車）
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき（オートマチックトランスミッション車）
- アクセルペダルを踏んだとき（オートマチックトランスミッション車）
- ハンドル操作をしたとき（オートマチックトランスミッション車）
- シフトレバーを R にしたとき（オートマチックトランスミッション車）
- シフトレバーを N・P にしたあと、他のシフトポジションにしたとき（オートマチックトランスミッション車）
- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んだとき（マニュアルトランスミッション車）
- eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- 運転席シートベルトを外したとき
- センターデフロックスイッチ★を ON にしたとき

●エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- 傾斜などで車両が動き出したとき
- 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき（オートマチックトランスミッション車）
- 警告灯が点灯（→ P. 266）するなど、各システム（エンジン電子制御・オートマチックトランスミッション★・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング）に異常が発生したとき
- エンジン停止してから約 3 分経過したとき

●エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅し、エンジンが自動的に再始動します。

●次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。
- 電装品などの消費電力が大きいとき

●オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●エンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■エンジンの再始動について（マニュアルトランスミッション車）

●エンジン停止中にシフトレバーを N から他のシフトポジションに操作した場合、クラッチペダルを踏み込む以外の操作でエンジンを再始動することができません（警告ブザーが鳴り、eco IDLE 表示灯が高速点滅します）。シフトレバーを N に戻すと、他のエンジン再始動条件で再始動することができます。

●クラッチペダルを踏み込んでエンジンを再始動するときは、エンジンが再始動したことを確認できるまでクラッチペダルを踏み続けてください。再始動中にシフトレバーを操作してクラッチペダルから足を離すと、エンジン停止状態に戻ります（警告ブザーが鳴り、eco IDLE 表示灯が高速点滅します）。この場合は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動してください。

■eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態に戻ります。

■ヒルスタートシステムについて（オートマチックトランスミッション車）

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルの踏み応えが変わる
- ブレーキペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する

■eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

●運転席ドアが開いたとき

●運転席シートベルトを外したとき

●クラッチペダルを踏み込まずにシフトレバーを N 以外にしたとき（マニュアルトランスミッション車）

知識

■eco IDLE OFF 表示灯が点滅したままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅したときは

バッテリーの交換時期です。マツダ販売店で点検を受けてください。

■エンジン停止中のエアコンについて

●エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、次のいずれかの操作でエンジンを再始動させてください。

- eco IDLE OFF スイッチを押す
- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアルトランスミッション車）
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む（オートマチックトランスミッション車）

■エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

●次のいずれかの操作でエンジンを再始動させてください。

- eco IDLE OFF スイッチを押す
- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアルトランスミッション車）
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む（オートマチックトランスミッション車）

● A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切り替えて曇りを取ってください。

●断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間表示とアイドリングストップ積算時間表示

→ P. 50

■バッテリーを交換するとき

→ P. 286

知識

■eco IDLE を正常に作動させるために

●次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する
- 運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

●バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

⚠ 警告

■eco IDLE が作動しているとき

●エンジン停止中はブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ブレーキペダルから足を離す（オートマチックトランスミッション車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

●オートマチックトランスミッション車は、エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

●マニュアルトランスミッション車は、エンジン停止中にクラッチペダルを踏み込まずにシフトレバーを N から他のレンジに操作すると、警告ブザーが鳴ります。クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動するか、シフトレバーを N に戻してください。

⚠ 警告

■ヒルスタートシステムについて（オートマチックトランスミッション車）

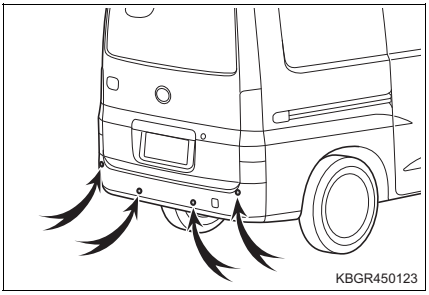
- ●ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ●ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ●ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ●ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。
  車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- ●重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとメーターの表示で運転者にお知らせする装置です。

ソナーの位置

ソナーは、コーナーセンサーで必要な情報を認識します。



距離とブザーについて

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとメーターの表示で運転者にお知らせします。

●障害物との距離が短くなると、ブザーが次の表の通り変化します。

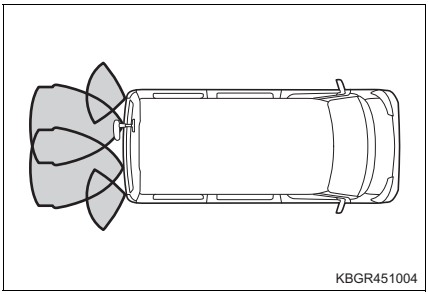
ブザー	メーターの表示	ソナーと障害物との距離
ピッ … ピッ … ピッ …（断続音）		約 150 ～ 60cm※
ピッピッピッ …（断続音）		約 60 ～ 45cm
ピピピ …（断続音）		約 45 ～ 30cm
ピー（連続音）		約 30cm 以内

※ 車両中央 2 箇所のソナーのみ認識

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

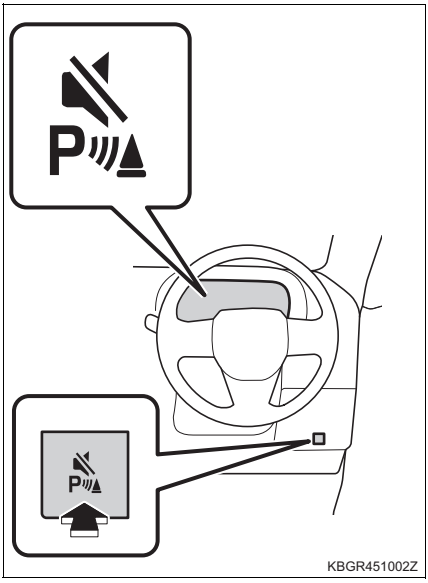
ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。
ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。


KBGR451004

ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザー OFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このときコーナーセンサーブザー OFF 表示灯が点灯します。


KBGR451002Z

知識

■作動条件

●次の条件をすべて満たしたときに作動します。
- エンジンスイッチが“ON”のとき
- シフトレバーが R のとき

●作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

知識

■ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

- ●コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す
- ●シフトポジションを切り替える
- ●一定以上の車速で走行する
- ●一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にする

■ソナーの認識について

- ●ソナーの認識範囲は車両後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- ●障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- ●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサー表示灯が点灯したときは

- ●コーナーセンサーの機能が低下しています。

  コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。雨、雪、氷、汚れなどが付着していない場合は、コーナーセンサーの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- ●マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■シフトレバーを R にしても、メーター内に「R」が表示されないときは（マニュアルトランスミッション車）

システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

■コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●障害物の横を至近距離で通過するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- ●車両側面の近くに障害物があるとき

知識

●路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
●狭いスペースに進入するとき
●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
●他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
●ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●積載状況などにより車高が著しく変化したとき
●衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
●雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 298）

⚠ 警告

■コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
●ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
●ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

■コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●路面の状態（勾配、凹凸など）
●車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき

⚠ 警告

●障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
- 地面から高い位置に存在する障害物のとき
- 背の低い障害物のとき
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
- 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
- 障害物の面が車両に対して斜めのとき
- 地面に対して垂直でない壁のとき
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
- 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）★の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- ●障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
- ●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- ●事故などでソナー周辺が変形したとき
- ●スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 267, 271）

■ 洗車時の注意

- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

センターデフロック★

ぬかるみなどでスタックした場合の脱出時など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

センターデフロックの使い方

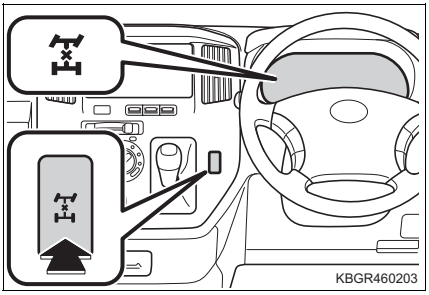
1 車両を完全に停車させる

2 シフトレバーを N にする

3 センターデフロックスイッチを押す

センターデフロック状態になると、センターデフロック表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除され、センターデフロック表示灯が消灯します。



知識

■センターデフロックの使用条件

次の条件をすべて満たしているときに使用可能です。

- ●エンジンスイッチが“ON”のとき
- ●シフトレバーが N のとき
- ●車両が完全に停車しているとき

■センターデフロックについて

- ●センターデフロックでの急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。
- ●センターデフロックスイッチでセンターデフのロックを解除して、センターデフロック表示灯が消灯してもセンターデフのロックが解除されない場合があります。車両旋回時などで、ハンドル操作が重く感じられる場合は、周囲の安全を確認して加減速または後退してください。
- ●デフロックは、ぬかるみなどの緊急脱出時のみ使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

●切り替え操作は、必ず車輪が完全に停止した状態で行ってください。車輪が空転したままでセンターデフロックスイッチを操作すると、車体が思わぬ方向へ飛び出すおそれがあります。

■センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

●お車が完全に止まらないうちはセンターデフロックスイッチを操作しないでください。駆動装置が損傷するおそれがあります。

●乾燥した舗装路面および高速走行では、必ずセンターデフロックスイッチをOFF にして走行してください。センターデフロック状態で走行すると、駆動系に無理な力がかかり、駆動装置が破損するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム★

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ スマートアシスト

→ P. 127

◆ エマージェンシーストップシグナル

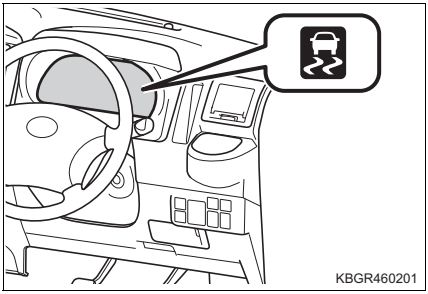
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。（使用許諾済）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



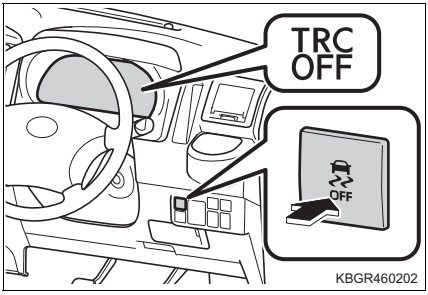
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度 OFF を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



知識

■VSC と TRC を停止するには

VSCとTRCを停止するには、停車時に  を3秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■  を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルホールドシステム★が作動できない状態になっています。マツダ販売店にご相談ください。

■ABS・VSC の作動について

ABS・VSC は、低速では作動しません。通常のブレーキと同じ作動になります。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルホールドシステム★の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチを “OFF” にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

  ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ヒルホールドシステム★の作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- シフトレバーが P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルホールドシステム★の自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または、N にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■スリップ表示灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。マツダ販売店に連絡してください。

■エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された、または ABS が作動した

■エマージェンシーストップシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された
- ABS が作動停止した

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルホールドシステム★の効果を発揮できないとき

●ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。

●ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 178）が作動しないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 296）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、マツダ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

●次のものはそれぞれ外気温に適したものを使用してください。

- エンジンオイル
- 冷却水
- ウォッシャー液

●バッテリーの点検を受けてください。

●冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後輪用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 223）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

●フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

●外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

●お車の下まわりをのぞいて、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

●乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

●ゆっくりスタートし、車間距離を十分に取って控えめな速度で走行してください。

●積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

駐車するとき

●パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチックトランスミッション車は P、マニュアルトランスミッション車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、必ず輪止め※1 をしてください。
輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●オートマチックトランスミッション車は、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2 を確認してください。

※1 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取り外し・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。マツダ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を下げてください。

⚠ 警告

■ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●同一メーカー·同一銘柄·同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する

●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

●空気圧を指定値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

●マツダ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

マツダ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行の妨げとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

●タイヤチェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。

- VSC
- TRC

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ ドアやワイパー、ガラスが凍結したとき

●ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

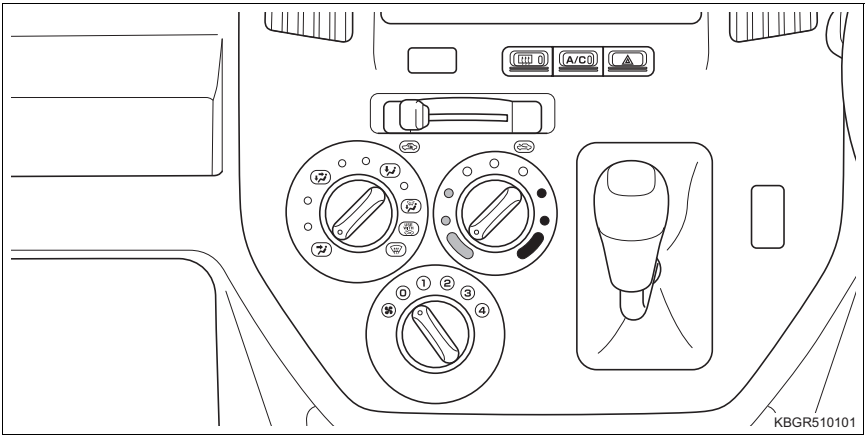
熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

●凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方
マニュアルエアコン …… 190
リヤヒーター …… 195
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 …… 196
5-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 198
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 202

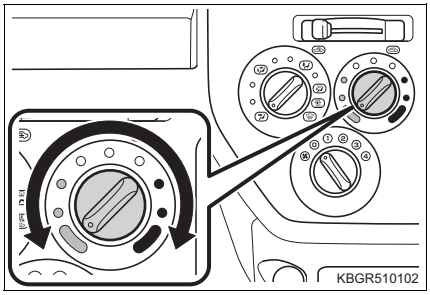
マニュアルエアコン



エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときには左に回す



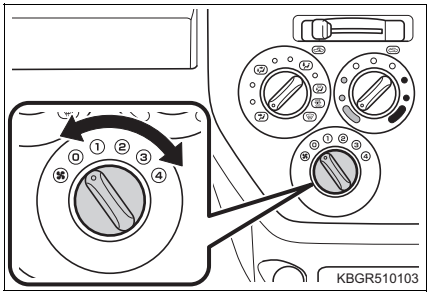
A/C を押すと冷房・除湿機能が使用できます。

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切り替える

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左に回す

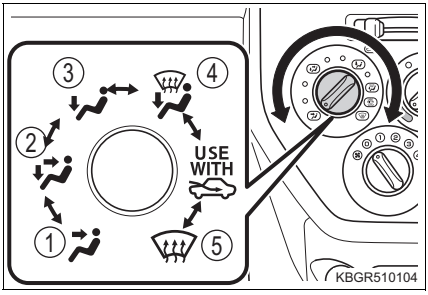
送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる



■ 吹き出し口を切り替える

吹き出し口切り替えダイヤルを回す

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る
⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内外気切り替えレバーを の位置に操作すると外気導入、 の位置に操作すると内気循環に切り替わります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切り替えダイヤルを に回し、内外気切り替えレバーを に操作する

A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォッガー

リヤウインドウの曇りを取るときに使用してください。

を押す

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

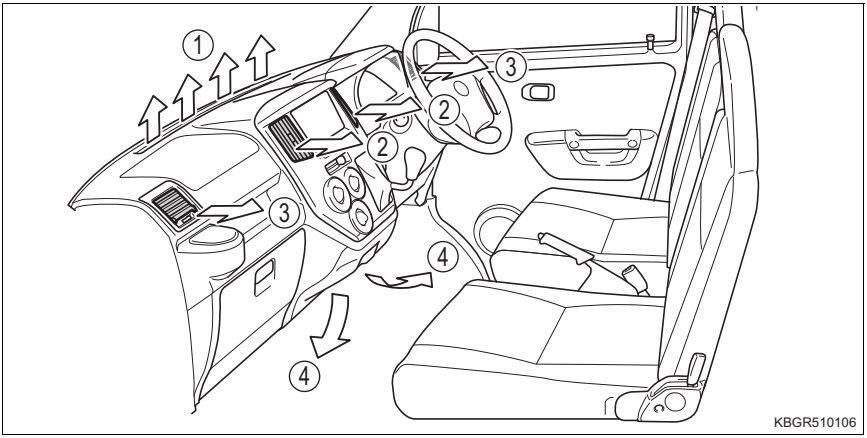
吹き出し口切り替えダイヤルの位置により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

(　) は特に風量が少ないものを示します。

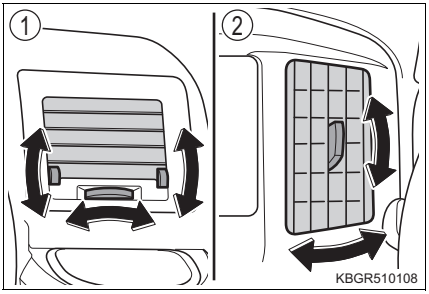
▶吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

① 左右吹き出し口

② 中央吹き出し口



知識

■ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■外気温度が 0 ℃付近まで下がったとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ USE WITH について

このマークは、吹き出し口切り替えダイヤルを または に合わせるときに内外気切り替えレバーを にすることをおすすめするためのものです。

内外気切り替えレバーを にすることでガラスが曇りにくくなります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

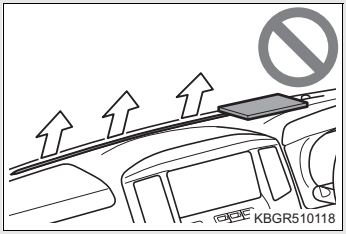
→ P. 228

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを または の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

■内気循環について

吹き出し口切り替えダイヤルの位置が 、 または のときに内外気切り替えレバーを の位置に操作しないでください。ガラスが曇りやすくなります。

リヤヒーター★

車内の後方部分を暖房することができます。

リヤヒーターの使い方

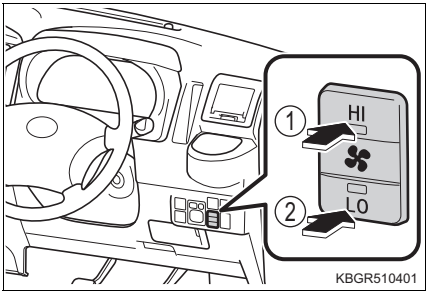
■ リヤヒーターを使用するときは

スイッチを押すと、リヤヒーターが作動します。

① 強風で使用する

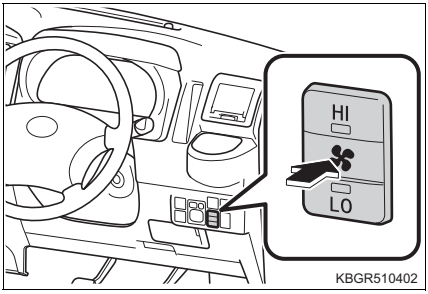
② 弱風で使用する

リヤヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。



■ リヤヒーターを使用しないときは

スイッチを中立の位置にすると、リヤヒーターが OFF になり、作動表示灯が消灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

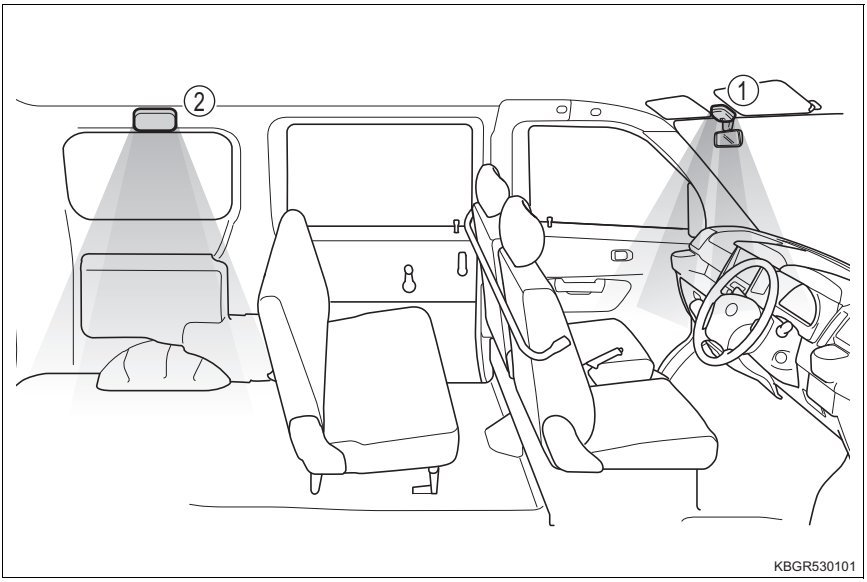
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧



① ルームランプ

② ラゲージルームランプ

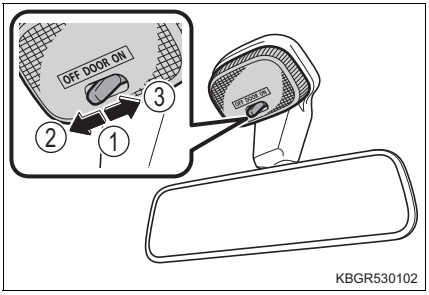
ルームランプ

① ドアポジション（ドア連動）

ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。

② ランプを消灯する

③ ランプを点灯する



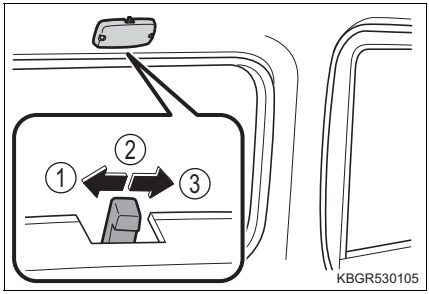
ラゲージルームランプ

① ドアポジション（ドア連動）

ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。

② ランプを消灯する

③ ランプを点灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ランプのスイッチがドアポジションのとき、次の場合に各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

- ドアを施錠・解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- エンジンスイッチを操作したとき

■バッテリーあがりを防止するために

- 半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- ランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

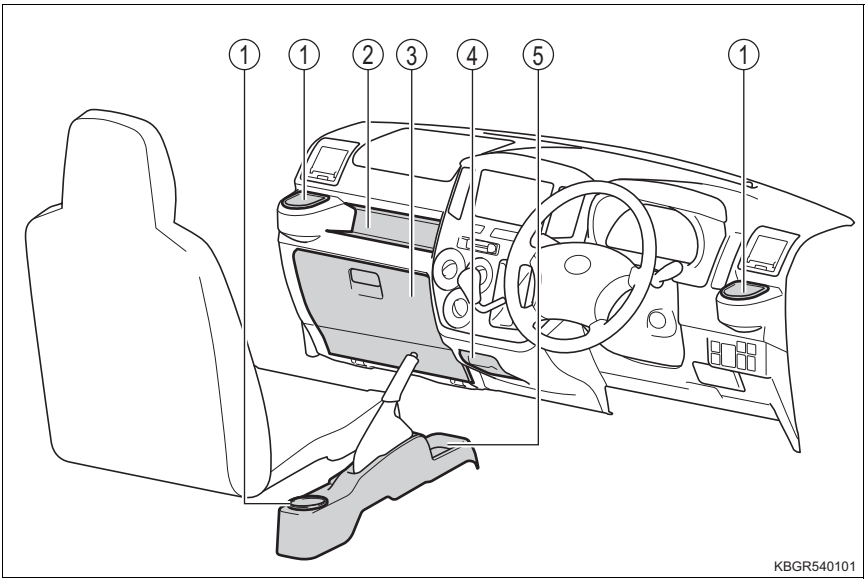
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ機能一覧：→ P. 297）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① カップホルダー（→ P. 200）
② オープントレイ（→ P. 199）
③ グローブボックス（→ P. 199）
④ 小物入れ（→ P. 199）
⑤ センターコンソールボックス（→ P. 200）

⚠ 警告

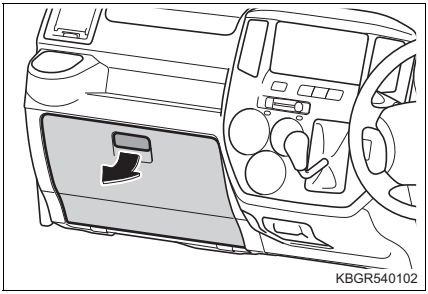
●メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる

●走行中にものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

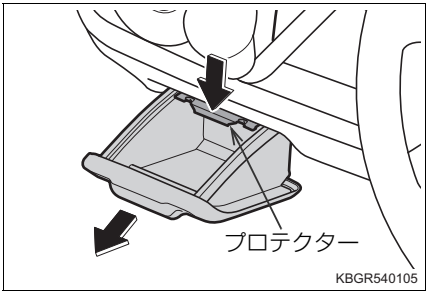
レバーを引いて開ける


KBGR540102

小物入れ

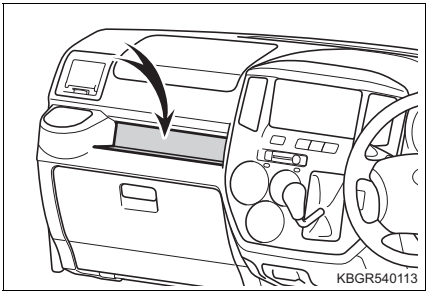
引き出して使用する

取り外すときは、プロテクターを下に押したまま引き出します。



KBGR540105

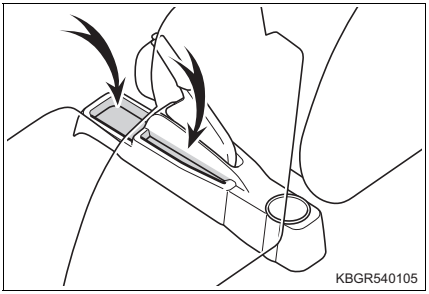
オープントレイ


KBGR540113

⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センターコンソールボックス

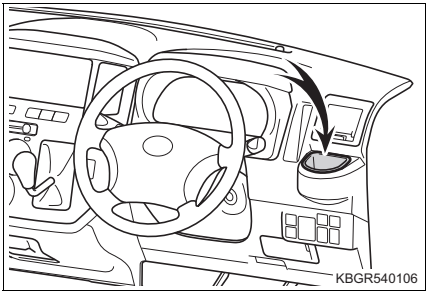


⚠ 警告

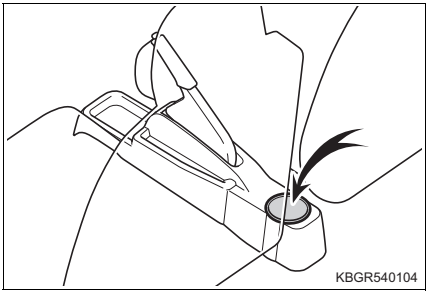
走行中はボックス内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

■ 運転席／助手席



■ センターコンソールボックス



⚠ 警告

●カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
●運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中はホルダー内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

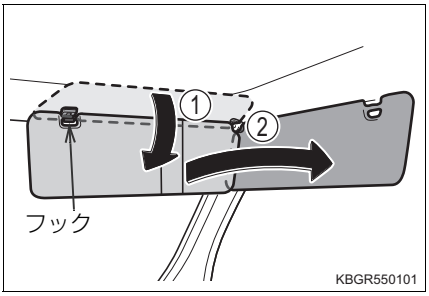
●ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。
●故障を防ぐため、飲みものがこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

その他の室内装備

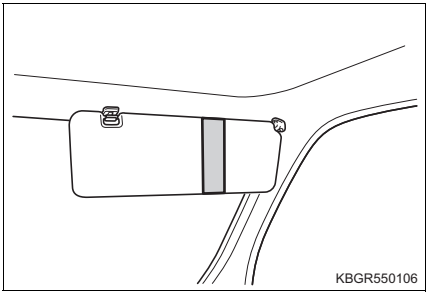
サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックから外し、横へ回す



■ チケットホルダー



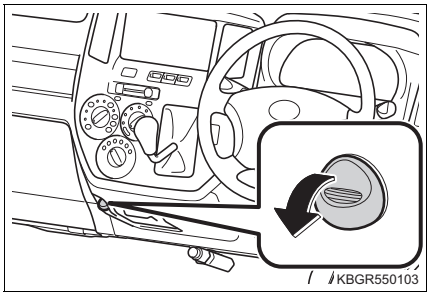
⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使用してください。

ふたを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■eco IDLE によるエンジン再始動時について

エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがありますが、異常ではありません。

■エンジンスイッチを“OFF”にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品を外してください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に "OFF" にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

■電気容量について

電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量を超える電気製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。

■ショートや故障を防止するために

異物が入ったり、液体などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■バッテリーあがりを防止するために

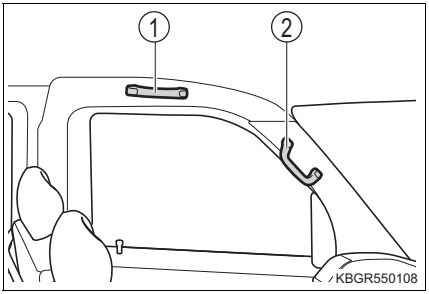
- エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

アシストグリップ／乗降グリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。
乗降時などでは、フロントピラーに取り付けられている乗降グリップを使用してください。

① アシストグリップ

② 乗降グリップ



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップ／乗降グリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 206
内装のお手入れ …… 210
6-2. 簡単な点検・部品交換
エンジン点検口 …… 213
ボンネット …… 216
ガレージジャッキ …… 219
エンジンオイルについて … 220
ウォッシャー液の補充 …… 221
タイヤについて …… 223
タイヤ空気圧について …… 226
エアコンフィルターの交換 …… 228
ワイパーゴムの交換 …… 230
キーの電池交換 …… 234
ヒューズの点検・交換 …… 237
電球（バルブ）の交換 …… 240

外装のお手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

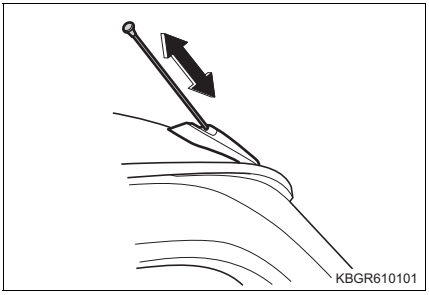
- ●水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- ●車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- ●汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- ●水をふき取る
- ●水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、格納することができます。

ラジオ受信時は、いっぱいまで引き出して使用してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する

・アンテナを格納する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態に戻してください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付け過ぎたり、同じ場所に連続して当てたりしないでください。

■洗剤やワックスを使うとき

●お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

●塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない

・硬いブラシを使用しない

・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

●光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするとき

●エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

■アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

●次のようなときはアンテナを格納してください

- 車庫の天井などにアンテナが当たるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

⚠ 注意

■洗車時の注意

- ●洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。
- ●給油扉が閉まっていることを確認してください。高い水圧により給油扉が勢いよく開き、車体や給油扉が損傷するおそれがあります。
- ●高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤、ワックスは使用しないでください。

■自動洗車機を使用するときは

エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。

■高圧洗車機を使用するときは

- ●洗車時に高圧洗車機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付け過ぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- ●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水を当てないでください。
- ●フロントウインドウガラス下部へ連続して水を当てないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装のお手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

●汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりや砂を取り除く

●薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分のお手入れ

●掃除機などでほこりを取り除く

●中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安
品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄
カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くようにぬり込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト
刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 29)

電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

●メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。

変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

●各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰でお車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、お車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を清掃するとき

ステレオカメラに触れないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストの誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■液体芳香剤を使用するときは

こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

エンジン点検口

フロントシートを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

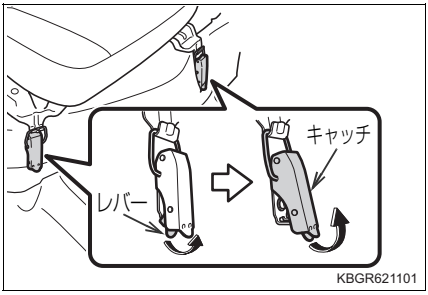
エンジン点検口の開け方

■ 開けるときは

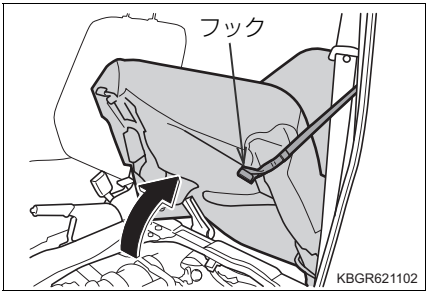
1 フロントシートを前倒しする（→ P. 70）

2 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチのロックを解除する

レバーを手前に引き、キャッチを引き上げてロックを解除してください。



3 フロントシートを持ち上げて、バンドをフックにかけて固定する

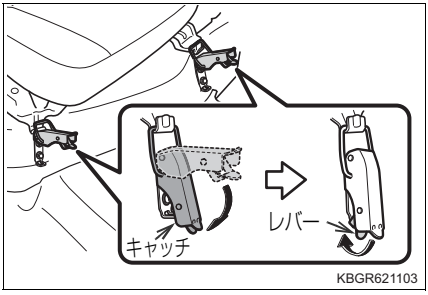


■ 閉めるときは

1 フックにかけたバンドを外し、フロントシートを下ろす

2 運転席 2 か所、助手席 2 か所のキャッチを確実にロックする

キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。

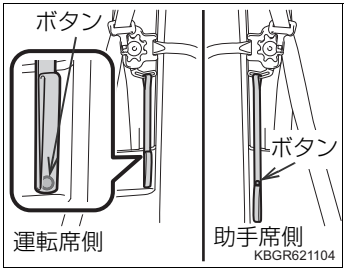


3 フロントシートの背もたれをもとに戻す（→ P. 70）

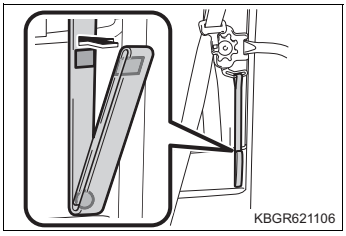
知識

■バンドの位置

ピラー部（ルームセパレーターバー下部）にあります。



- ●使用しないときは、ピラー部にボタンで取り付けておきます。
- ●運転席側は、ボタンで取り付けたあと、先端を折り返します。



■バッテリー端子を外すときは

バッテリー端子を外すと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子を外すときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

点検口を閉めたあとは、確実にロックされていることを確認してから走行してください。確実にロックされていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジン点検口を点検したあとは

エンジン始動前にエンジン点検口内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン点検口内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にエンジン点検口内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。

■オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントシートを持ち上げるときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中にフロントシートを持ち上げない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチックトランスミッション車はシフトレバーを P に、マニュアルトランスミッション車はシフトレバーを 1 速※ にする
- ●お子さまに操作させない

※ エンジンをかけたままフロントシートを持ち上げるとき、またはフロントシートを持ち上げたあとにエンジンの始動が必要な場合は、必ずシフトレバーを N にしてください。

■フロントシートを下ろすときは

フロントシートを下ろすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■フロントシートを下ろすときは

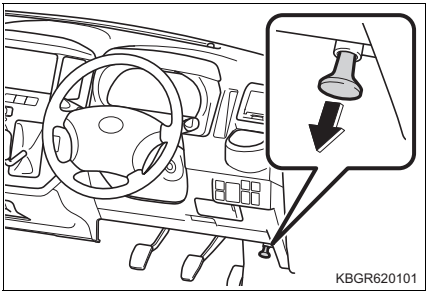
シートベルトを挟み込まないように注意してください。

ボンネット

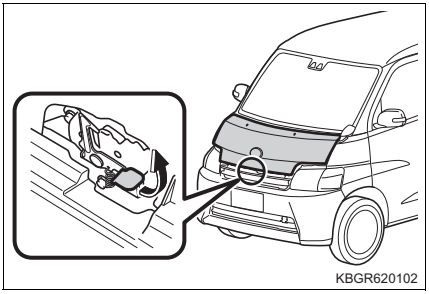
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットを開ける

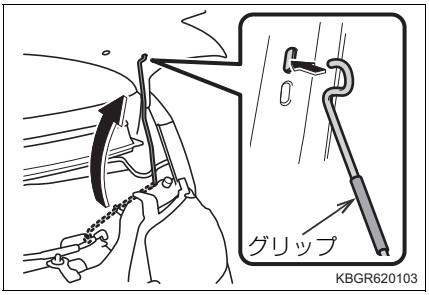
1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



3 グリップ部を持ってボンネットステーを外し、ステー穴に差し込む



ボンネットを閉める

1 ボンネットを片手で支える

2 グリップ部を持ってボンネットステーを外してもとの位置へ戻す

3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

⚠ 警告

■走行前の確認

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■けがを防ぐために

走行後のボンネット内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

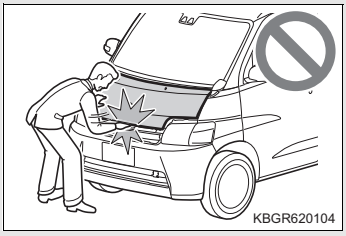
■ボンネット内点検後の確認

エンジン始動前にボンネット内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、ボンネット内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

また、走行中にボンネット内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。


KBGR620104

⚠ 注意

■ **ボンネットを開けるとき**

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■ **ボンネット内を点検するときは**

フロントガラス下部周辺にものを置かないでください。ボンネット内部にものが落下し、故障につながるおそれがあります。

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しく戻してください。

ステーを正しく戻さない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

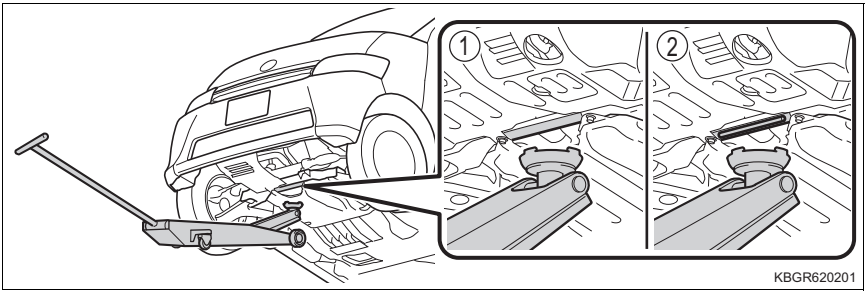
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

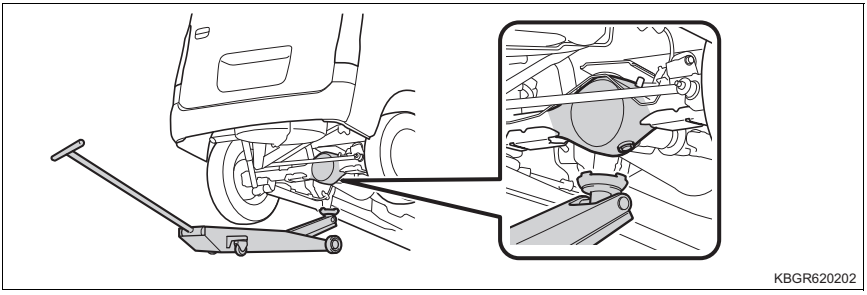
◆ フロント側



① 2WD 車（後輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



エンジンオイルについて

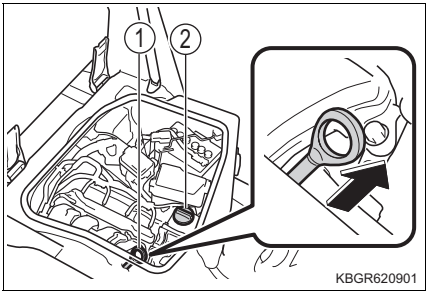
点検

エンジンオイルの量は、定期的に点検してください。また、高速走行を行う前は、必ず点検してください。

点検はオイルレベルゲージを抜き取って行います。

① オイルレベルゲージ

② オイルフィラーキャップ



エンジンルームのイラストは代表例です。

知識

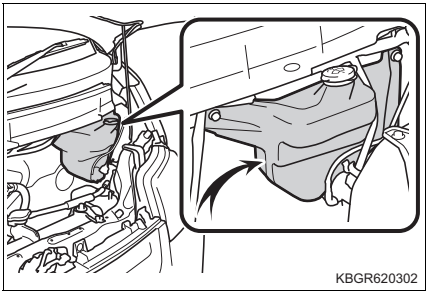
■エンジンオイルについて

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィラーキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機などで水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

ウォッシャー液の補充

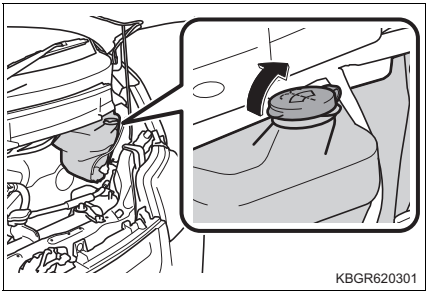
点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



補充のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



知識

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液の代わりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

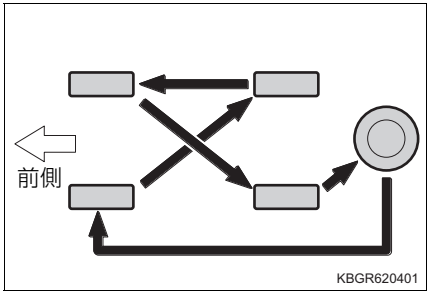
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、マツダは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

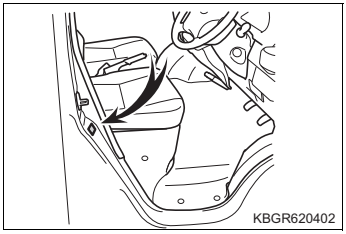


知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
165/80R14 97/95Q LT	軽積載時	220（2.2）	260（2.6）
	定積載時	220（2.2）	450（4.5）

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

⚠ 警告

●他車で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横滑りする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 280）

テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。（→ P. 296）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ●燃費の悪化
- ●乗り心地や操縦安定性の低下
- ●摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ●安全性の低下

頻繁にタイヤ空気圧が低下する場合は、マツダ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ●タイヤが冷えているときに点検する
- ●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ●荷物を積むとき、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- ●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップを外していると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

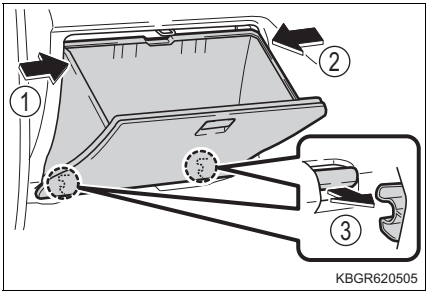
1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 グローブボックスを取り外す

① 左側面を内側に押して上部のツメを外す

② 右側面を内側に押して上部のツメを外す

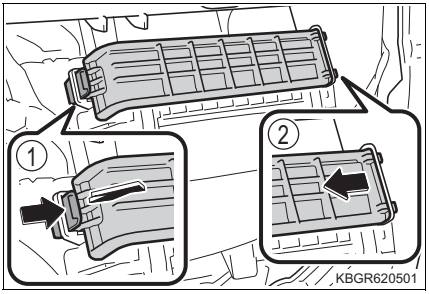
③ 下部のツメを外す



3 フィルターカバーを取り外す

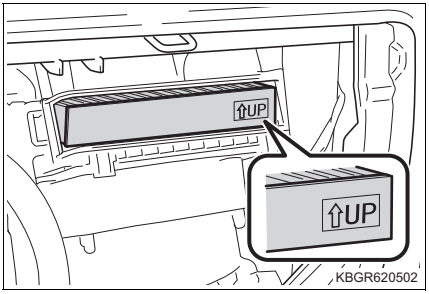
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く



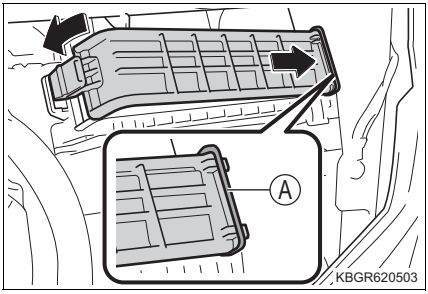
4 フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



5 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

フィルターカバーは A 部に入れてから、取り付けてください。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km［10,000km※］ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

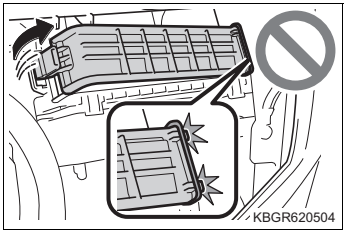
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。

  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

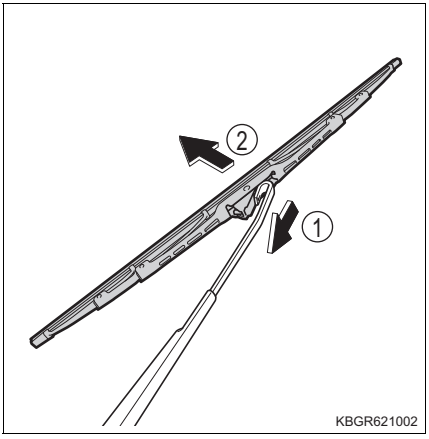
フロントワイパー

■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ブレードのツメが見える角度まで傾ける。



2 ツメを押しながら、ワイパーブレードをスライドさせ（①）、ワイパーアームから取り外す（②）

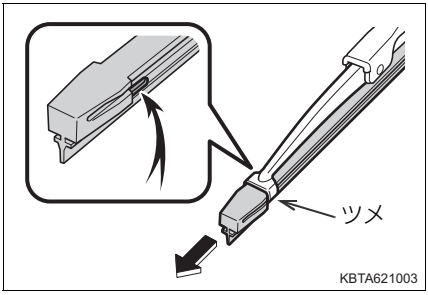


3 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

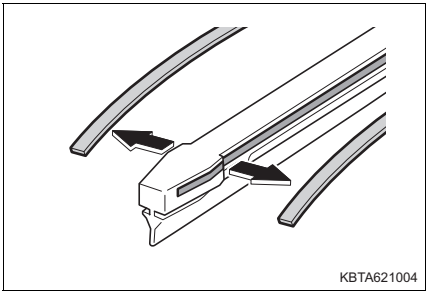
■ フロントワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメから外し、そのまま引き抜く



2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。



3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

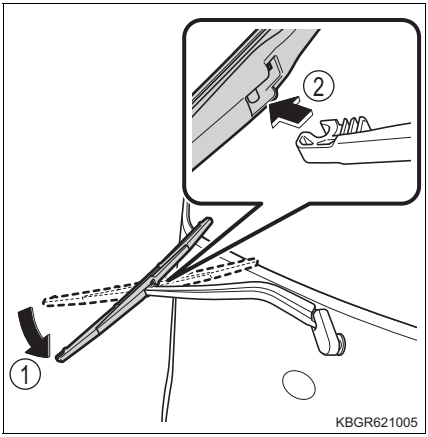
リヤワイパー★

■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取り外す

① ツメのかん合が外れる位置までワイパーブレードを回す

② ワイパーアームからワイパーブレードを取り外す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

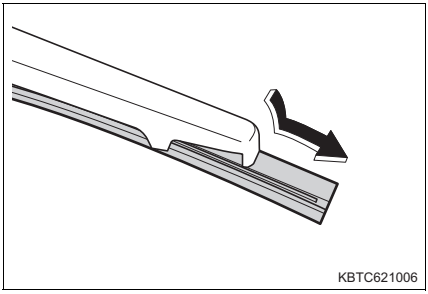
2 ワイパーブレードを取り付けるときは 1 と逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

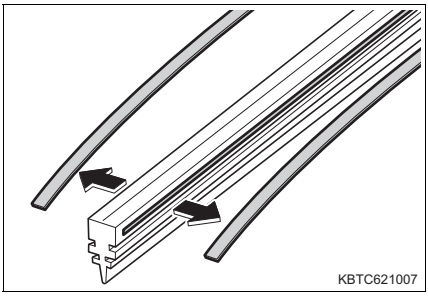
■ リヤワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く


KBTC621006

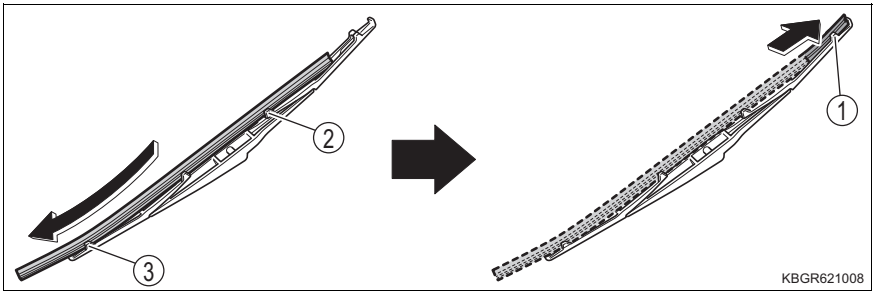
2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。


KBTC621007

3 ワイパーブレードの②のツメを通してワイパーゴムを挿入し、③のツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った ① のツメに通す

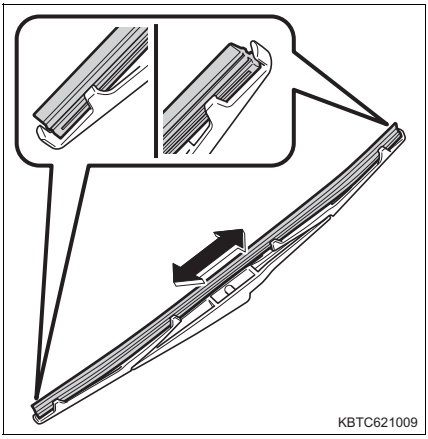
ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



KBGR621008

4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。
- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームの間に布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換★

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

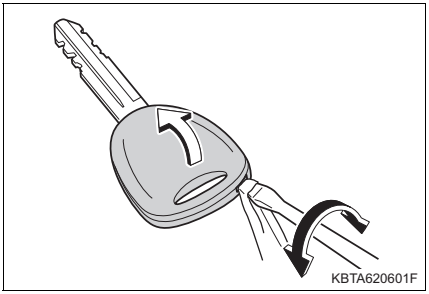
●薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）

●リチウム電池 CR2032

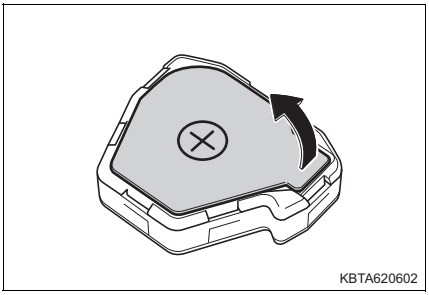
電池交換のしかた

1 カバーを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

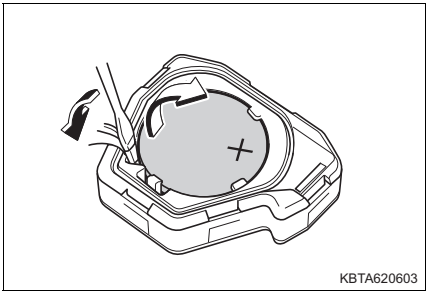


2 モジュール裏側のゴムカバーを外す



3 消耗した電池を取り出す

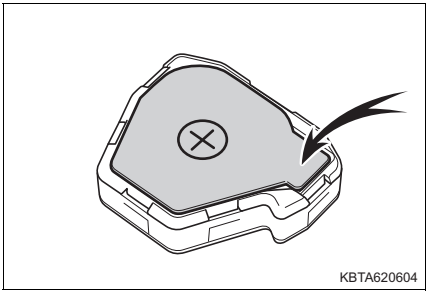
新しい電池は ＋ 極を上にして取り付けます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

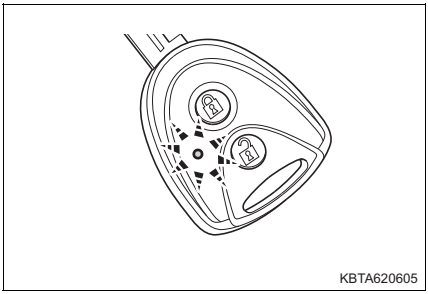
4 モジュールにゴムカバーを取り付ける

ゴムカバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。ゴムカバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。


KBTA620604

5 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認してください。


KBTA620605

知識

■電池の交換について

誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はマツダ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

⚠ 警告

■取り外した電池と部品について

お子さまに触れさせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■電池交換の留意事項

電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できるものをあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない

錆の原因になります。

●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

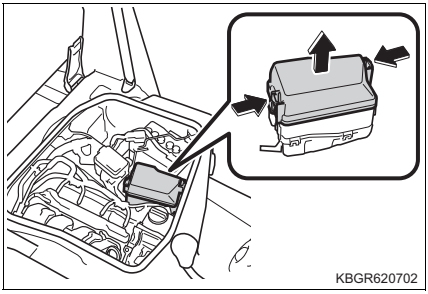
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを“OFF”にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶エンジンルーム

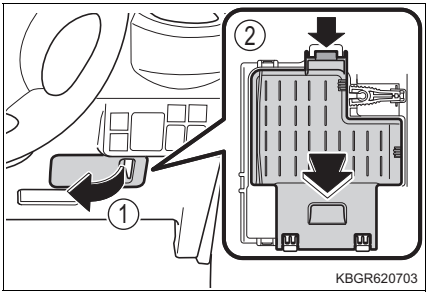
エンジン点検口（→ P. 213）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



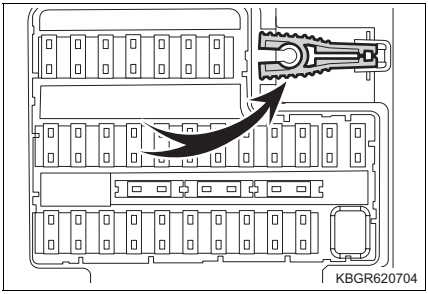
▶運転席足元

① カバーを引いて外す

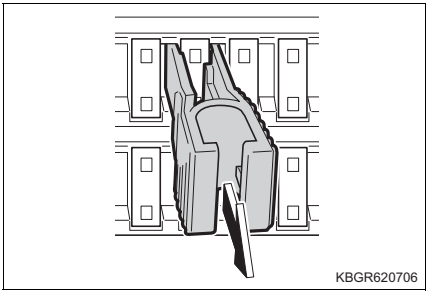
② ツメを押しながら、カバーを外す



3 ヒューズ外しを運転席足元のヒューズボックスから取り出す



4 ヒューズをヒューズ外しで挟んで外す


KBGR620706

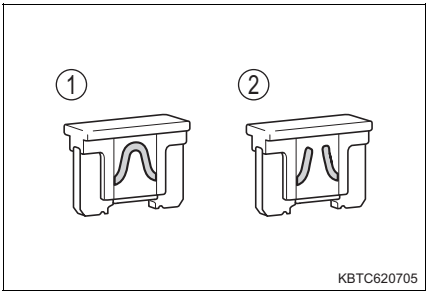
5 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

他に原因が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



KBTC620705

6 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

知識

■ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 240）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合、または電気系統の装置が働かない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているマツダ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のマツダ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずマツダ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

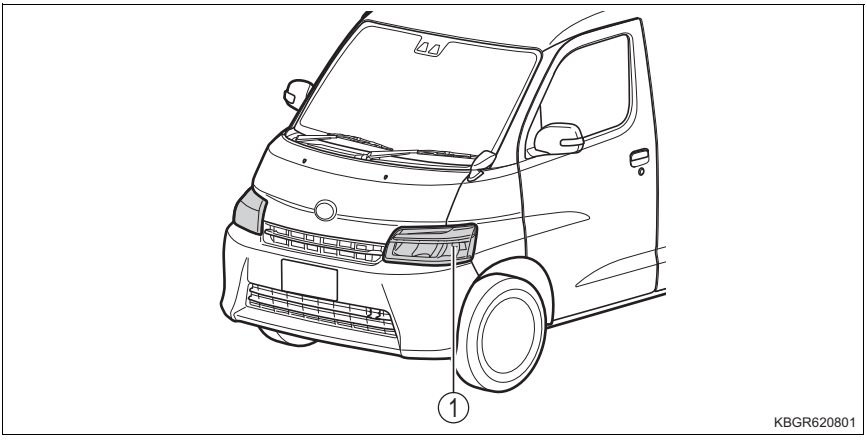
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、マツダ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 296）

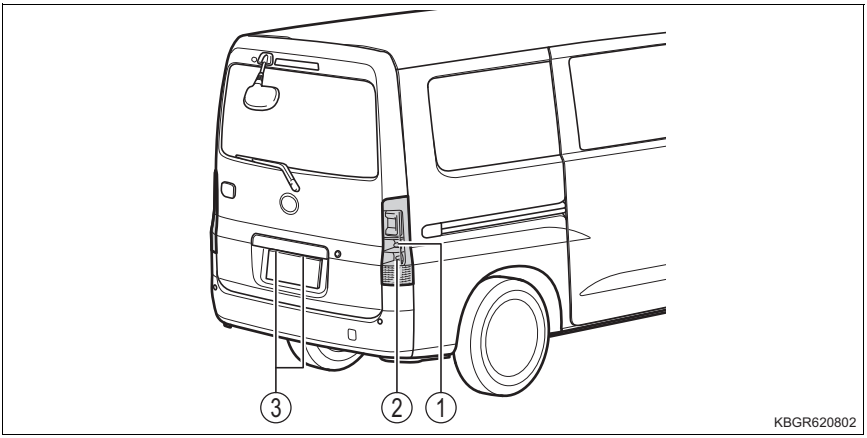
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



① リヤ方向指示／非常点滅灯

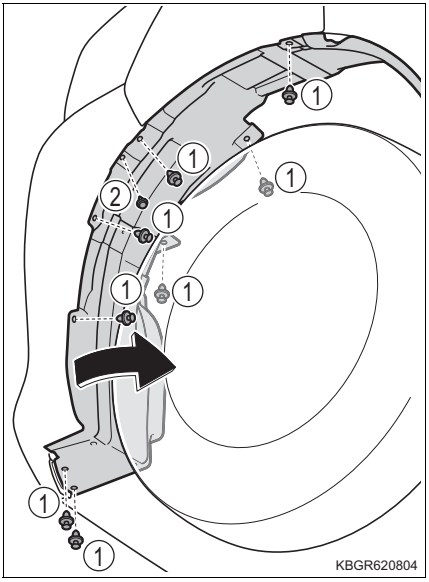
② 後退灯

③ 番号灯

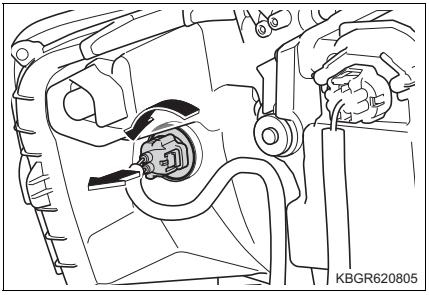
電球交換のしかた

■ フロント方向指示／非常点滅灯

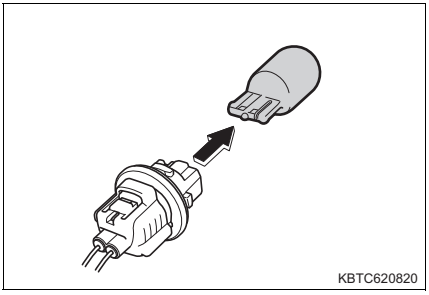
1 クリップ（①）8 個とボルト（②）1 本を取り外し、フェンダーライナーをめくる



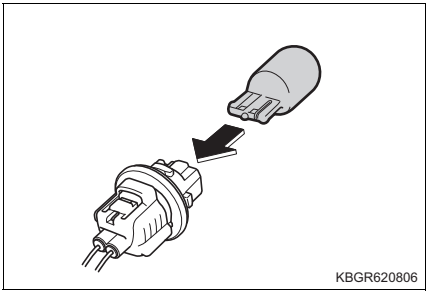
2 ソケットを回して取り外す



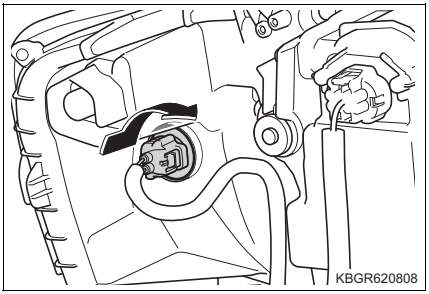
3 電球を取り外す



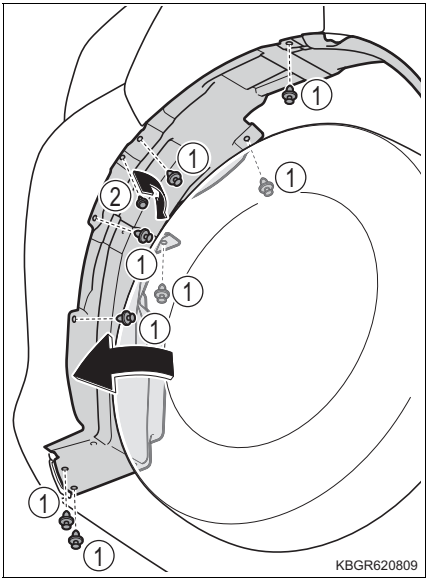
4 新しい電球を取り付ける



5 ソケットを回して取り付ける

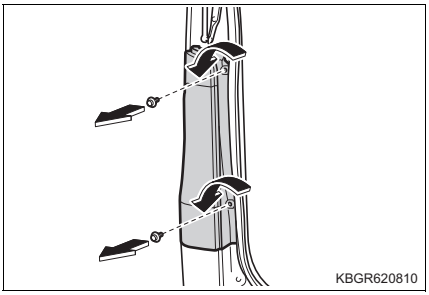


6 フェンダーライナーをもとに戻し、クリップ（①）8 個とボルト（②）1 本を取り付ける

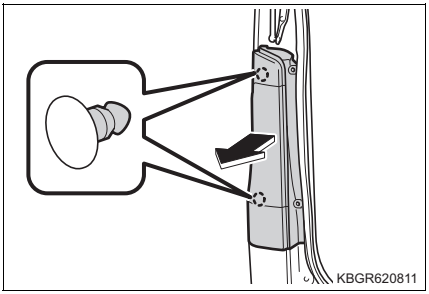


■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

1 バックドアを開けて、ボルト(2 本)を外す



2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるクリップ (2個) のかん合を外す

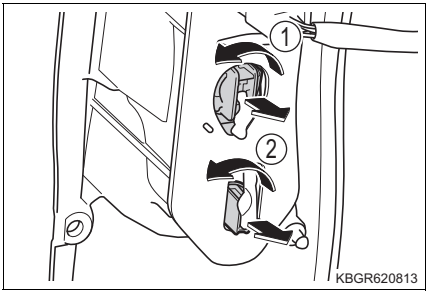


3 ソケットを取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯※

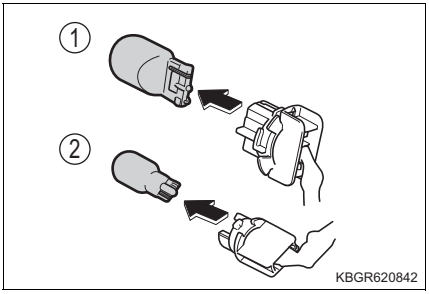
※ リヤフォグランプ装着車は、運転席側のランプ本体に後退灯はありません。



4 電球を取り外す

① リヤ方向指示／非常点滅灯

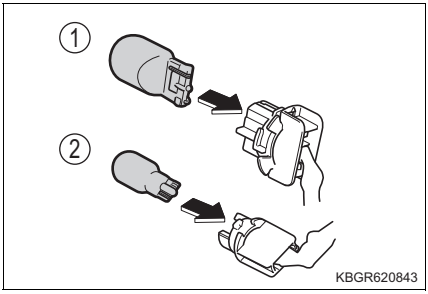
② 後退灯



5 電球を交換し取り付ける

① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

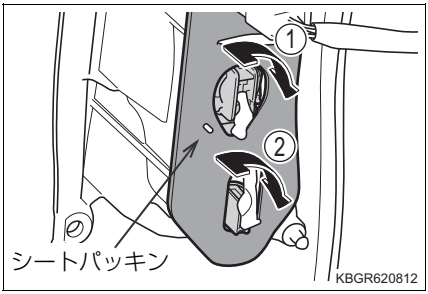


6 ソケットを取り付ける

① リヤ方向指示／非常点滅灯

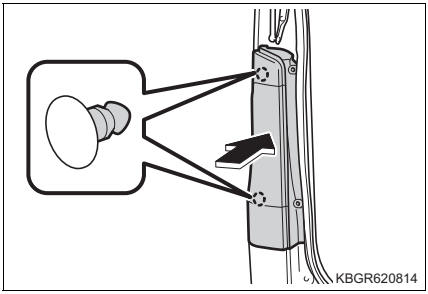
② 後退灯

ソケットを取り付けるときは、シートパッキンを傷付けないようにしてください。

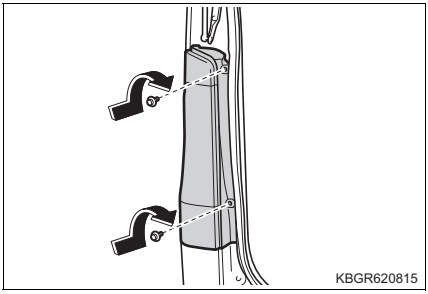


7 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のクリップと車両側の穴の位置を合わせ、ランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

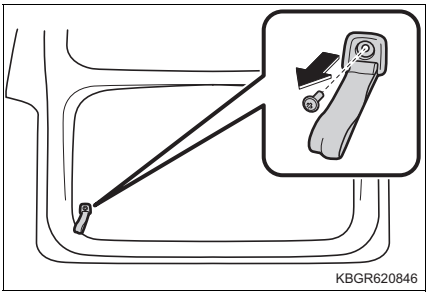


8 ボルト（2 本）を取り付ける



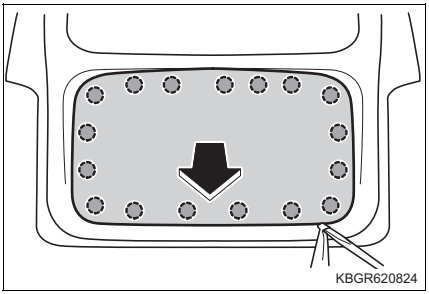
■ 番号灯

1 バックドアを開け、ネジ（1 本）を外し、バックドアストラップを取り外す

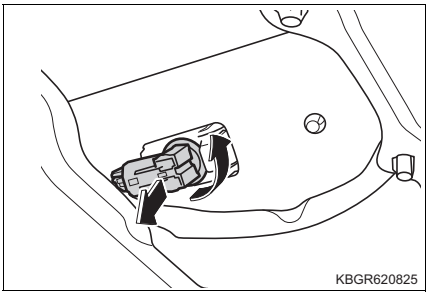

KBGR620846

2 マイナスドライバーなどを使って内部にあるクリップのかん合を外し、カバーを取り外す

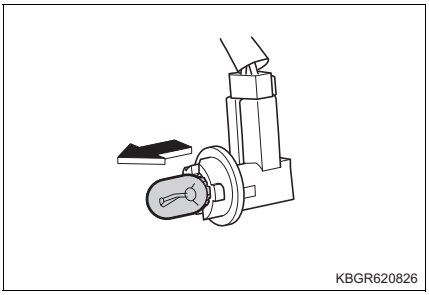
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。


KBGR620824

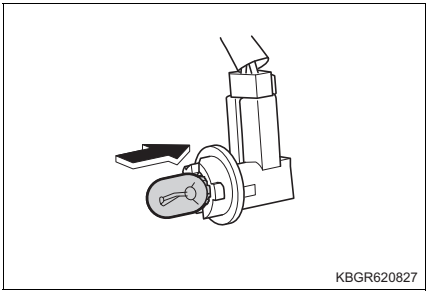
3 ソケットを回して取り外す


KBGR620825

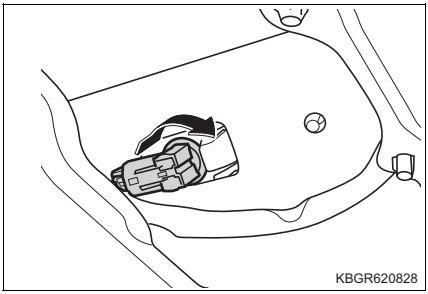
4 電球を取り外す


KBGR620826

5 新しい電球を取り付ける

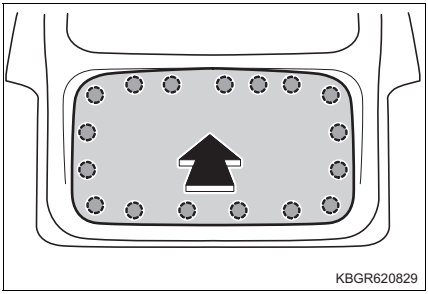

KBGR620827

6 ソケットを回して取り付ける

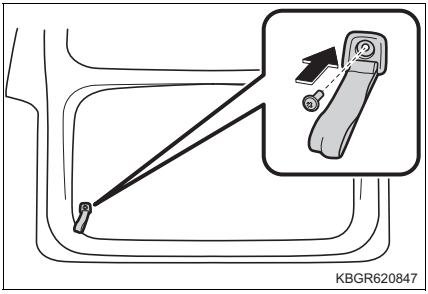

KBGR620828

7 カバーを取り付ける

カバー側のクリップと車両側の穴の位置を合わせ、カバーをまっすぐ押し込んでください。


KBGR620829

8 バックドアストラップを取り付け、ネジ（1 本）を取り付ける


KBGR620847

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、マツダ販売店で交換してください。

●ヘッドランプハイビーム／ロービーム

●車幅灯

●制動灯／尾灯

●ハイマウントストップランプ

●リヤフォグランプ★

知識

■LED ランプについて

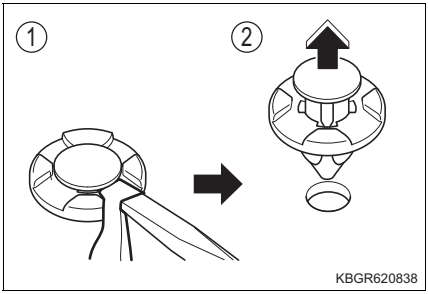
LED ヘッドランプ、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、マツダ販売店で交換してください。

■フロント方向指示／非常点滅灯を交換するときは

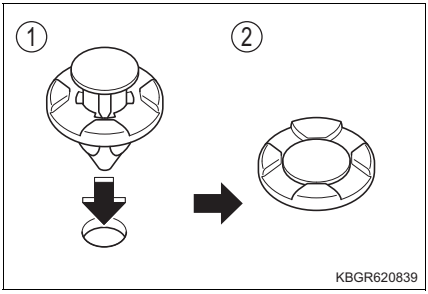
フェンダーライナーの固定クリップを外してから交換します。交換後は、必ずフェンダーライナーをクリップで固定して、しっかり取り付けてください。

●クリップを取り外すときは、マイナスドライバーなどを使ってクリップの中心部を引き出し（①）、クリップを引き抜いて（②）ください。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



●クリップを取り付けるときは、クリップを差し込み（①）、中心部を押して（②）ください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、マツダ販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 238

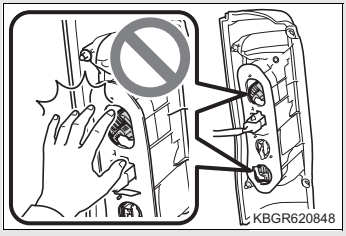
⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ●ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- ●電球のガラス部を素手で触れないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■後退灯、リヤ方向指示／非常点滅灯の電球を交換するときは

制動灯／尾灯、リヤフォグランプ★の消灯直後は、裏側の放熱板が高温になるため、触れないでください。やけどをすることがあります。



■お車の故障や火災を防ぐために

- ●電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- ●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは …… 252

非常点滅灯（ハザードランプ） …… 253

発炎筒 …… 254

車両を緊急停止するには … 256

水没・冠水したときは …… 257

車中泊が必要なときは …… 258

7-2. 緊急時の対処法

けん引について …… 259

フューエルポンプシャットオフシステム … 265

警告灯がついたときは …… 266

「スマアシ停止」が表示されたときは …… 271

パンクしたときは …… 272

エンジンがかからないときは …… 283

バッテリーがあがったときは …… 284

オーバーヒートしたときは …… 287

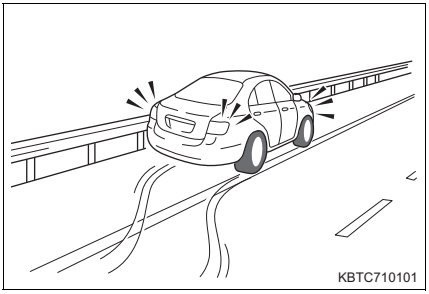
スタックしたときは …… 290

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 253）を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。


KBTC710101

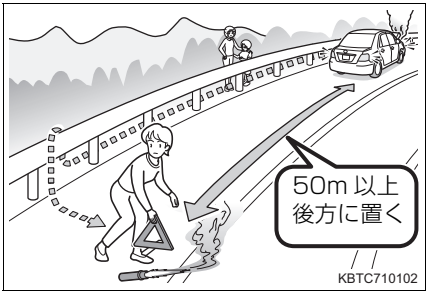
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

●同乗者を避難させる

●車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 254）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。

●その後、ガードレールの外側などに避難する



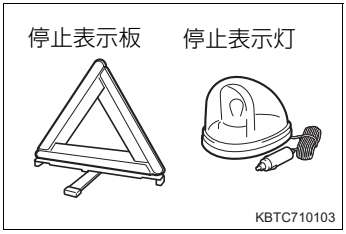
KBTC710102

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板のご購入については、マツダ販売店にお問い合わせください。



KBTC710103

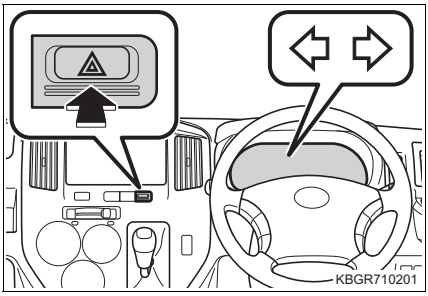
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

再度押すと消灯します。



⚠ 注意

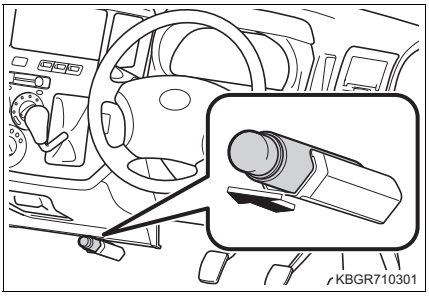
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

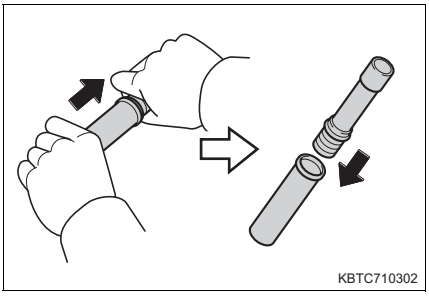
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

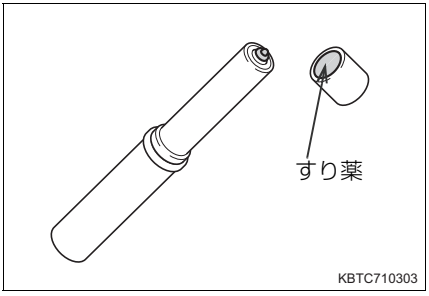
1 インストルメントパネル中央足元の発炎筒を取り出す



2 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



3 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、マツダ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶シフトレバーが N に入った場合

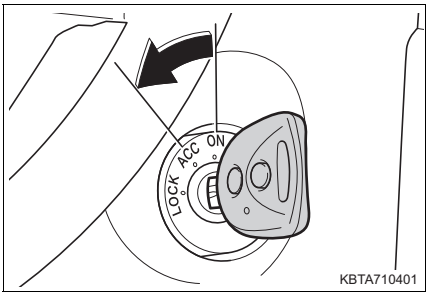
3 減速後、お車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。
冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。
車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※ の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはマツダ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

けん引は、できるだけマツダ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

⚠ 警告

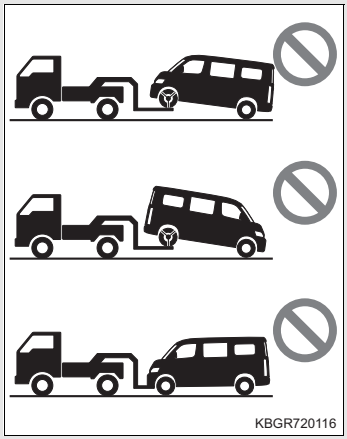
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

▶2WD 車
必ず４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、お車の向きが変わり事故につながったりするおそれがあります。

▶4WD 車
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。


KBGR720116

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを“OFF”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度は 30km/h 以下、距離 50km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用固縛位置について

フロント側の固縛位置で他車をけん引したり、リヤ側の固縛位置で他車に引っ張り出してもらったりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

けん引の前にマツダ販売店への連絡が必要な状況

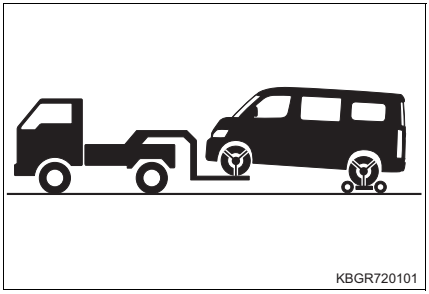
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、マツダ販売店または専門業者へご連絡ください。

●エンジンはかかるがお車が動かない

●異常な音がする

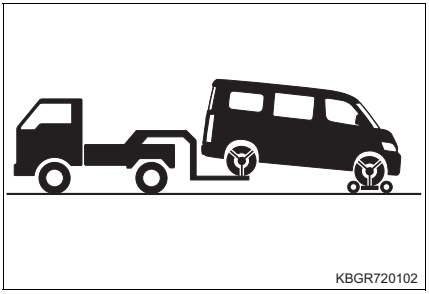
レッカー車でけん引するとき

▶前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶後ろ向きにけん引するときは

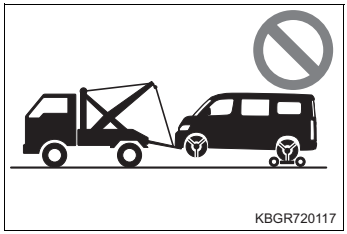


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

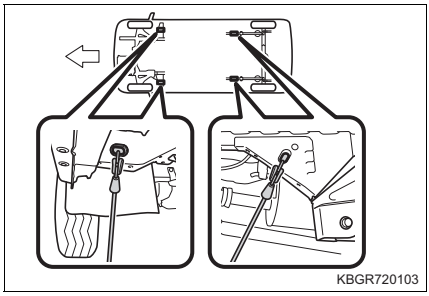
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

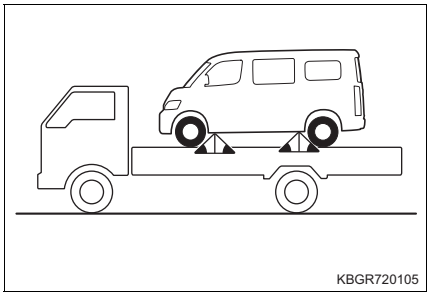

KBGR720117

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


KBGR720103

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する


KBGR720105

⚠ 注意

■ 車両運搬車にお車を固縛するとき

ケーブルなどを過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

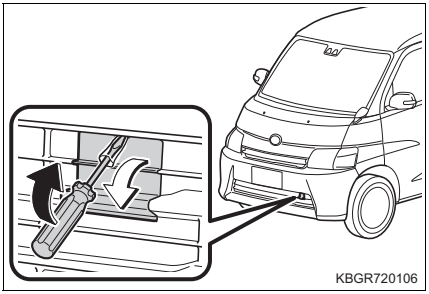
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 工具袋内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 273）

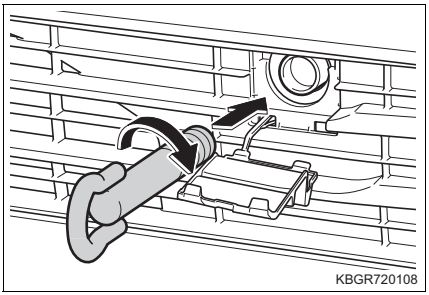
2 けん引フックを取り付ける

マイナスドライバーなどを使ってふたを外す

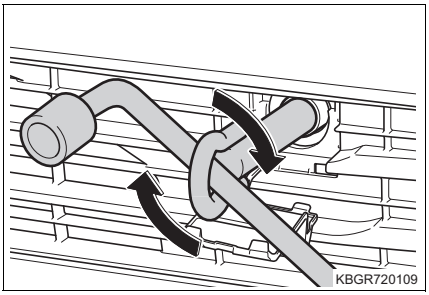
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



けん引フックを穴に差し込んで回し、軽く締める



ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

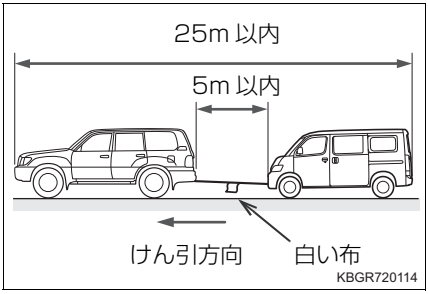


3 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

4 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは
（オートマチックトランスミッション車）：→ P. 104

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

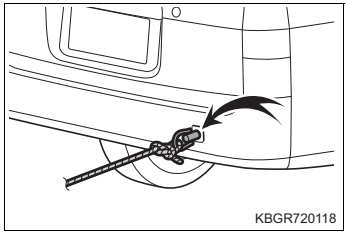
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

リヤシートの下に搭載されています。（→ P. 273）

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。

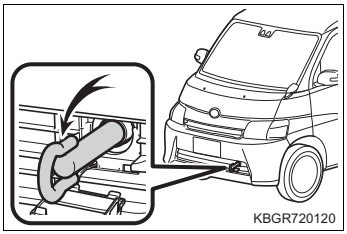


知識

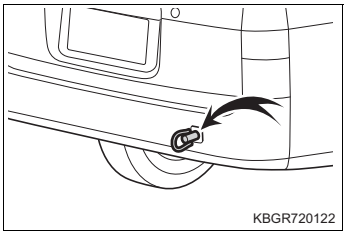
■輸送用固縛位置について

図に示す位置は船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。また、フロント側の固縛位置で他車をけん引したり、リヤ側の固縛位置で他車に引っ張り出してもらったりすることはできません。

▶フロント



▶リヤ

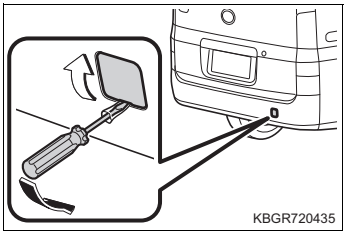


■リヤ側けん引フックを取り付けるには

輸送用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 工具袋内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 273）

2 マイナスドライバーなどを使ってふたを外す
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に差し込んで回し、軽く締める

4 ホイールナットレンチや金属の長い棒などを使い確実に取り付ける

■けん引が終わったら

けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが停止してしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

1 エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 警告

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	**充電警告灯** 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。**
	**油圧警告灯** エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店へ連絡してください。**
	**エンジン警告灯** ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**O/D OFF 表示灯★** オートマチックトランスミッションの異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
	**ABS 警告灯** ABS の異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （赤色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
※2  （黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。**
 （黄色）	**オートハイビーム警告灯** オートハイビームの異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）  （点滅）  ※3 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** **スマートアシスト故障警告灯** スマートアシストの一部機能の異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
 （点灯）  （点灯） 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **スマートアシスト停止警告灯** スマートアシストの機能停止 **→ 表示された各機能停止コードごとに対処してください。** **（→ P. 271）**
 	**コーナーセンサー表示灯（警告ブザー）** **マスターウォーニング** コーナーセンサーの異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**スリップ表示灯** • ブレーキアシストの異常 • VSC システムの異常 • TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 179） • ヒルホールドシステム★の異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
 **（点滅）**	**eco IDLE OFF 表示灯** • eco IDLE システムの異常 • スターターの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 161） **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
※4  **（点滅→消灯）**	**eco IDLE OFF 表示灯** バッテリーの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 161） **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
 **（点滅）**	**ブレーキオーバーライドシステム警告灯** ブレーキオーバーライドシステム異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール警告灯★** ドライブスタートコントロールの異常 **→ マツダ販売店で点検を受けてください。**
 **（点灯）**	**ブレーキオーバーライドシステム警告灯** ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離す** **ドライブスタートコントロール警告灯★** ドライブスタートコントロールの作動時 **→ ただちにアクセルペダルから足を離す**
	**半ドア警告灯（警告ブザー※5）** いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が約 6.5L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※6（警告ブザー※7）** 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	**パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※8）** パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

※3 「スマアシ故障」の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。

※5 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにブザーが鳴ります。

※6 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※7 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※8 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた **→ 運転席ドアを閉める**
連続音（約 5 秒間）	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音	 （高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中にクラッチペダル★を踏み込まずにシフトレバーを N 以外にした **→ クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動するか、シフトレバーを N にする**

知識

■半ドア警告灯が点灯したときは

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチを “ACC” または “OFF” でドアを開けたまま約 10 分が経過すると、警告灯が自動で消灯します。

⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「スマアシ※ 停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

※ “スマアシ” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

機能停止コード一覧

機能停止コード	警告内容・対処方法
スマアシ停止 11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない **→ 原因状態が解消されると復帰**
スマアシ停止 12E	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった **→ 原因状態が解消されると復帰**
スマアシ停止 14E	スマートアシスト初期学習中 **→ しばらく走行すると復帰**
スマアシ停止 15E	雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ停止 16E	フロントワイパーを “高速” で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**

知識

■機能停止コードについて

- ●処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
  通常の走行に支障はありませんが、マツダ販売店で点検を受けてください。
- ●「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- ●「11E」はシフトレバーが R 以外のときに表示します。
- ●「15E」「16E」はシフトレバーが R のときに表示します。
- ●「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- ●グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 223 を参照してください）

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する

●パーキングブレーキをかける

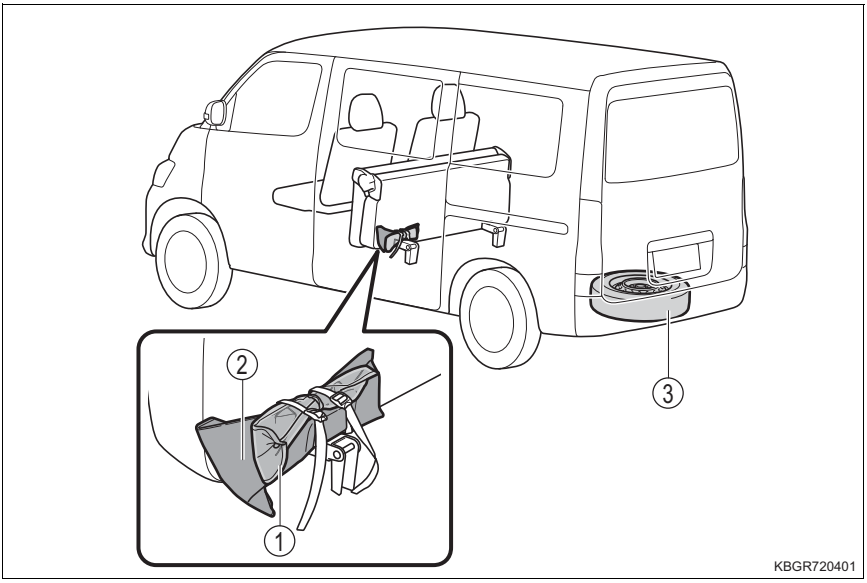
●オートマチックトランスミッション車はシフトレバーを P にする

●マニュアルトランスミッション車はシフトレバーを R にする

●エンジンを停止する

●非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



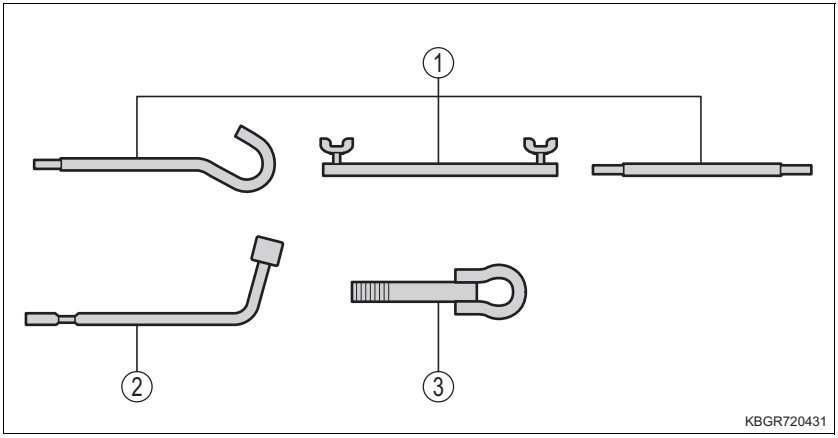
① 工具袋

② ジャッキ

③ スペアタイヤ

工具

工具袋の中に収納されています。(→ P. 273)



① ジャッキハンドル
② ホイールナットレンチ
③ けん引フック

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ジャッキはタイヤ交換･タイヤチェーン取り付け･取り外し以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ●ジャッキはジャッキセット位置（→ P. 278）に正しくかける
- ●ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- ●お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- ●車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- ●お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ●お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- ●お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

■ジャッキハンドルを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。(→ P. 277)

⚠ 注意

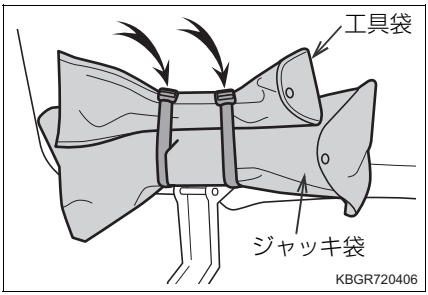
■ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルはジャッキに対し、まっすぐにして回してください。まっすぐにして回さないと、ジャッキハンドルおよびジャッキが破損するおそれがあります。

ジャッキと工具の取り出し方

1 リヤシートを格納する（→ P. 72）

2 バンドをゆるめて工具袋とジャッキ袋を取り出す



知識

■ジャッキを収納するには

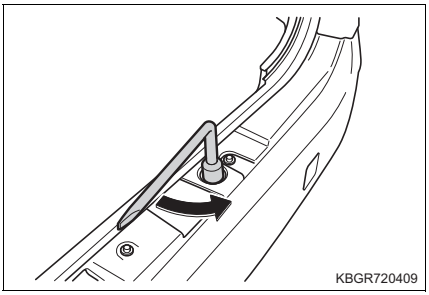
使用後はもとの位置に戻し、確実に固定してください。

スペアタイヤの取り出し方

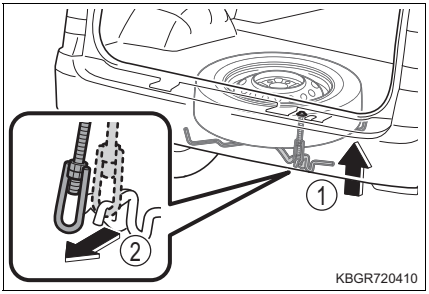
1 バックドアを開ける（→ P. 66）

2 ボルトをホイールナットレンチでゆるめる

格納具をフックから取り外せるくらいまでゆるめてください。



3 格納具を持ち上げ（①）、フックから外す（②）



4 格納具を地面におろし、スペアタイヤを両側から持ち、手前に引き出す

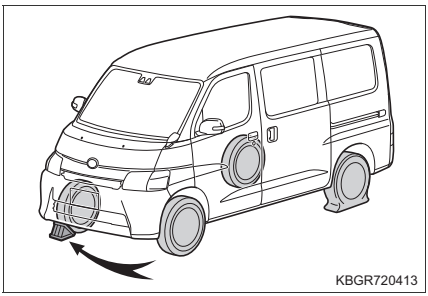
スペアタイヤを少し引き出すと、スペアタイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

5 格納具を一旦もとに戻す

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けて、もとに戻してください。

パンクしたタイヤの交換

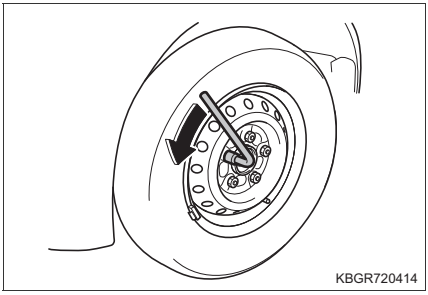
1 輪止め※ をする


KBGR720413

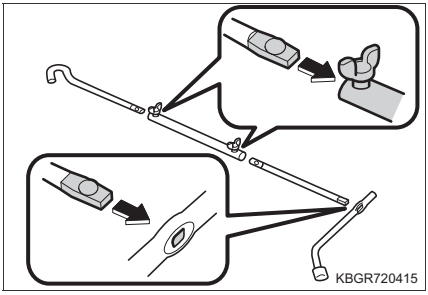
※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

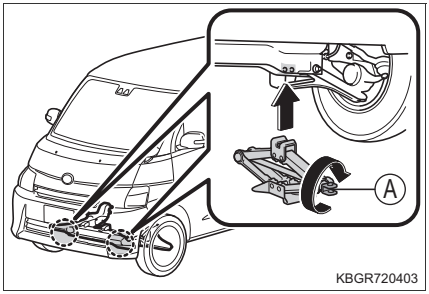

KBGR720414

3 ジャッキハンドルを組み立てる

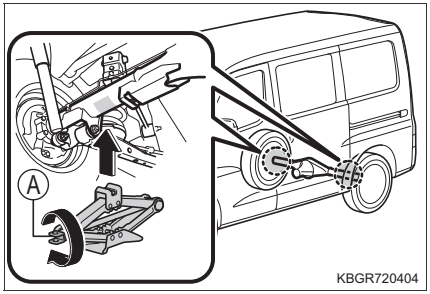

KBGR720415

4 ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキセット位置にしっかりかける

▶フロント側ジャッキセット位置



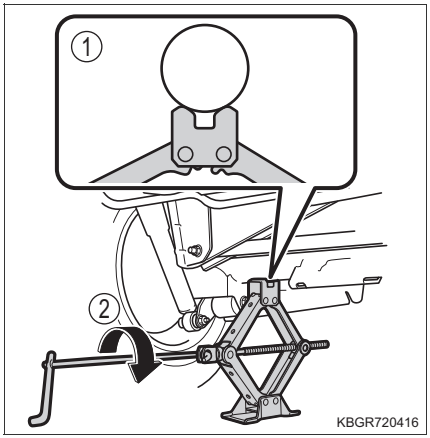
▶リヤ側ジャッキセット位置



5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

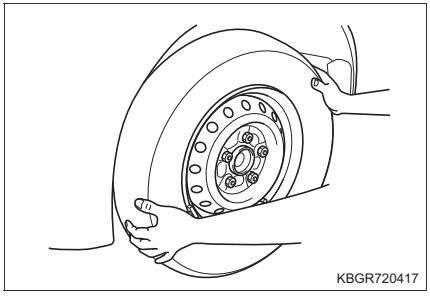
① リヤ側は、ジャッキを車軸に対して直角に合わせ、ジャッキ頭部の中心と車軸の中心が合うようにセットする

② ジャッキハンドルはジャッキに対し、まっすぐにして回す



6 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ネジ部やナットのテーパー部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
- タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、マツダ販売店で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

■スペアタイヤを取り出すときは

●格納具からスペアタイヤを取り出すときは、足を挟んだりしないように注意してください。
また、取り付けるときはしっかりと固定してください。走行中に外れ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

●格納具からタイヤを落とすなどして、手や腕・足を挟まないように注意してください。

●スペアタイヤはジャッキアップする前に必ず取り出してください。ジャッキアップしたあとにスペアタイヤを取り出すと、作業中にジャッキが外れるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

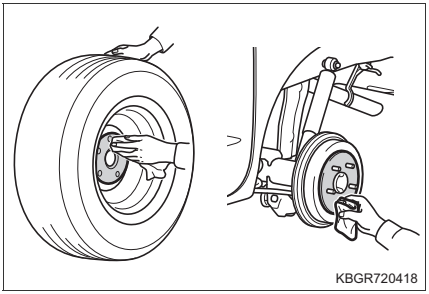
●格納具のボルトをホイールナットレンチで回すときは、ゆっくりと回してください。勢いでホイールナットレンチが車体に当たり傷付いたり、手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●スペアタイヤを取り出すときは、スペアタイヤ上面とボデーの間に手を入れないでください。思わぬけがをするおそれがあります。また、排気管に手や足などを触れないよう注意してください。走行直後の排気管は高温になっているため、手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

スペアタイヤの取り付け

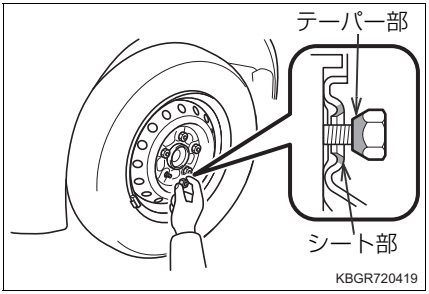
1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。


KBGR720418

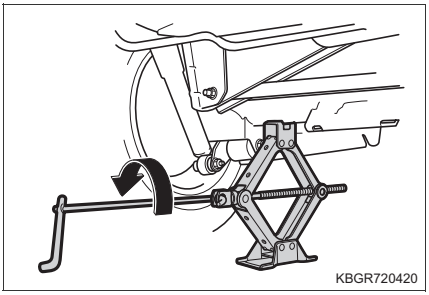
2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す



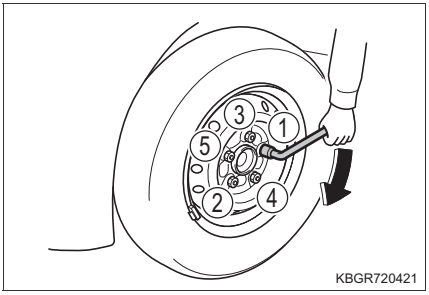
KBGR720419

3 車体を下げる


KBGR720420

4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



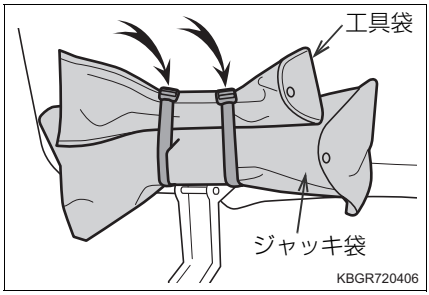
KBGR720421

5 すべての工具・ジャッキ、パンクしたタイヤを収納する

ジャッキと工具の格納

1 ジャッキをジャッキ袋に入れる

2 ジャッキ袋に工具袋を載せてバンドを締め付け、リヤシートのクッションに固定する



3 リヤシートをもとに戻す（→ P. 72）

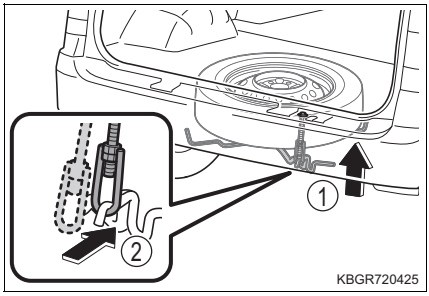
スペアタイヤの格納

1 タイヤを格納具に載せる

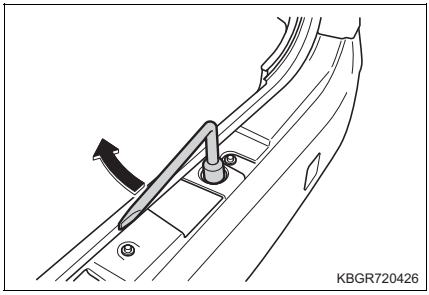
ホイールの意匠面を上にして、タイヤを格納具の一番奥（支柱）に当たるまで押し込みます。

2 格納具を持ち上げ（①）、フックをかける（②）

格納具を持ち上げて、タイヤがボデー側に収まっていることを確認してからフックをかけてください。



3 ボルトをホイールナットレンチで締め付ける



4 バックドアを閉める（→ P. 67）

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→ P. 296）

⚠ 警告

■スペアタイヤを使用するとき

お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

■スペアタイヤを収納するとき

●ボデーとスペアタイヤとの間に、指などを挟まないように注意してください。

●取り付け状態を十分確認してください。

取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に脱落して思わぬ事故の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 100）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

●燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

●燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 100）に従って、エンジンをかけてください。

●エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 39）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 284）

●バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 284）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、マツダ販売店にご連絡ください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

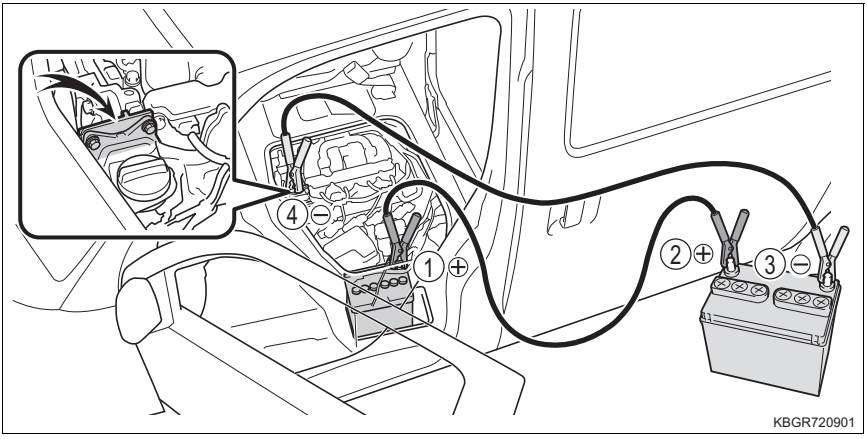
1 バッテリーの＋端子のカバーを外し、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ



2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

3 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける

4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

エンジンがかかっても、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはマツダ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- ●バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 警告

■バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

●水温計（→ P. 47）の針がレッドゾーンに入った

●エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）

●エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

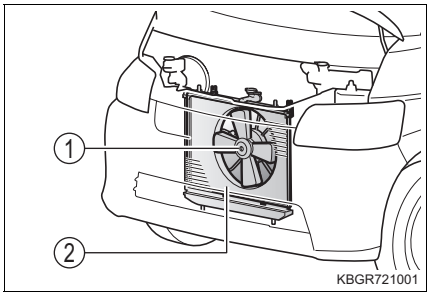
2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットとエンジン点検口を開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン

② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにマツダ販売店に連絡してください。



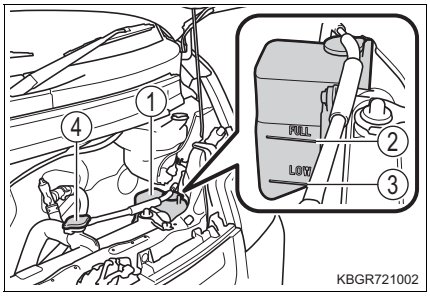
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

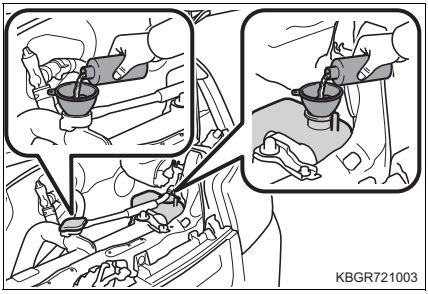
③ “LOW”（下限）

④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、マツダ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのマツダ販売店で点検を受ける

知識

■冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■処置を行う前に

水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットとエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●ボンネット（→ P. 216）・エンジン点検口（→ P. 213）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- ●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチックトランスミッション車は P、マニュアルトランスミッション車は N にして、エンジンを停止する
2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
3 タイヤの下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 4WD 車は、センターデフロックスイッチを ON にする（→ P. 176）
6 シフトレバーをオートマチックトランスミッション車は D または R、マニュアルトランスミッション車は 1 速または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。（→ P. 179, 180）

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 292
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 297
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 …… 300

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	43

エンジンオイル

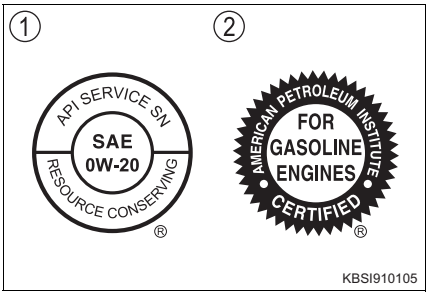
指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： マツダ純正モーターオイルゴールデン ECO 7 0W-20 — API SN, ILSAC GF-5, SAE 0W-20	3.3	3.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

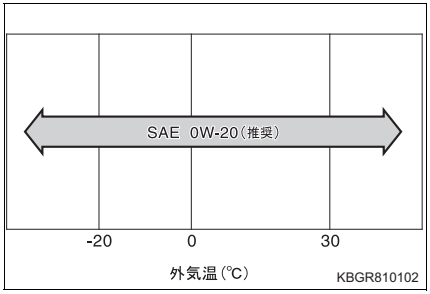
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	トランスミッション	リヤヒーター	容量［L］（参考値）
マツダ純正スーパーロングライフクーラント PINK 凍結保証温度 濃度 55%　－ 40 ℃	マニュアル	あり	8.0
		なし	7.0
	オートマチック	あり	8.2
		なし	7.2

オートマチックトランスミッション★

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
アミックス ATF D3-SP	4.38

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はマツダ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランスファー（オートマチックトランスミッション車の 4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3,SAE 75W-90）	1.6

マニュアルトランスミッション＆トランスファー（マニュアルトランスミッション車）

指定銘柄（推奨粘度）	駆動方式	容量［L］（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3,SAE 75W-90）	2WD 車（後輪駆動）	1.1
	4WD 車（4 輪駆動）	2.4

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	項目	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5,SAE 85W-90）	フロント（4WD 車）	0.47
	リヤ	2.35

ファンベルト

自動調整式のため点検不要です。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
マツダ純正ブレーキフルード BF-3 SKYACTIV-HYBRID

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	124

※ エンジン回転時に 294 N(30 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 196N（20kgf）のときのノッチ※ 数	9～12

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

クラッチ（マニュアルトランスミッション車）

■ クラッチフルード

指定銘柄
マツダ純正ブレーキフルード BF-3 SKYACTIV-HYBRID

■ クラッチペダル

項目	基準値［mm］
遊び	3～20
踏み込んだときの床板とのすき間※	20 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

バッテリー

型式
N-55R

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
165/80R14 97/95Q LT	14×5J	軽積載時	220（2.2）	260（2.6）
		定積載時	220（2.2）	450（4.5）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	ルームランプ	8
	ラゲージルームランプ	8

※表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
S403Z	2NR-VE（ガソリン）	2WD 車（後輪駆動）
S413Z		4WD 車（4 輪駆動）

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてマツダ販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはマツダ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 58）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒

■ 衝突警報機能（→ P. 136）

機能の内容	初期設定	変更後
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い
		遅い

■ 車線逸脱警報機能（→ P. 154）

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い
車線逸脱警報機能の警報ブザー（音量）	大きい	小さい

■ 先行車発進お知らせ機能（→ P. 158）

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	遅い	標準
		早い
先行車発進お知らせ機能の警報ブザー（音量）	大きい	小さい

■ コーナーセンサー（→ P. 170）

機能の内容	初期設定	変更後
コーナーセンサーのブザー（音量）	レベル 2	レベル 1
		レベル 3

■ ランプ（→ P. 110）

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動

■ メーター（→ P. 53）

機能の内容	初期設定	変更後
メーター照明が夜照度になる感度	0	− 2 ～ 2

■ イルミネーション（→ P. 196）

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
室内灯が自動で消灯する	する	しない
エンジンスイッチ “OFF” 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし

■ フロントワイパー（→ P. 119）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー&ウォッシャー★（→ P. 121）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー（→ P. 108）

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの3回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ～ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 9

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワーウインドウ★	●バッテリーの充電・交換後の再接続 ●ヒューズ交換時	P. 83

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）…… 302
お車から音が鳴ったときは
（音さくいん）…… 305
アルファベット順さくいん …… 306
五十音順さくいん …… 307

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、マツダ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

●キーをなくした場合、マツダ販売店でマツダ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 56）

●キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにマツダ販売店にご相談ください。（→ P. 56）

施錠・解錠できない（ワイヤレスリモコン装着車）

●キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 234）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

●マニュアルトランスミッション車
クラッチペダルをしっかりと踏み込みながらエンジンスイッチを回していますか？（→ P. 100）

●オートマチックトランスミッション車
シフトレバーはＰになっていますか？（→ P. 100）

●ハンドルロックされていませんか？（→ P. 101）

●バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 284）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない（オートマチックトランスミッション車）

●エンジンスイッチが“ON”になっていますか？
エンジンスイッチが“ON”でブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 104）を参照してください。

エンジンを停止したあとにハンドルが回せなくなった

●盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 101）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない（パワーウインドウ装着車）

●ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 82）

警告音が鳴りだした

●警告音が鳴りだしたときは、「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 305）をご確認ください。

警告灯が点灯したとき

●警告灯が点灯したときは、（→ P. 266）をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

●お車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 272）



立ち往生した

●ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 290）

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

お車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが差してある	P. 101
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 112

走行しているとき

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 94

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）…… P. 190
ABS
（アンチロックブレーキシステム）…… P. 178
ACC
（アクセサリー）…… P. 100
EDR
（イベントデータレコーダー）…… P. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）…… P. 178
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）…… P. 292
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）…… P. 38
O/D
（オーバードライブ）…… P. 104
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）…… P. 29
TRC …… P. 178
VSC …… P. 178

五十音順さくいん

あ

アイドリングストップ …… 160
アイドリングストップ時間……50
eco IDLE（エコアイドル）…… 160
eco IDLE OFF スイッチ … 161
eco IDLE OFF 表示灯 …… 161
eco IDLE 表示灯 …… 160
アウターハンドル（ドアハンドル）……59
アウターミラー ……79
調整……79
アクセサリーソケット …… 203
アシストグリップ …… 204
アンチロックブレーキシステム（ABS）…… 178
アンテナ …… 206

い

イグニッションスイッチ …… 100
位置交換（タイヤローテーション）…… 223
イベントデータレコーダー（EDR）…… 8
イモビライザー機能 ……39
イルミネーテッドエントリーシステム（ドア連動）
カスタマイズ機能…… 297
作動について…… 197
点灯する部位…… 196
インジケーター ……44
インナーミラー（ルームミラー）……78

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 …… 240
方向指示レバー …… 108
ワット数 …… 296
ウインドウ…… 82
ウォッシャー ……119, 121
手動式ウインドウ …… 85
パワーウインドウ …… 82
リヤウインドウデフォッガー …… 191
ウインドウロックスイッチ（パワーウインドウOFF スイッチ）…… 82
ウォッシャー……119, 121
液の補給 …… 221
スイッチ ……119, 121
タンク容量 …… 295
冬の前の準備・点検 …… 184
ウォーニングランプ（警告灯）…… 266
動けなくなったときは（スタックした）…… 290
運転…… 88
寒冷時の運転 …… 184
正しい運転姿勢 …… 22
手順 …… 88
運転席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 269

え

エアコン
フィルターの交換…… 228
マニュアルエアコン…… 190
リヤヒーター…… 195
エアバッグ …… 29
SRS エアバッグ警告灯 …… 266
作動条件…… 32
配置…… 29
エマージェンシーストップシグナル（緊急ブレーキシグナル） …… 178
エンジン
イグニッションスイッチ…… 100
エンジンがかからない…… 283
エンジン警告灯…… 266
エンジンスイッチ…… 100
オーバーヒート…… 287
かけ方…… 100
点検口…… 213
ボンネット…… 216
エンジンイモビライザーシステム 表示灯（セキュリティ表示灯）… 39
エンジンオイル …… 292
定期点検…… 220
冬の前の準備・点検…… 184
メンテナンスデータ…… 292
油圧警告…… 266
エンジンスイッチ
操作方法…… 100

お

オイル
油脂類の容量と銘柄 …… 292
お子さまを乗せるとき…… 35
ウインドウロックスイッチ（パワーウインドウ OFF スイッチ）…… 82
エアバッグに関する警告 …… 29
お子さまのシートベルト着用 …… 27
お子さまを乗せるときの警告 …… 27
キーの電池に関する警告 … 235
シートベルトに関する警告 … 27
チャイルドシート …… 36
発炎筒の取り扱いに関する警告 …… 255
バックドアに関する警告 …… 67
バッテリーに関する警告 … 285
パワーウインドウに関する警告 …… 83
お手入れ
外装 …… 206
シートベルト …… 210
内装 …… 210
オドメーター…… 50
機能 …… 50
表示切り替えスイッチ …… 49
オートハイビーム…… 114
オートマチックトランスミッション
オートマチックトランスミッション …… 103
シフトレバーがシフトできない …… 104
オートライト（自動点灯・消灯機能）…… 110
オーバーヒート…… 287

オープナー
給油口…… 125
ボンネット…… 216

か

外装の電球（バルブ） …… 240
交換要領…… 240
ワット数…… 296
カスタマイズ機能 …… 297
ガソリンスタンドでの
情報 …… 322
型式 …… 296
カップホルダー …… 200
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウ
デフォッガー）…… 191
ガレージジャッキ …… 219
冠水路走行 ……97
寒冷時の運転 …… 184
カーペット …… 210
洗浄…… 210
フロアマットの取り付け方……20

き

給油 …… 123
給油のしかた…… 125
メンテナンスデータ…… 292
緊急時のシートベルト固定機構 …25
緊急時の対処
イベントデータレコーダー
（EDR）…… 8
エンジンがかからない…… 283
オーバーヒートした…… 287
キーの電池が切れた…… 234
キーを失くした……56
警告灯がついた…… 266
けん引…… 259
故障したときは…… 252
車中泊が必要なときは …… 258
車両を緊急停止する …… 256
水没したときは …… 257
スタックした …… 290
発炎筒 …… 254
バッテリーがあがった …… 284
パンクした …… 272
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 253
緊急ブレーキシグナル
（エマージェンシー
ストップシグナル） …… 178
キー…… 56
イグニッションスイッチ … 100
エンジンが始動できない … 283
エンジンスイッチ …… 100
キーナンバープレート …… 56
キーの構成 …… 56
キーの電池が切れた …… 234
キーレスエントリー …… 58
キーを失くした …… 56
正常に働かない …… 58
電池交換 …… 234
ワイヤレスリモコン …… 58
キーレスエントリー
（ワイヤレス機能）…… 58
ワイヤレスドアロック …… 58

く

空気圧（タイヤ） …… 296
空調（エアコン）
フィルターの交換…… 228
マニュアルエアコン…… 190
リヤヒーター…… 195
区間距離計
（トリップメーター） ……50
機能……50
表示切り替えスイッチ……49
曇り取り
フロントウインドウガラス… 191
リヤウインドウ
デフォッガー …… 191
クラクション（ホーン） ……77
クリアランスランプ
（車幅灯） …… 110
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 110
電球（バルブ）の交換…… 240
クリップ
フロアマット……20
クリーンエアフィルター …… 228
グローブボックス …… 199

け

警音器（ホーン）…… 77
計器類（メーター）…… 47
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 49
警告灯…… 266
アンチロックブレーキシステム
（ABS）…… 266
運転席シートベルト
締め忘れ …… 269
eco IDLE OFF 表示灯 …… 268
SRS エアバッグ…… 266
エンジン …… 266
オートハイビーム …… 267
オートマチック
トランスミッション …… 266
車線逸脱警報 OFF 表示灯… 267
充電 …… 266
助手席シートベルト
締め忘れ …… 269
スマートアシスト
OFF 表示灯 …… 267
スマートアシスト故障 …… 267
スリップ表示灯 …… 268
ドライブスタート
コントロール …… 268
燃料残量 …… 268
パワーステアリング …… 267
半ドア …… 268
パーキングブレーキ
未解除 …… 269
プリテンショナー …… 266
ブレーキ …… 266
ブレーキオーバーライド
システム …… 268
マスターウォーニング …… 267
油圧 …… 266

警告ブザー
運転席シートベルト
締め忘れ …… 269
eco IDLE …… 166, 270
キー抜き忘れ…… 101
コーナーセンサー…… 170
車線逸脱警報機能…… 132
衝突回避支援ブレーキ機能… 132
衝突警報機能…… 132
助手席シートベルト
締め忘れ …… 269
先行車発進お知らせ機能…… 133
パワーステアリング…… 267
半ドア走行時…… 268
パーキングブレーキ
未解除走行時 …… 269
ブレーキ…… 266
ブレーキ制御付誤発進抑制機能
（前方・後方）…… 132
ランプ消し忘れ…… 112
リバース…… 105
けん引
けん引されるとき…… 259
フック…… 262

こ

交換
エアコンフィルター …… 228
キーの電池 …… 234
タイヤ …… 272
電球（バルブ）…… 240
ヒューズ …… 237
ワイパーゴム …… 230
工具（ツール）…… 273
光軸調整ダイヤル…… 111
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 …… 240
ワット数 …… 296
コンライト
（自動点灯・消灯装置）…… 110
コーナーセンサー…… 170

さ

サイドアンダーミラー…… 80
サイドミラー（ドアミラー）…… 79
操作 …… 79
サンバイザー…… 202

し

室内灯（インテリアランプ） … 196
ラゲージルームランプ…… 197
ルームランプ…… 196
ワット数…… 296
始動のしかた …… 100
シフトポジション …… 103
シフトレバー
オートマチック
トランスミッション …… 103
シフトレバーが
シフトできない …… 104
マニュアル
トランスミッション …… 106
リバース警告ブザー…… 105
シフトロックシステム …… 104
車線逸脱警報機能 …… 154
車速
スピードメーター……47
車中泊が必要なときは …… 258
ジャッキ
ガレージジャッキ…… 219
車載ジャッキ…… 273
タイヤ交換…… 272
ジャッキハンドル …… 273
車幅灯 …… 110
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 110
電球（バルブ）の交換…… 240
車両カスタマイズ機能 …… 297
車両型式 …… 296
車両仕様（スペック） …… 296
車両データの記録 …… 7
車両を緊急停止するには …… 256
収納装備 …… 198
手動光軸調整ダイヤル …… 111
仕様（車両仕様） …… 296
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者）…… 136
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）…… 136
初期設定…… 300
パワーウインドウ …… 83
助手席シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 269
シート
お手入れ …… 211
シートに関する警告 …… 70
シートの調整に関する
警告 …… 70, 72
正しい運転姿勢 …… 22
チャイルドシート …… 36
調整 …… 70
フロントシート …… 70
ヘッドレスト …… 74
リヤシート …… 72
シートベルト…… 24
お子さまの着用 …… 27
お手入れ …… 210
緊急時のシートベルト
固定機構 …… 25
シートベルト
締め忘れ警告灯 …… 269
正しく着用するには …… 24
着け方・外し方 …… 24
妊娠中の方の着用 …… 27
シートベルト締め忘れ警告灯… 269
シートベルトプリテンショナー… 25
機能 …… 25
プリテンショナー警告灯 … 266

す

スイッチ
アイドリングストップシステム（eco IDLE） …… 161
イグニッション…… 100
ウインドウロック……82
ウォッシャー…… 119, 121
エンジンスイッチ…… 100
スマートアシスト OFF スイッチ…… 130
センターデフロック…… 176
パワーウインドウ……82
非常点滅灯（ハザードランプ）…… 253
VSC・TRC OFF …… 179
フォグランプ…… 118
メーター操作スイッチ……49
ラゲージルームランプ…… 197
ランプスイッチ（ライトスイッチ）…… 110
リヤウインドウデフォッガー …… 191
リヤヒーター…… 195
ルームランプ…… 196
ワイパー…… 119, 121
スタック …… 290
スターター
エンジンの始動…… 100
スターターが回らない…… 283
ステアリングホイール（ハンドル） ……77
パワーステアリング警告灯… 267
ステレオカメラ …… 129
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換…… 240
スノータイヤ（冬用タイヤ） … 184
スピードメーター ……47
スペアタイヤ
空気圧 …… 296
収納場所 …… 273
スペック（車両仕様）…… 296
スマートアシスト…… 127
スマートアシスト機能停止コード …… 271
スモールランプ（車幅灯）…… 110
電球（バルブ）の交換 …… 240
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 110
ワット数 …… 296
スライドドア…… 62
ドアガラス …… 85
半ドア警告灯 …… 268
ロックボタン …… 62

せ

清掃
外装 …… 206
シートベルト …… 210
内装 …… 210
制動灯
電球（バルブ）の交換 …… 240
積算距離計（オドメーター）…… 50
機能 …… 50
表示切り替えスイッチ …… 49
セキュリティ表示灯…… 39
先行車発進お知らせ機能…… 158
洗車…… 206
前照灯（ヘッドランプ）…… 110
手動光軸調整ダイヤル …… 111
電球（バルブ）の交換 …… 240
ライトセンサー …… 112
ランプ消し忘れ警告ブザー …… 112
ランプ消し忘れ防止機能 … 112

ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 110
センテーデフロック …… 176

そ

速度計
（スピードメーター）……47
ソナー …… 129, 170

た

タイヤ …… 223
空気圧…… 296
交換…… 272
締め付けトルク…… 280
点検…… 223
パンクしたときは…… 272
冬用タイヤ…… 184
ホイールサイズ…… 296
ローテーション
（位置交換）…… 223
タイヤが空回りする
（スタックした） …… 290
タイヤチェーン …… 184
ターンシグナルランプ
（方向指示灯） …… 108
電球（バルブ）の交換…… 240
方向指示レバー…… 108
ワット数…… 296

ち

チェンジレバー（シフトレバー）
オートマチック
トランスミッション …… 103
シフトレバーが
シフトできない …… 104
マニュアル
トランスミッション …… 106
リバース警告ブザー …… 105
チェーン（タイヤチェーン）… 184
チャイルドシート…… 36
選択方法 …… 36
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）…… 109
操作 …… 109
未解除走行時警告ブザー … 269
メンテナンスデータ …… 292

つ

ツール（工具）…… 273

て

デフォッガー
フロントガラス …… 191
リヤウインドウ
デフォッガー …… 191
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）…… 240
ワット数 …… 296
点検基準値
（メンテナンスデータ）…… 292
電池交換（キー）…… 234
テールランプ（尾灯）…… 110
電球（バルブ）の交換 …… 240
ランプスイッチ
（ライトスイッチ） …… 110

と

ドア …… 59
　ドアガラス……82, 85
　半ドア警告灯…… 268
　ロックレバー
　（パワードアロック）……60
　ワイヤレスリモコン……58
ドアガラス ……82, 85
ドアハンドル
（アウターハンドル） ……59
ドアミラー ……79
　操作……79
ドア連動（イルミネーテッド
エントリーシステム）…… 197
盗難防止装置
　エンジンイモビライザー
　システム ……39
時計 ……49
時計の調整 ……50
トランスミッション …… 103, 106
　操作…… 103, 106
　メンテナンスデータ… 293, 294
トリップインフォメーション ……50
トリップメーター ……50
　機能……50
　表示切り替えスイッチ……49

な

内装
　お手入れ…… 210
　収納装備…… 198

に

荷物
　積むときの注意……98

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）…… 290

ね

燃料
　ガソリンスタンドでの
　情報 …… 322
　給油 …… 123
　種類 …… 292
　燃料計 …… 47
　燃料残量警告灯 …… 268
　容量 …… 292

は

排気ガス…… 34
ハイビーム（ヘッドランプ）… 110
　電球（バルブ）の交換 …… 240
　ランプスイッチ
　（ライトスイッチ） …… 110
　ワット数 …… 296
挟み込み防止装置
　パワーウインドウ …… 82
ハザードランプ
（非常点滅灯）…… 253
　スイッチ …… 253
　電球（バルブ）の交換 …… 240
　ワット数 …… 296
発炎筒…… 254
バックアップランプ（後退灯）
　電球（バルブ）の交換 …… 240
　ワット数 …… 296
バックドア…… 66
バッテリー
　バッテリーあがりを
　防止するために …… 286
　バッテリーがあがった …… 284

冬の前の準備・点検…… 184
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）… 240
ワット数…… 296
パワーウインドウ …… 82
ウインドウロックスイッチ（パワーウインドウOFF スイッチ）…… 82
閉めることができないときは …… 83
操作…… 82
挟み込み防止機能…… 82
パワーステアリング …… 178
パワーステアリング警告灯 …… 267
パワードアロック（ロックレバー） …… 60
パンクした …… 272
番号灯（ライセンスプレートランプ）…… 110
電球（バルブ）の交換…… 240
ランプスイッチ（ライトスイッチ）…… 110
ワット数…… 296
ハンドル（ステアリングホイール） …… 77
パワーステアリング警告灯… 267
ハンドルロック …… 101
パーキングブレーキ …… 109
操作…… 109
パーキングブレーキ未解除警告灯 …… 269
未解除走行時警告ブザー…… 269
メンテナンスデータ…… 292

ひ

非常点滅灯（ハザードランプ）…… 253
スイッチ …… 253
電球（バルブ）の交換 …… 240
ワット数 …… 296
尾灯（テールランプ）…… 110
電球（バルブ）の交換 …… 240
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 110
ヒューズ…… 237
表示灯…… 44
日よけ（サンバイザー）…… 202
ヒルホールドシステム…… 178
ヒーター
マニュアルエアコン …… 190
リヤヒーター …… 195

ふ

フォグランプ…… 118
スイッチ …… 118
電球（バルブ）交換 …… 240
ブザー
運転席シートベルト締め忘れ …… 269
eco IDLE……166, 270
キー抜き忘れ …… 101
コーナーセンサー …… 170
車線逸脱警報機能 …… 132
衝突回避支援ブレーキ機能 …… 132
衝突警報機能 …… 132
助手席シートベルト締め忘れ …… 269
先行車発進お知らせ機能 … 133
パワーステアリング …… 267
半ドア走行時 …… 268

パーキングブレーキ
未解除走行時 …… 269
ブレーキ…… 266
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）…… 132
ランプ消し忘れ…… 112
リバース…… 105
フック
けん引フック…… 262
フロアマット固定フック…… 20
冬の前の準備（寒冷時の運転） …… 184
冬用タイヤ …… 184
フューエルメーター（燃料計） …47
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた…… 123
ブレーキ
パーキングブレーキ…… 109
ブレーキ警告灯…… 266
メンテナンスデータ…… 294
ブレーキアシスト …… 178
機能…… 178
スリップ表示灯…… 268
ブレーキ制御付誤発進抑制機能 …… 146
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる …… 94
ブレーキフルード …… 294
フロアマット …… 20
フロントシート …… 70
お手入れ…… 211
正しい運転姿勢…… 22
調整…… 70
フロントシート調整に関する警告 …… 70
ヘッドレスト…… 74
フロントターンシグナルランプ …… 108
電球（バルブ）の交換 …… 240
方向指示レバー …… 108
フロント方向指示灯…… 108
電球（バルブ）の交換 …… 240
方向指示レバー …… 108
ブースターケーブルのつなぎ方 …… 284

へ

ヘッドランプ…… 110
手動光軸調整ダイヤル …… 111
電球（バルブ）の交換 …… 240
ライトセンサー …… 112
ランプ消し忘れ警告ブザー …… 112
ランプ消し忘れ防止機能 … 112
ランプスイッチ（ライトスイッチ） …… 110
ワット数 …… 296
ヘッドレスト…… 74

ほ

ホイール
交換 …… 272
メンテナンスデータ …… 296
ホイールナットレンチ…… 273
方向指示灯…… 108
電球（バルブ）の交換 …… 240
方向指示レバー …… 108
ワット数 …… 296
補給口（燃料） …… 123
保証…… 9
補助確認装置…… 80
ボンネット
開けかた …… 216
ホーン（警音器）…… 77

ま

マスターウォーニング …… 267
マニュアルエアコン …… 190
マニュアル
トランスミッション …… 106
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 49

み

ミラー
インナーミラー…… 78
サイドアンダーミラー…… 80
ドアミラー…… 79
リヤアンダーミラー…… 80

め

メンテナンスデータ …… 292
メーター（計器類） …… 47
警告灯…… 266
表示切り替えスイッチ…… 49
表示灯…… 44
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 49

ゆ

雪道で滑って動けない
（スタックした） …… 290
油脂類 …… 292
ユーザーカスタマイズ機能 …… 297

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） …… 110
電球（バルブ）の交換…… 240
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 110
ワット数…… 296
ライトセンサー …… 112
ラジエーター（冷却装置）
オーバーヒート …… 287
メンテナンスデータ …… 293
ランプ
室内灯 …… 196
前照灯（ヘッドランプ）…… 110
電球（バルブ）の交換 …… 240
非常点滅灯
（ハザードランプ） …… 253
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）…… 108
ライトセンサー …… 112
ラゲージルームランプ …… 197
ランプ消し忘れ防止機能 … 112
リヤフォグランプ …… 118
ルームランプ …… 196
ワット数 …… 296
ランプ消し忘れ防止機能…… 112
ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…… 110

り

リヤアンダーミラー…… 80
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ …… 191
リヤシート…… 72
リヤシートに関する警告 …… 72
リヤヒーター…… 195
リヤフォグランプ…… 118
スイッチ …… 118
リヤ方向指示灯…… 108
電球（バルブ）の交換 …… 240
方向指示レバー …… 108
ワット数 …… 296
リヤワイパー…… 121

る

ルームセパレーターバー …… 76
ルームミラー
（インナーミラー） …… 78
ルームランプ …… 196
スイッチ…… 196, 197
ワット数…… 296

れ

冷却水 …… 293
冬の前の準備・点検…… 184
メンテナンスデータ…… 293
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート…… 287
メンテナンスデータ…… 293
レバー
シフト…… 103, 106
方向指示…… 108
ボンネット解除…… 216
ロック（ドア）……60, 62

ろ

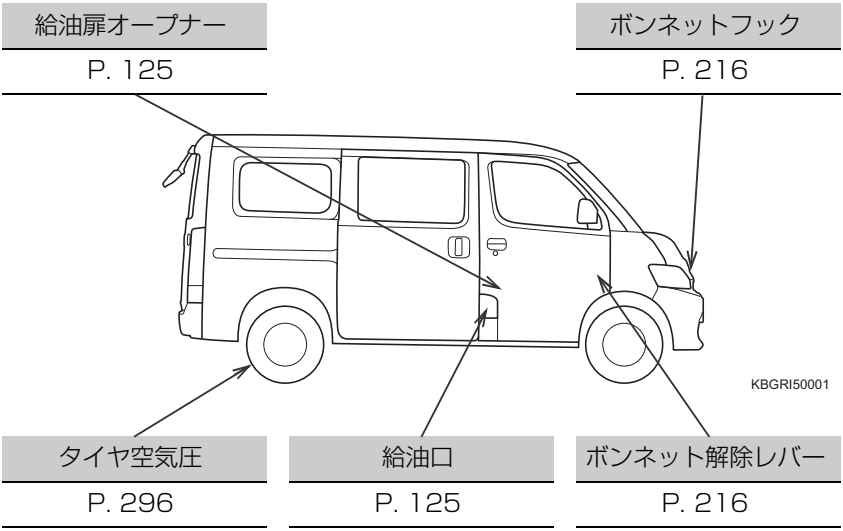
ロック
ウインドウロック……82
シフトロックシステム…… 104
ドア……59
ワイヤレスリモコン……59

わ

ワイパー＆
ウォッシャー …… 119, 121
ワイパーブレード
（寒冷地用） …… 186
ワイヤレスリモコン ……58
作動の合図……58
操作……59
電池交換…… 234
ワックス …… 206
ワット数…… 296

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	43L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	P. 123, 292
タイヤが冷えているときの空気圧		P. 296
エンジンオイル容量（参考値）		P. 292
エンジンオイルの種類		P. 292

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター

全国共通フリーダイヤル

0120-386-919

受付時間

平日　　9:00～17:00

土・日・祝日　9:00～12:00 13:00～17:00

携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(https://www.mazda.co.jp/)

発行元 **マツダ株式会社**

〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1

発行　2025年6月

印刷　2025年6月

324頁 初版

取扱書はご使用の前によくお読みください。
地球環境にやさしい印刷用紙を使用しています。

ヨク

01999-BZ413